

科学技術と倫理 (S)

13290

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀後半、科学研究とそれを応用した技術の飛躍的な進歩によって、人々の日常生活も急激に変化した。それらの発見の大部分は、一方で人々の生活を便利にするものであり、われわれの生活はこの50年ほどでそれ以前とは比較にならないほど豊かになったが、他方で環境、健康、安全などに関わる、それまでになかった問題も生まれている。

この授業では、科学技術の発展によって生じた倫理的諸問題を取り上げ考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 問題を考えるにあたって必要な知識を習得すること。
2. 倫理的諸問題について自分で考える態度を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要説明	
2	倫理学の基本的な原理(1)	功利主義
3	倫理学の基本的な原理(2)	カントの倫理学
4	倫理学の基本的な原理(3)	カントの倫理学
5	専門職としての科学者・技術者	専門職倫理
6	科学的発見・発明の先取権争い	科学的業績、知的所有権の正当化
7	科学者の盗作、捏造(1)	発表倫理、利益の衝突、ピア・レビュー
8	科学者の盗作、捏造(2)	オーサーシップ
9	内部告発の正当性	科学者・技術者による内部告発、正当化の条件
10	科学技術のリスク評価	定量的リスク分析、確率論的リスク分析、受け入れ可能なリスク
11	ビデオ(1)	内部告発、リスク評価
12	ビデオ(2)	内部告発、リスク評価
13	医学実験(1)	ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、治験、インフォームド・コンセント
14	医学実験(2)	無作為化臨床試験、二重盲検法、プラセボの使用
15	まとめ、期末テストの説明	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本概念の正しい理解と、授業内容の理解および扱われた倫理的問題に対する洞察力や問題意識を問う試験を実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業時に配布するレジュメに参考文献・ウェブサイトを記載するが、各自関心のある問題については積極的に調べてほしい。質問などある場合は、授業終了後に受け付ける。

教科書 / Textbooks

教科書は使用せず、毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
科学の倫理学	内井惣七 / 丸善株式会社 / 4-621-07054-1 /
背信の科学者たち	ウィリアム・ブロード / ニコラス・ウェイド / 講談社 / 4-06-257535-3 /
パブリッシュ・オア・ベリッシュ	山崎茂明 / みすず書房 / 4-622-07334-5 /
科学技術倫理を学ぶ人のために	新田孝彦 / 蔵田伸雄 / 石原孝二 [編] / 世界思想社 / 4-7907-1135-8 /
他に参考文献がある場合は、レジュメに記載する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

ジェンダー論 (SA)

13145

担当者名 / Instructor 堀江 有里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会的に構築された「性別」(ジェンダー)という視点から社会の構造を解説することである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」をつがうものとして認識する社会規範もあわせて持っている(「異性愛主義」)。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会のなかに、「性別二元論」や「異性愛主義」という価値観が、どのように表れているのかを考えること。そして、日常生活のさまざまな場面で立ち止まり、考える契機を生み出すこと。これらの姿勢を身に付けることが本講義の到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	授業の概要と導入／ジェンダー論とは何か	授業の到達目標、進め方、成績評価の方法等／ジェンダー概念の射程
02	ジェンダーとセクシュアリティを考える(1):その多様性	ジェンダー、性自認、性的指向
03	ジェンダーとセクシュアリティを考える(2):クィア研究の可能性	クィア、カミングアウト、クローゼット
04	同性愛者解放運動の歴史(1):前史——病理化／犯罪化の歴史	ソドミー法、精神医学
05	同性愛者解放運動の歴史(2)——欧米を中心に	同性間パートナーシップ、同性愛者解放運動
06	同性愛者解放運動の歴史(3)——日本を中心に	グローバリゼーション、アイデンティティの政治、文化運動
07	日本社会における同性愛者の人権(1)——現状(ビデオ視聴)	LGBT、コミュニティ活動、社会運動
08	日本社会における同性愛者の人権(2)——前史	ゲイ・バー、ブルーボーイ事件
09	日本社会における同性愛者の人権(3)——司法／政策	東京都「府中青年の家」裁判、ピア・サポート
10	日本社会における同性愛者の人権(4)——文化活動をととして	映画祭、プライド・パレード、コミュニティ活動
11	同性間パートナーシップの諸問題(1)——欧米の法的保障	婚姻、シビル・ユニオン、社会運動
12	同性間パートナーシップの諸問題(2)——日本社会と当事者の現状	当事者ニーズ、モノガミー／ポリガミー
13	同性間パートナーシップの諸問題(3)——日本社会と法制度	戸籍制度、異性愛主義、天皇制
14	同性間パートナーシップの諸問題(4)——DV、暴力	同性間DV、ドメスティック・バイオレンス、DV防止法
15	ジェンダー／セクシュアリティをめぐる現状と課題	日本社会、尊厳の回復、差別／被差別の横断性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

疑問に思った点や、わからない部分は、積極的に、図書館やインターネットなどを使って、調べる習慣をつけてください。また、「単位だけ必要」 「出席していれば通る」という考え方をもちの学生さんは歓迎いたしません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述試験を実施します。授業内容の理解度と受講生自身の意見を総合して判断します。
平常点評価	20 %	授業開始後30分以上の遅刻は認めません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大教室での講義では、受講生の方々とのコミュニケーションには限界があるとは思いますが、できる限り、レスポンスを求め、それを講義に反映させるようにしたいと思います。そのために、適宜、コミュニケーション・カードを書いていただきます。

なお、例年、授業態度に問題が見られるため、授業開始後30分経過してからの入退室を制限する可能性があります。

教科書 / Textbooks

とくに指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「レズビアン」という生き方	堀江有里 / 新教出版社 / /
異性愛と同性愛	風間孝・河口和也 / 岩波書店 / /
クイア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /
フェミニズム	竹村和子 / 岩波書店 / /

ほか、講義内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

非常勤講師のため、出講日にしかありません。授業の前後に直接声をかけてください。

その他 / Others

ジェンダー論 (SB)

15892

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

二項対立的なジェンダー世界に生を受けそこに生きる私たちは「男らしさ」や「女らしさ」といった言葉に代表されるジェンダー観をごく当たり前の事と捉えがちである。だがこのことは私たちがジェンダーを科学的に分析することにはいかに不慣れかを物語っているとも言えよう。

自明視されがちなジェンダー観はいかにして私たちに内面化されたのか。またそれは私たちの思考や振る舞い、好み、性的指向、はたまた恋愛観や結婚観をどのように規定していくのだろうか。かような問題を様々な角度から照射しつつジェンダーを社会学的に解明していく。その過程において学生は「イデオロギー」「行動様式」「身体技法」「相互行為」「逸脱」「スティグマ」などの基本的なタームの理解が求められる。ジェンダーをひとつの切り口にして、社会に規定されつつも「自分らしさ」を求めてやまない個人の葛藤や性同一障害者の苦しみ、恋愛関係の成立、セクハラやDVなど多様な社会現象を社会と個人の関係性という文脈において理論的に論述できるようになってもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

ジェンダー実践を社会学のタームを用いて社会的見地から理論的に説明できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学や社会学理論の既習が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	講義の進め方、成績評価方法、約束事の確認+授業内容の提示
2	社会と個人の関係性①	外なる社会/内なる社会、社会に鑄型取られる個人
3	社会と個人の関係性②	内面化/社会化、イデオロギーの磁場としての「出会い」
4	生物学的性・セクシュアリティ概念	生物学的雌雄性から性自認の獲得へ
5	ジェンダー概念＝「社会的・文化的性(差)」	「男らしさ」「女らしさ」、二項対立的な男女の分類図式
6	身体技法を読み解く①	相互行為論(E.ゴフマン)、非言語メッセージ
7	身体技法を読み解く②	相互行為論(E.ゴフマン)、非言語メッセージ
8	映像分析①	『トッツィーTootsie』より
9	映像分析②+総括	『トッツィーTootsie』より
10	性同一性障害①	ラベリング論より、逸脱とスティグマ
11	性同一性障害②	ラベリング論より、逸脱とスティグマ
12	制度的再帰性	二項対立的なジェンダー観の再生産とその変化
13	「男＝上位者・女＝下位者」か？	行為者にとっての戦略とアクション、セクシュアルハラスメント
14	ジェンダー論・相互行為論・ラベリング論のタームの最終確認+論述テスト(60分)	
15	テストの講評、ジェンダー論の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ジェンダー視点で書かれた著書や新聞記事の多読をすすめる。

その後、上記の参考文献もしくは講義内で紹介する文献の少なくとも一冊は熟読すること。

『21世紀のジェンダー論』はジェンダーに纏わる議論を広くカバーしているのでお薦めの一冊である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にはレポート課題と講義時間内に行なう論述テストによる成績評価 出席そのものは成績評価の対象とはしない。が、講義に積極的に参加し基本的なタームを正しく用いて社会的な見地からジェンダーに関する記述を展開しなければならない。 ミニレポートやミニテストを加算することも考えている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①講義のはじめにレジュメを配布しますが、後日再配布することはありませんので、遅刻をした学生は講義後に受け取ってください。
- ②特段の事情がない限り20分以上遅れての入室は認めません。
- ③講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め成績評価から5点マイナスします。
- ④携帯電話の使用および教室内での飲食は禁止します。
- ⑤教室内での帽子の着用は後ろに座っている学生の迷惑となりますので、そのようなケースでは脱いでもらいます。
- ⑥レポート課題の内容は講義内で説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものは未提出扱い(0点)とし、論述テスト

を受ける資格を自動的に失います。

⑦レポート課題に不正行為が認められた場合も⑥と同様の扱いとします。

⑧レポートの提出期限は入院証明書や診断書などの公的書類があるものに限って延長されますが、就職活動は遅れての提出の理由とはなりません。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女らしさの社会学	高橋裕子 / 学文社 / 4-7620-1164-9 /
21世紀のジェンダー論	池内靖子他編 / 晃洋書房 / 4-7710-1565-1 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ / 岩波書店 / 4-00-001275-4 /
ゴッマン世界の再構成	安川一編 / 世界思想社 / 4-7907-0403-3 /
スティグマの社会学	アーヴィング・ゴッフマン / せりか書房 / 4-7967-0043-9 /
性同一性障害と性のあり方ー性転換手術は許されるのか	山内俊雄 / 明石書店 / 4-7503-1210-X /
離婚後300日問題 無国籍児を救え！	毎日新聞社会学部 / 明石書店 / 978-4-7503-2838-6 /
その他の参考文献は適宜紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- コミュニケーションペーパー / Communication Paper
- 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

宗教と社会 (GA)

14153

担当者名 / Instructor 森永 貴子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

土着の民間信仰が根強いロシアではキリスト教の導入と定着までに長い年月を要し、国家統一と帝政ロシア成立の中で正教会は政府の管理下に置かれた。その後「専制・正教・国民性」の公定ナショナリズムにより、正教信仰は国家を支える基盤としてますますイデオロギー化されていった。ソ連時代、共産思想によって正教は消滅するかに見えた。しかし無神論社会の中で一度は失われたかに見える正教信仰は、社会主義の崩壊とナショナリズムの台頭とともに再び復活している。この講義では、ヨーロッパのキリスト教ともアジアの信仰とも全く異なるロシアの正教・民間信仰と社会の関係を、様々な事例を基に概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

信仰の移植・解体・喪失・再生という変動を経たロシアの歴史を概観することで、宗教と信仰が社会に及ぼす影響について、より身近な問題として考えられるようにすることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス: 講義日程の説明と関連映像作品の鑑賞	
第2—4回	正教導入と第3のローマ	タタールのくびき、府主教座、モスクワ、国家統一
第5—6回	中世の民間信仰と正教会	農民信仰、魔女、異教
第7—9回	教会分裂の時代	分離派、旧教徒、ユートピア
第10—11回	イスラム教徒の正教改宗	タタール人、正教、寛容と不寛容
第12—13回	帝政時代の正教	西欧派・スラブ派、専制・正教・国民性
第14—15回	ソビエト政権下の正教	信教の自由から良心の自由へ、弾圧、地下教会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	※授業内で伝えたように、今年度は受講者多数のため、定期試験とする。
平常点評価	50 %	出欠状況と、各テーマの最後に書いてもらうアンケートにより評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一冊で事足りる概説書はないため、参考書を適宜参照してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ロシアの神々と民間信仰—ロシア宗教社会史序説	白石治朗 / 彩流社 / 488202425X /
聖なるロシアを求めて—旧教徒のユートピア伝説	中村喜和 / 平凡社 / 458247435 /
聖なるロシアのイスラーム—17—18世紀タタール人の正教改宗	濱本真美 / 東京大学出版会 / 9784130261357 /
聖像画と手斧—ロシア文化史序説	ジェームズ・H・ピリントン著、藤野幸雄訳 / 勉誠出版 / 4585030689 /
ロシア正教の千年—聖と俗のはざま	広岡正久 / NHKブックス / 4140016809 /

この他にも様々な参考文献があるが、講義内で適宜紹介していく。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

担当者名 / Instructor 内藤 みちよ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

一般教養として学んでおくべき心理学の概要を紹介し、今後の専門の基礎の一つになるよう、基本を押さえた内容になります。また、心理学とは、人間、すなわち自分を知る学問でもあるので、「三人称的」に終始せず、「一人称的」理解を目指し、体験的内容を取り入れます。

到達目標 / Attainment Objectives

心理学への理解や関心が深まることを通じ、自分や他者への理解や関心が深まる事。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

あらゆる科目が大なり小なり関連し、役に立つので、科目特定は特にならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション:心理学とは何か?	心理学の歴史と現在、方法
2	人間の心理学的理解①	感覚・知覚と生理学的基礎
3	人間の心理学的理解②	記憶と忘却
4	人間の心理学的理解③	欲求・動機づけ・感情
5	人間の心理学的理解④	条件付けと学習
6	人間の心理学的理解⑤	知能・思考
7	人間の心理学的理解⑥	人格・性格
8	人間の心理学的理解⑦	社会的行動
9	人間の成長・発達①	乳幼児期・児童期・思春期
10	人間の成長・発達②	青年期・成人期・老年期
11	心理的援助の方法①	適応とは?障がいの心理学的理解
12	心理的援助の方法②	心理アセスメントと心理検査
13	心理的援助の方法③	さまざまな心理療法
14	心理的援助の方法④	コミュニティ心理学的理解と危機介入
15	まとめ	心理学とは何か?何を学んだか?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	実施しない
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	出席率だけでなく、毎回、コミュニケーションカードを回収し、学習した内容や参加度を確認する。私語などのめいわく行為は減点対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業では、大学生としての積極的な参加を求めます。単なる情報の受信でなく、自発的で柔軟性ある思考と、participant observation の姿勢で臨み、自分自身を見つめ直すきっかけにしてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

対象人数が多いので、大量の質問にオンデマンドに対応しきれないかもしれませんが、できるだけ、授業に反映させたり、授業前後で時間が許せば、応えたいと思います。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 土屋 敬二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

哲学とは何か — 哲学と生 —

哲学は私たちが生きることにとって疎遠なものではないかとされています。しかし、哲学は人間や世界の根本を問うものとして、人間の生の問題にも深く関わってきました。そして、現在私たちはあらためてその問題に向かうことを強いられているように思われます。そこでこの講義では、西洋の哲学の流れをたどりつつ、生きるという問題を考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生とは何かについて考える。
- ・哲学と生の関連について考える。
- ・哲学の基礎的な知識を身につける。
- ・抽象的、論理的に思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

西洋思想史に関連した科目(倫理、政治、社会など)を履修しておくことと理解が深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	I、概観 哲学と生、現在の私たちの状況から	人間は自らの生を意識しうるメタフィジカルな=形而上学的な存在である
第2回目	II、古代 1、ソクラテス 「汝自身を知れ」 魂の配慮による自己形成 ※『ソクラテスの弁明』(プラトン)を読む	「よく生きることと美しく生きることと正しく生きることとは同じだということ」
第3回目	2、プラトン アイデア論と理想の人間	「すべての敬虔な事柄がそれによってこそいずれも敬虔であるということになる、かの形相そのもの[アイデア]があるのではないか？」
第4回目	3、アリストテレス ポリス的動物としての人間と倫理的徳 ※『ニコマコス倫理学』を読む	「人間というものの善とは、人間の卓越性[徳]に即しての、またもしその卓越性がいくつかあるときは最も善き最も究極的な卓越性に即しての魂の活動である」
第5回目	III、近代 1、デカルト 「われ思う、ゆえにわれあり」による近代的自我の確立 ※『方法序説』を読む	「私がこのようにすべては偽であると考えている間も、そう考えている私は、必然的に何ものかでなければならぬ」
第6回目	2、ホッブズ 欲望存在としての人間と自然状態=戦争状態 ※『リヴァイアサン』を読む	「社会状態の外では、つねに各人对各人の戦争が存在する」
第7回目	3、パスカル 考える葦としての人間 高慢な自我を超えて ※『パンセ』を読む	「知恵は我々を幼年に向かわせる。(幼子のようにならなければ)」
第8回目	4、ヘーゲル 自由と共同性が分裂した近代を超えて	「家族の原理[生]と市民社会の原理[自由]との統一」としての近代国家
第9回目	IV、現代 1、ニーチェ a、カへの意志とキリスト教批判 生の抑圧としてのキリスト教	「搾取は生そのものの意志にほかならぬ本来の力への意志の帰結である」
第10回目	b、ニヒリズムの到来とそれを超えて ※『道徳の系譜』、『カへの意志』などを読む	「「何のために」に対する答えが欠けている」状態としてのニヒリズム
第11回目	2、大衆社会とニヒリズム a、オルテガ 慢心したお坊ちゃんとしての大衆 ※『大衆の反逆』を読む	「《甘やかされた子》、反逆する未開人、すなわち《野蛮人》といった、何らかの欠陥のある人間」としての大衆
第12回目	b、ハイデガー 世間=人へと埋没した人間	「その「誰か」は、特に誰ということもできない中性的なもの、世間である」
第13回目	c、ボードリヤール 消費、情報化社会における人間 ※『消費社会の神話と構造』を読む	「自己を他者と区別することは、あるモデルと一体になること、...それゆえにあらゆる現実の差異や特異性を放棄することである」
第14回目	3、ハーバーマス 近代的システムによって侵害される人間	「システムと生活世界のこの分離は、近代的な生活世界の内部では、生活形態の物象化として経験される」
第15回目	V、総括 あらためて哲学と生の関連について イエス、パスカルの思想から	「転身して子どものようにならなければ天国には入れない」(イエス)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。それぞれの関心に応じて哲学に関連した書物を読むように心がけて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
平常点評価	20 %	講義に関連して2度小レポートを書いてもらいます(各10%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の展開の基本線を押さえるように心がけて下さい。講義は共同作業です。予習・復習を心がけて下さい。3回に1回質問用紙を配布します。質問の方も心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しませんが、原典その他のプリントをその代わりとします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『はじめての哲学史』	竹田青嗣・西研編／有斐閣／／分かりやすい哲学の入門書です。
『ヨーロッパ社会思想史』	山脇直司／東京大学出版会／／社会思想史の観点からも哲学を学ぶことができます。
『西洋哲学史』	岩崎武雄／有斐閣／／定評ある哲学の解説書です。
『反哲学史』	木田元／講談社／／反哲学の観点から哲学史を解説したものです。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

人間性と倫理 (S)

15871

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を詳細に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。そのさい各テーマに関連のある西洋美術の名作を多数補足的に用いることにする。というのも西欧の美術と思想は密接に関連していると思われるからである。ところで、倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではその根底、あるいはむしろ人間性そのものの根底を研究した、いわゆる伝統的古典的な倫理学(ソクラテス、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)をまず取り上げ、次にそうした間を埋めるべき哲学者たちに向かう。彼らの論証方法を検討することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものか、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて徳育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、将来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決してないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自然研究から人間性研究へ——ソクラテス(1)	自然哲学、「～とは」の問い、無知の知
2	社会的正義と道徳的正義——ソクラテス(2)	ソクラテス裁判、正義と報復
3	道徳の根底にある愛——プラトン(1)	神聖愛と世俗愛
4	善そのものはどこにある？——プラトン(2)	五感、イデア
5	道徳的国家と芸術——プラトン(3)	芸術模倣論、詩人追放論
6	実践の原理による道徳と政治——アリストテレス(1)	理論、実践、制作
7	幸福としての善——アリストテレス(2)	善く生きる、善くならず、幸福である
8	幸福になるための中庸の徳	状態としての徳、勇気、節制、正義
9	善意志としての善——カント(1)	法論と徳論、アリストテレスの幸福主義とカントの意志主義、エヴァ・ブリマ・パンドラ、厳格主義、適法性と道徳性
10	道徳法則と定言命法——カント(2)	善意志と根源悪、定言命法と仮言命法、シラーによる厳格主義批判
11	道徳性に対する人倫性——ヘーゲル	法の哲学としての倫理学、道徳的意志から人倫的意志へ、客観的精神
12	言語への信頼と善の相対論——ソフィストと哲学者	万物の尺度は人間である
13	混乱した社会での処世術——ヘレニズムの哲学四派(1)	コスモポリタニズム、懐疑論
14	近代功利主義と快楽——ヘレニズムの哲学四派(2)	ベンサム、ミル、エピクロス、ゼノン、ストア派
15	神の愛と人間の意志——アウグスティヌス	神への愛、隣人愛、時間と歴史、救済予定説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

疑問が生じたときが勉強の機会。私に直接質問してくれてもよいが、大学図書館に直行して自ら調べることが一番だと思う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	記述式。持ち込みは不可。試験前における程度情報は開示。
平常点評価	50 %	出席要件を満たした上で、毎回時間内に書いて提出する日常的な小レポートを提出した場合のみ成績評価の対象とし、単に出席の痕跡を残しただけの、所謂「出席点」の場合、加点は一切行わないので注意するように。二次元バーコード(QRコード)持参のこと。

試験点、平常点の割合は若干調整する場合がある。追加点希望者は講義最終日までに、講義に関連したテーマで小レポート(約2000字)を提出のこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

専門分野の知識の習得だけに偏らず、大学生として幅広い教養を身につけていただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

絵画で綴る哲学と倫理学

門屋秀一／晃洋書房／9784771020788／必須

第11講まで毎回使用。購入必須。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

形而上学の克服

シュヴァイidler著・門屋他訳／晃洋書房／4771016585／購入必須ではない

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

メンタルヘルス (GA)

13208

担当者名 / Instructor 安田 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業はメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけではなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対しての心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. メンタルヘルスに関する基本的な知識を理解する。
2. 自分自身のメンタルヘルスクア能力を向上させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	ストレッサー、ストレス反応
第2回	病前性格	ストレス耐性、ストレスへの脆弱性
第3回	こころのメカニズム	意識と無意識、防衛機制、葛藤
第4回	家族のなかでの個の成長	母子関係、社会性の発達
第5回	思春期・青年期	自我同一性、学校生活
第6回	対人関係の心理	対人認知
第7回	こころの病1	うつ病、統合失調症
第8回	こころの病2	不安障害、パーソナリティ障害
第9回	カウンセリングの基本	来談者中心療法
第10回	さまざまな心理療法	行動療法、認知行動療法
第11回	自己の認知を知る	原因帰属、認知、行動
第12回	コミュニケーションスキル	自己表現、怒り
第13回	こころの健康を考える	ストレスマネジメント、リラクゼーション
第14回	こころの問題・暴力の発生予防	トラウマ理解、コミュニティ心理学、予防
第15回	振り返りとまとめ	メンタルヘルスクア、自己コントロール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

学問的知識を生きた知として自らに役立てるよう意識し、主体的に学んでください。出席できなかった日の講義内容は自主的に補い、また理解が進まなかった部分については読み返してしっかり復習してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義内容を理解しているかどうかを確認する試験を行います。重要語句の説明ならびに論述の形式で、理解度と定着度を確認します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義には演習を含みます。演習を通じて、自己理解を深めてください。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめて学ぶ メンタルヘルスと心理学―「こころの健康をみつめて	吉武光世 編著 / 学文社 / 978-4-7620-1374-4 /
メンタルヘルスへのアプローチ 臨床心理学、社会心理学、精神医学を融合して	西村健 監修 藤本修・白樫三四郎・高橋依子 編 / ナカニシヤ出版 / 978-4-7795-0320-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

メンタルヘルス (GB)

15848

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけでなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対しての心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. メンタルヘルスに関する基本的な知識を理解する。
2. 自分自身のメンタルヘルスクア能力を向上させるスキルを身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メンタルヘルスとは	メンタルヘルスに関わる諸能力
2	心のメカニズム	意識と無意識、防衛機制
3	心の発達とメンタルヘルス1	乳幼児期、児童期
4	心の発達とメンタルヘルス2	青年期
5	ストレスとコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション技法
6	適応とメンタルヘルス 睡眠とメンタルヘルス	外的適応、内的適応、睡眠、夢
7	心の問題についての理解1	精神病、神経症、パーソナリティ・ディスオーダー
8	心の問題についての理解2	虐待、ドメスティックバイオレンス
9	心理療法について1	内界指向的心理療法
10	心理療法について2	行動指向的心理療法、システム指向的心理療法
11	被害体験とメンタルヘルス	被害者の心理、ストレスマネジメント
12	心理療法について3	心理療法の過程、箱庭療法、遊戯療法
13	メンタルヘルスと学生相談	青年期の心理的問題、学生期ライフサイクル
14	病気とパーソナリティ メンタルヘルスにかかわる対人スキル	病前性格、受容、傾聴
15	授業の総括と検証テスト	この授業で学んだもの

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1. 日常的な授業における取組状況の評価(50%)。これについては、授業中に数回、小課題に取り組み、提出する。 2. 学習到達度を確認するテストを行う(50%)。これについては、最終授業日の一部を用いて行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
無意識の構造	河合隼雄 / 中央公論社 / 978-4-12-100481-9 /
少年期の心	山中康裕 / 中央公論社 / 4-12-100515-5 /
カウンセリングと精神療法	氏原寛・成田義弘(編) / 培風館 / 4-12-100515-5 /
収納イメージ法	徳田完二 / 創元社 / 978-4-422-11425-5 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

論理と思考 (S)

13154

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

論理とは、ことばや記号を媒介とする思考の根底にある構造である。この構造に支えられて、推理や論証という活動が可能になる。ことばや記号による表現の検討を通じ、論理のしくみを客観的に考えることによって、論理や論証の実践的技能の基礎作りを試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・命題の真偽、論証の妥当性、必然性と可能性、論理的真理と矛盾など、論理的な概念を理解し活用することができる。
- ・命題や論証の論理的性質を検討し、また論理的な推論を行うために、図、表、記号などを場合に応じて柔軟に用いることができる。
- ・具体的状況に於いて推理、判断能力を試す問題に対処することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入と概要	論証の学、反証の学
第2回	日常言語での論証-1	論証の妥当性
第3回	日本語と論理	記号化
第4回	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
第5回	真理関数的論理・・・命題論理-2	真理値
第6回	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
第7回	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
第8回	公理系・・・その導入	規則に従う
第9回	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
第10回	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
第11回	関係	多重量化
第12回	複雑な関係	同一性
第13回	様々な問題-1	過去問
第14回	様々な問題-2	実践へ
第15回	総括講義	目標到達の確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	毎回の授業終了前に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを使用する。

参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

映像と表現 (S)

16019

担当者名 / Instructor 篠木 涼

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

①映像の原点、②映像と表現の方法、③映像と社会、以上の3点を軸にし、歴史的視点を土台として多数の実例(視聴覚資料)を紹介しながら、映像文化の諸相を検討していく。また、専門を問わずに様々な学問に取り組む上で基礎となる知識と思考法を提示する。

到達目標 / Attainment Objectives

映像の歴史について基礎的な知識を身につける。
映像表現に関する基本的な特質や思考法を身につける。
映像メディアと社会との関係性に関心を持ち、考える態度を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明「映像とは何か、映像表現とはどのような行為か」
第二回	初期映画から古典的ハリウッド映画へ	アトラクション
第三回	古典的ハリウッド映画①	映像のスタイル
第四回	古典的ハリウッド映画②	物語のスタイル
第五回	古典的芸術映画① フランス印象派とシュルレアリスム	ルイ・デリュック、フォトジェニー、ルイス・ブニュエル、『アンダルシアの犬』
第六回	古典的芸術映画② ドイツ表現主義	『カリガリ博士』『メトロポリス』
第七回	戦争とプロパガンダ	ゲッベルスと映画
第八回	戦後の映画美学①	イタリアン・ネオリアリスモ
第九回	戦後の映画美学②	フランス・ヌーヴェルヴァーグ
第十回	1960年代と反抗の映画	アメリカン・ニューシネマ
第十一回	1970年代とハリウッドの再生	ノスタルジー、『JAWS』
第十二回	1980年代とポストモダン ①	『ブレードランナー』
第十三回	1980年代とポストモダン ②	MTVとミュージックビデオ
第十四回	1990年代とグローバリゼーション	多様化するメディアと映画
第十五回	2000年代とニューメディア	YOUTUBE

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義をふまえての映像作品の考察
平常点評価	30 %	小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハリウッド100年史講義	北野圭介 / 平凡社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
入門・現代ハリウッド映画講義	藤井 仁子 他 / 人文書院 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Others

観光学 (GA)

11121

担当者名 / Instructor 麻生 憲一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、観光に関する歴史的・理論的・政策的・実証的側面の基本的な知識を体系的に理解し、習得していくことを目的とする。観光の語源、概念、歴史の変遷、そして現在の観光にかかわるさまざまな現象を概観していく。特に、観光と地域づくり、グリーンツーリズム、新しい観光形態などについて論じていく予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

観光に関する基本的概念、体系的知識を習得すること。
国際観光の動向、日本の観光政策に関する理解を深めること。
地域振興やまちづくりに対する観光の役割を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ツーリズム学概論Ⅰ、Ⅱ、ツーリズム学実習Ⅰ、Ⅱ
地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	講義概要の説明	講義方式、成績評価
2回	観光の概念と語源	観光概念の定義、観光の3原則
3回	観光財・サービスの特性	自由財と経済財、サービス財としての特性(無形性、非貯蔵性、非自存性、多様性、一過性)
4回	観光の歴史の変遷(1)	西欧の観光史(古代、中世、近代、現代)産業革命、トマス・スチュワート、モータリゼーション
5回	観光の歴史の変遷(2)	日本の観光史(古代、中世、近代、現代)
6回	国内観光の動向	国土開発計画、リゾート法、マストゥーリズム
7回	国際観光の動向	観光ビックバン、アウトバウンド、インバウンド
8回	日本の観光政策	観光立国推進基本法、外客誘致法、ビジットジャパンキャンペーン
9回	観光資源の活用とまちづくり	重要文化財、世界遺産、十津川村
10回	観光産業(1)	旅行業、宿泊業
11回	観光産業(2)	テーマパーク、ホスピタリティ産業
12回	滞在型観光	グリーンツーリズム、クラインガルテン、農村民泊、農家民宿
13回	ホスピタリティと観光	もてなし、ホスピタリティ・マインド、サービスとの相違
14回	新たな観光	マストゥーリズム、ソフトゥーリズム、エコトゥーリズム
15回	観光開発と持続可能性	観光開発、環境保全、コモンスの悲劇、外部不経済

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマの中から、受講生の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	40 %	授業内容の理解度を確かめるために不定期にレポートを課す。Web-CTを使って提出を受け付ける。1回の提出ポイントを10とし、成績評価に加算する。提出レポート内容が著しく優れた者、または著しく劣る者には別途加点、減点がありうる。

Web-CTが利用できない環境にある受講生は講義後に相談に来てください。別の提出方法を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中の説明でわからなかったことはそのままにせず、質問に来てください。コースツール内のディスカッションも受け付けます。

教科書 / Textbooks

授業では教科書を指定しない。配布レジュメに基づいて授業を進める。授業の資料は全てWeb-CTを利用して配布する。事前に各自がプリントアウトしたものを持参すること。Web-CTを利用できない環境にある受講生に対しては別の方法により配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価2,000円(税別)
現代社会とツーリズム	多方一成・田淵幸親 / 東海大学出版会 / 978-4486015642 / 定価2,625円(税込)
地域からみる観光学	小松原尚 / 大学教育出版 / 4887307780 / 定価1,890円(税込)
グローバル化とアジアの観光－他者理解の旅－	江口信清・藤巻正己編著 / ナカニシヤ出版 / 978-4-7795-0350-4 / 定価2,625円(税込)
その都度、授業中に指示をする。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

観光庁 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
 日本旅行業協会 <http://www.jata-net.or.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

講義中の私語は厳禁です。騒がしい場合は退出を命じることがあります。

京都学 (GA)

14017

担当者名 / Instructor 河原 典史、佐古 愛己、友田 義行、奈良 勝司、花岡 和聖、藤村 健一、村中 亮夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は京都をテキストとして、歴史・地理・文学を中心に社会・経済・建築などさまざまな側面から学際的にアプローチし、京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

「京都」を多面的重層的にとらえ、他者に語る事ができる。

自ら「京都」をフィールドワークし、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語る事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回:4月12日	「立命館京都学」の創成 (河原典史)	立命館京都学、新たな京都学
第2回:4月19日	平安京の成立と都市化(佐古愛己)	桓武天皇、平安京、怨霊、疫病、穢れ(ケガレ)意識
第3回:4月26日	平安貴族社会の政治と文化(佐古愛己)	藤原道長、古記録、儀式、都と雛、イエ
第4回:5月10日	中世都市京都の創造—公家と武士—(佐古愛己)	武士、院政、白河・鳥羽、保元・平治の乱、六波羅
第5回:5月17日	宗教都市京都の形成(藤村健一)	宗教都市、仏教、神道、民間信仰、天皇
第6回:5月24日	宗教都市京都の変容(藤村健一)	寺院、神社、天皇、江戸幕府、明治政府
第7回:5月31日	宗教都市から文化観光都市へ(藤村健一)	寺院、観光、文化財、古都税、世界文化遺産
第8回:6月7日	幕末維新と立命館(奈良 勝司)	幕末維新、西園寺公望、中川禄左衛門、京都民衆、新撰組
第9回:6月14日	岩倉具視にみる近代化と伝統(奈良 勝司)	幕末維新、岩倉具視、改革派公家、「古都」再生、近代化と伝統
第10回:6月18日 (土)	映画都市京都(1)(友田義行)	映画伝来、スタジオ、スター、映画都市の形成、時代劇の興隆
第11回:6月21日	映画都市京都(2)(友田義行)	文学／シナリオ／映像、日本映画黄金期、多元的現実／殺陣の様式
第12回:6月28日	映画都市京都(3)(友田義行)	詩／ドキュメンタリー、伝統工芸／前衛芸術、記録される京都
第13回:7月5日	京都における歴史的景観保全と経済的価値 (村中亮夫)	歴史的景観、歴史遺産、景観保全、経済価値(便益)
第14回:7月12日	京町家の取壊しと保全(花岡和聖)	京町家、歴史的景観保全、住民参加
第1回:7月19日	もう一つの京都学・補説(河原典史)	もう一つの京都学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	所定のテーマ・方法によるレポート。詳細については備考欄参照。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーの提出。

・最も興味をいだいた授業内容の要旨を簡潔にまとめ(本文800字以上)、さらにそれをふまえて自身のテーマを設定しテーマにかかわる「場所」を訪れて得られた知見や参考文献を活用した自身の研究レポートを執筆(本文2200字以上)。合計3000字以上。

・その際、自身が訪れ、自身が撮影した風景(景観)写真を3点以上添付し、それらの写真についても概説を加える。

・写真をどこで撮影したのか、撮影箇所を明示した地図を添付。

・書式などについては、第1回の授業で指示する。またコースツールを参照。

・インターネットや文献からのカット／ペースト的記述は「不可」となるので要注意。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・日頃から、自身でテーマを設け、大いに「京都」をフィールドワークすることを奨励します。
- ・日頃のフィールドワーク経験を通して、授業内容に関連づけ、自身で「京都研究」を試みてください。

教科書 / Textbooks

共通の教科書はなし。
担当者毎に、レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

担当毎に、適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当毎に、適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

第1回の授業で、レポートの作成について説明します。

現代の教育 (S)

15866

担当者名 / Instructor 河原林 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・教育においては、「時代を超えて変わらない価値あるもの」(不易)があり、それはいつの時代においても大切にされなければならない。そしてまた、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)にも柔軟に対応していかなければならない。本講義においては、その二面性を踏まえ、教育の現状を直視し、改めて「学び方を学ぶ」ことに力点を置くとともに、今日的教育課題に応える『現代の教育』の望ましいあり方を探求させた。
- ・興味・関心をもって授業に臨めるよう極力身近な具体事例を取り上げ、レジュメにや資料にも創意工夫し、意欲的に「現代の教育」学に取り組む。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「現代の教育」の望ましいあり方を探求するうえで必要な知識や知見を獲得する。(知識・理解)
- ・教育をめぐる諸課題を理解し、それらの解消に向けての思考力・判断力を高める。(思考・判断)
- ・講義での諸資料を有効に活用し、関心・意欲をもって授業に臨む。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「現代の教育」を学ぶに当たって一オリエンテーション	・各回の授業概要とその進め方 ・受講に対する心構え ・「真のエリート」
2	「生涯学習と学校教育」のかかわりについて	生涯学習の基礎を培う学校教育のあり方
3	「豊かな心」を育むための教育の役割について	・よりよい社会を作るためのカギ ・「感性は磨かねば枯れる」
4	「生きる力」を育むための教育の役割について	・「知・徳・体」のバランス ・学校力・教師力・人間力
5	「確かな学力」を育む学校教育の現状と課題について	・生活の自立 ・学習の自立 ・生き方の自立
6	道徳教育における現状と課題について(その1)	・人が育つ環境づくり ・モラル欠く諸問題とその要因
7	今、道徳教育に期待されること(その2)	・学校・家庭・地域社会の三者連携による道徳教育の推進
8	人権問題と教育…人権教育のあり方(その1)	・自尊感情 ・コミュニケーション能力 ・非攻撃的自己主張
9	人権教育における諸課題…いじめ問題とその解消に向けて(その2)	・いじめの特徴とその基本的認識 ・いじめ・差別問題の解消
10	人権教育における諸課題…青少年非行問題と教育のあり方(その3)	・変容する子どもの現実感覚 ・混迷する今の時代の「教育」の役割
11	環境問題と教育…環境教育のあり方	・環境に対する意識改革(暮らし改革) ・環境教育の重要性
12	国際理解と教育…国際理解教育のあり方	・国際社会に生きる日本人の育成 ・日本の果たすべき役割
13	障害児(者)理解とその教育のあり方	・障害者を見る目 ・心のバリアフリー ・学校・社会への期待
14	福祉・ボランティアとその教育のあり方	・社会保障制度のあり方 ・共生社会への参加 ・教育への期待
15	「教育」における今日的課題とその解決に向けて(全編のまとめ)	・大人の「幼児化」 ・家庭の「下宿化」 ・学校の「生活化」 ・社会の「教育化」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	「現代の教育」をめぐる諸課題の背景や原因を考察し、その解決策や対処のあり方について自

らの考えを論述する。

平常点評価	30 %	毎回の授業の終わりに、ミニペーパーにその日のテーマに関する自らの考えを記述し提出する。(2点×15回)
-------	------	---

授業への出席は、「3分の2」以上を原則とし、その基準に達した者を受験対象者として成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

スポーツと現代社会 (SA)

13156

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

オリンピックやW杯に代表される国際的なスポーツイベント、欧州におけるサッカー選手の国を超えた移籍・帰化など、スポーツはグローバル化の時代の中で多様な展開を見せ、社会とともに大きく変化している。そのため、現代社会におけるスポーツの持つ多様な意味やスポーツに関する諸問題を理解するためには、多角的な視点、総合的な分析によりスポーツを批判する力が求められる。

本講義では、スポーツと現代社会に関する基礎知識を習得し、現代社会におけるスポーツの機能・役割などを社会的・政治的・経済的側面から把握するとともに、現代社会におけるスポーツの持つ意味と諸問題についても考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんと共にスポーツと現代社会について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

- 1) 講義を通じて、現代社会とスポーツの社会的、文化的変動を具体的なトピックの検討を通じて理解し、現代社会とスポーツとの関わり・全体像を明らかにする。
- 2) 現代社会とスポーツの関わりについて具体的に調査・分析する能力を養うとともに、スポーツに関する広い視野と批判能力を身に付ける。
- 3) テーマに対して自らの考えを表現することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とスポーツ

また、現代社会に関わる科目であればどんな科目でもいいです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと現代社会についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価など)	概要、シラバス、評価
第2回	近代国民国家とスポーツ	ヨーロッパ、国民国家、国民統合、抵抗ナショナリズム、アジア、植民地
第3回	現代社会とオリンピック(1)	オリンピックの歴史、オリンピズム、アマチュアリズム、商業化
第4回	現代社会とオリンピック(2)	国家、ナショナリズム、国威発揚、ドーピング、勝利至上主義
第5回	ワールドカップと現代社会(1) ワールドカップの歴史と商業化	FIFA、商業化、メディア、政治
第6回	ワールドカップと現代社会(2) 2002年日韓ワールドカップ共同開催の歴史的意味	戦後日韓関係、メディアイベント、街頭応援、サポータ文化
第7回	ビデオ鑑賞①	オリンピック、ワールドカップ、感想文
第8回	スポーツとグローバリゼーション	移民、国籍、格差、搾取、多文化社会
第9回	スポーツと政治、ナショナリズム	国家、国民形成、戦争、身体管理、ナショナリズム、オリンピック
第10回	スポーツと環境問題	環境破壊、開発、近代化、長野オリンピック
第11回	ビデオ鑑賞②	スポーツ、現代社会
第12回	スポーツ市場・産業の動向、メディア	スポーツ産業、スポーツ市場、余暇市場、経済、レジャー
第13回	日本のスポーツイベントと問題点	国民体育大会、明治神宮体育大会
第14回	日本と諸外国のスポーツ政策と特徴	スポーツ施策、生涯、福祉、福祉国家、市民、イギリス、ドイツ、日本、韓国
第15回	スポーツの未来を展望する	まとめ、スポーツ、現代社会、示唆点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	1. 講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2. 主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかどうか、文章の完成度などを総合的に評価する。

平常点評価

50 % 1. 講義に関する意見や感想、ビデオ鑑賞の感想などを書いてもらい、それを評価する。
2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会とスポーツ	ピーター・マッキントッシュ / 大修館書店 / 4-469-26203-X /
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会 / 世界思想社 / 4-7907-0723-7 /
メディアスポーツ解体	森田浩之 / NHKブックス / 978-4-14-091148-8 /
新スポーツ放送権ビジネス最前線	メディア総合研究所 / 花伝社 / 4-7634-0465-2 /
現代スポーツ社会学序説	海老原 修 / 杏林書院 / 4-7644-1566-6 /
現代スポーツのパースペクティブ	菊幸一他 / 大修館書店 / 4-469-26613-2 /

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
 (財)日本体育協会 <http://www.japan-sports.or.jp/>
 (財)日本オリンピック委員会 <http://www.joc.or.jp/>
 独立行政法人日本スポーツ振興センター <http://www.naash.go.jp/>
 (財)日本スポーツクラブ協会 <http://www.jsca21.or.jp/>
 (財)日本体育施設協会 <http://www.jp-taikushisetsu.or.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

電話番号とメールアドレスなどを講義時に公開する。事前にメールなどで連絡もらえば面談いたします。

その他 / Others

講義に対する理解を高めるため、講義内容に関連するビデオ鑑賞がある。
 ゲストスピーカーによる講義もありうる。

スポーツと現代社会 (SB)

15861

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

実践や消費などを通じて我々の生活と密接に関連しながら、一見していかなる権力からも「イノセント」な(であるべき)存在にみえるスポーツは、実のところ、優れた社会の合わせ鏡(表象装置)でもある。この前提を踏まえて本講義では、スポーツを通じて我々の眼前に提示される、社会の諸問題とその構造を明らかにしていきたい。

なお、本科目名は「スポーツと『現代』社会」であるが、不安定な「現代」という時代を定位するためにも、近代スポーツの誕生および歴史的展開過程に力点を置いた講義を展開する。(広義の身体文化を含む)スポーツが、いかなる社会/時代的背景のもとで、どのように我々の生活と結びついてきたのか、という点を学んだうえで、現代社会におけるスポーツの意味を読み解いていく。そして、この点を明確にするために、本講義ではオリンピックに焦点を据えたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①実践や消費のみに抛らない、スポーツへの批判的な眼差しを獲得する。
- ②スポーツを通じて現代社会が抱える諸問題の位相を知り、それにアプローチできる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツ関連の諸科目、現代社会関連の諸科目を履修することは、本講義の理解を深めるうえでも役に立つと思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツを通じて社会をみる	講義の目的・進め方についての説明
2	近代社会とスポーツ	「近代」スポーツの誕生
3	オリンピックの誕生とその理念	クーベルタンの理念 パブリックスクール ヨーロッパ社会の諸相
4	近代のムーヴメントとしてのオリンピック	社会ダーウィニズム 国際平和と西洋中心主義 万博とオリンピック 伝統の創造
5	国民国家形成とスポーツ	遅れてきた国家 政治的身体の構築 破棄される身体
6	ベルリン五輪とナチス・ドイツ	神話化 社会福祉とオリンピック 民族の祭典
7	戦前期日本のスポーツ構造	幻の東京五輪 スポーツ狂時代 思想善導 ラジオ放送
8	前半まとめ	前半まとめ・ビデオ鑑賞
9	戦後日本のナショナリズム	東京五輪(1964) 高度経済成長 戦前と戦後の連続性 労務対策
10	オリンピックと人種問題	メキシコ五輪 公民権運動 ベトナム戦争 アウターナショナルなスポーツ公共圏
11	スポーツと商業主義	ロサンゼルス五輪 メディア・イベント ユベロス商法
12	スポーツ構造の変化①	メディアスポーツ生産コングロマリット 消費の共同体 グローバル・ドリーム
13	スポーツ構造の変化②	スポーツ文化の自律性 ファン・レジスタンス 新しい社会運動
14	スポーツ構造の変化③	規律・訓練から群れの監視へ 新自由主義的グローバリゼーションとナショナリズム
15	スポーツと現代社会を考える	スポーツ・現代社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	10 %	自学自習を随時受け付ける。様式は自由(インターネットからの転用は一切認めない)。提出回数と内容に応じて加点する。なお、課題の提出は任意である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自らのスポーツ経験、あるいはスポーツニュースなどから得た興味と本講義を批判的に結びつけて受講することが望ましい。そうすれば身近な関心事としてのスポーツを、これまでとは違う角度で見つめ直すための一助になるだろう。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
オリンピックのすべて—古代の理想から現代の諸問題まで	ジム・パリーら著 / 大修館書店 / 4469266566 /
オリンピック全大会 人と時代と夢の物語	武田薫 / 朝日新聞社 / 4022599383 /
オリンピック・スタディーズ—複数の経験・複数の政治	清水諭ら編著 / せりか書房 / 4796702571 /
幻の東京オリンピックとその時代—戦時期のスポーツ・都市・身体	坂上康博・高岡裕之編著 / 青弓社 / 4787220365 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 (SA)

13169

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化にとらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれしてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷
第2回	古代の身体運動文化〔1〕	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化〔2〕	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化〔3〕	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化〔1〕	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化〔2〕	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化〔3〕	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生〔1〕	近代スポーツ誕生の社会的基盤およびその担い手
第9回	近代スポーツの誕生〔2〕	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生〔3〕	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生〔4〕	(ビデオ鑑賞)映画『炎のランナー』に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生〔5〕	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容〔1〕	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容〔2〕	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	選択問題および論述問題。授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代や中世の運動文化は近代スポーツとは大きくかけ離れているように見えるので、興味が沸きにくいこともあるかも知れない。しかし、私たちが日頃親しんでいる近代スポーツは、多かれ少なかれそうした近代以前の運動文化を基盤として成立したものであることは間違いなく、何かのほずみで古い時代の痕跡が顔を覗かせることもあるだろう。であるならば、近代以前の運動文化を知ることは近代スポーツそのものへの理解も深めることにもつながるのであり、そのような広い視野を持って古代以来のスポーツ文化の歩みを確認してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫／朝倉書店／4-254-69023-1／講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦／岩波書店／4-00-430901-8／古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生	松井良明／講談社／4-06-149512-7／イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献
スポーツの歴史	レイモン・トマ／白水社／4-560-05750-8／寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる
スポーツと帝国	アレン・グットマン／昭和堂／4-560-05750-8／近代スポーツの伝播と受容に関する文献

上記以外の参考文献については、配布レジュメに記載する。また、事典としては岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

数回に一度の割合で感想・質問等を書いてもらうことを、コミュニケーションペーパーの代わりとする。

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 (SB)

15859

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化にとらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれしてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷
第2回	古代の身体運動文化〔1〕	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化〔2〕	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化〔3〕	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化〔1〕	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化〔2〕	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化〔3〕	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生〔1〕	近代スポーツ誕生の社会的基盤およびその担い手
第9回	近代スポーツの誕生〔2〕	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生〔3〕	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生〔4〕	(ビデオ鑑賞)映画『炎のランナー』に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生〔5〕	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容〔1〕	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容〔2〕	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	選択問題および論述問題。授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代や中世の運動文化は近代スポーツとは大きくかけ離れているように見えるので、興味が沸きにくいこともあるかも知れない。しかし、私たちが日頃親しんでいる近代スポーツは、多かれ少なかれそうした近代以前の運動文化を基盤として成立したものであることは間違いなく、何かのほずみで古い時代の痕跡が顔を覗かせることもあるだろう。であるならば、近代以前の運動文化を知ることは近代スポーツそのものへの理解も深めることにもつながるのであり、そのような広い視野を持って古代以来のスポーツ文化の歩みを確認してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫／朝倉書店／4-254-69023-1／講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦／岩波書店／4-00-430901-8／古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生	松井良明／講談社／4-06-149512-7／イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献
スポーツの歴史	レイモン・トマ／白水社／4-560-05750-8／寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる
スポーツと帝国	アレン・グットマン／昭和堂／4-560-05750-8／近代スポーツの伝播と受容に関する文献

上記以外の参考文献については、配布レジュメに記載する。また、事典としては岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

数回に一度の割合で感想・質問等を書いてもらうことを、コミュニケーションペーパーの代わりとする。

その他 / Others

世界の言語と文化 (S)

13143

担当者名 / Instructor 文 楚雄、久津内 一雄、高橋 憲、仲井 邦佳、南 裕恵

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では、多言語、多文化の理解に力を入れています。世界の主要言語について基礎的な知識を持つことは、現在の国際化時代に極めて重要です。複数の言語を知ることは複眼的思考をすることに繋がります。

今の世の中では英語のできる人材は溢れています。さらにもう1ヶ国語のできる人材こそ必要とされていると言えるでしょう。

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの国の文化について、リレー方式で講義を行います。この科目は国際化入門科目ですので、特に国際問題に興味がある方には受講を奨励します。

到達目標 / Attainment Objectives

平和と民族共存に不可欠な異文化理解・多言語・多文化共生の可能性を探ります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入+中国語①	
2	中国語②	
3	中国語③	
4	スペイン語①	
5	スペイン語②	
6	スペイン語③	
7	ドイツ語①	
8	ドイツ語②	
9	ドイツ語③	
10	朝鮮語①	
11	朝鮮語②	
12	朝鮮語③	
13	総論①+フランス語①	
14	総論②+フランス語②	
15	総論③+フランス語③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

* 定期試験として実施します。

* 筆記試験による評価で、配点は、講義内容(各論=各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論=第13回~第15回講義)と関連した論述が四割となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

講義時随時レジュメを配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

美と芸術の論理 (S)

13150

担当者名 / Instructor 竹中 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美や芸術という、普段もつぱら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、まず古代ギリシアを起源とする西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論から始める。次に19世紀半ばから20世紀半ばまでの芸術を論じたモダニズム理論を検証し、さらに私たちと同じこの時代に生み出されている現代アートが置かれている状況や、現代アートがなにをどのように表現しているのかを考察していく。

また、芸術／非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念をとらえなおしたり、「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能しているかを問う視点にも議論を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

美術の歴史と様々な芸術論の基礎的知識を習得し、それを足がかりとして美や芸術について自分で考え、言葉にしていく力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業内容と進行の予定、および成績評価方法についての説明
2	様式論(1)	中世キリスト教美術、ルネサンス
3	様式論(2)	古代ギリシア、ロココとロマン主義
4	様式論(3)	ルネサンスとバロック
5	意味論(1)	イコノグラフィとイコノロジー
6	意味論(2)	マニエリスムとネーデルラント絵画
7	モダニズム論(1)	芸術の制度
8	モダニズム論(2)	印象主義と表現主義
9	モダニズム論(3)	抽象芸術とフォーマリズム
10	モダニズム論(4)	アヴァンギャルドと反芸術
11	視覚論(1)	近代の視覚性
12	視覚論(2)	写真の視覚性
13	視覚論(3)	視線の政治学
14	視覚文化論(1)	アートとサブカルチャー
15	視覚文化論(2)	アートのグローバル化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で提示する作品の多くはインターネット上で検索して見ることができるので、参考文献と併せて授業の復習に役立てましょう。

授業内容に関連した展覧会があれば紹介し、自主的な美術展見学や作品鑑賞を推奨します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	選択問題と記述問題によって、授業内容の習熟度と論述における合理性及び独自性を見る。試験時の持込みは一切不可。

出席は取りません。授業は全授業出席している受講生を念頭に置いて進めていきます。よって、公欠を除く欠席や遅刻・途中退出によって、授業の進行についていけなくなったり、連絡事項や試験問題についてのヒントを聞き逃したりしても、フォローはないことを理解しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献や参考ウェブサイトおよび配付資料は、下の参考になるホームページ欄でリンクしている授業用ホームページでも公開しています。

授業中に提示する画像は毎回50点以上あり、画質やサーバーの容量や著作権等々の問題により、配付資料やホームページでの公開は行っていません。よって、授業中は作品画像を見ながら素速くメモを取っていく集中力が必要となります。

教科書 / Textbooks

教科書はありません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
アートを学ぼう	大森淳史、岡林洋、川田都樹子編 / ランダムハウス講談社 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /
カラー版 20世紀美術史	末永照和監修 / 美術出版社 / /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウオーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /

その他の参考文献は、配付資料と授業内で提示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~artichoke/>

(※立命館大学のWebCTではありません)

「Class」のページに配付資料、「Links」のページに参考URLのリンク、「News」のページに連絡事項などを掲示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

質問は教室で直接行るか、TAが用意しているコミュニケーションペーパーを利用して行って下さい。

その他 / Others

以上、シラバスをよく読み、授業の方針や評価方法を納得した上で受講登録してください。

授業の概要 / Course Outline

講義テーマ: 戦争文学を読む

本講義では、明治から現代まで戦争を主題とした文学作品を取り上げる。

以下から分かるように、近代日本の歴史で戦争は大きな位置を占めている。日清戦争(1894-95)、日露戦争(1904-05)、第一次世界大戦(1914-18)、シベリア出兵(1918-22)、日中戦争(1937-45)、アジア太平洋戦争(1941-45)、朝鮮戦争(1950-53)、ヴェトナム戦争(1960-75)、湾岸戦争(1990-91)。

文学史でも、戦争文学は一つの系譜を形作るほど多くの作品が書かれている。本講義で考えたいのは、個々の文学者が戦争をどのように体験し、作品の表現からどのような戦争認識が読み取れるかである。

戦争は、単に大きな事件というだけでなく、社会構成を変化させ、国民の生活に直接働きかけるものでもあった。戦争文学の重要性は、そのような社会の動きを、あくまで個人の視点・感覚に即して描いている点にある。

本講義では、時代背景・表現の特徴を読み解き、作品の内容を理解すると同時に、現在に通じる問題点を取り上げることで、読者の「今」に繋がった把握を目指したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・各時代の文学作品の表現を理解し、内容を読み取る力を身につける。
- ・文学作品の歴史的背景を知り、それが書かれた社会情勢と関連づけて読み取る方法を学ぶ。
- ・文学作品の歴史性ととも、現在性を発見していく視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	講義の進め方・評価に関する説明、講義全体の目的
2	戦争と詩歌(1)日清・日露戦争	与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」他
3	描かれた日露戦争(1)	森鷗外「うた日記」「鼠坂」
4	描かれた日露戦争(2)自然主義作家の戦争体験	田山花袋「一兵卒」
5	描かれた日露戦争(3)	夏目漱石「趣味の遺伝」
6	日中戦争(1)表現の困難	石川達三「生きている兵隊」「武漢作戦」
7	日中戦争(2)女性作家の戦争体験	林芙美子『戦線』『北岸部隊』
8	詩歌と戦争(2)日中戦争・アジア太平洋戦争	高村光太郎・斎藤茂吉・渡辺直己 他
9	アジア太平洋戦争(1)植民地の戦争	周金波「志願兵」
10	アジア太平洋戦争(2)南方徴用作家の戦争体験	高見順「ノーカナのこと」
11	アジア太平洋戦争(3)南方徴用作家の戦争体験	井伏鱒二「遙拝隊長」
12	朝鮮戦争	松本清張「黒地の絵」
13	戦争体験の再生	野坂昭如「火垂るの墓」「アメリカひじき」
14	ヴェトナム戦争	開高健『輝ける闇』
15	まとめ: 戦争の記憶を遡航する	村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義中に取り上げた作品を選び、講義内容に基づいて記述する。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	出欠に替わるコミュニケーションペーパーを毎回配布します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回レジュメを配布し、それに基づいて講義します。受講する際には、作品を事前に読んでおくのが望ましいですが、手に入りにくいものもあるので、本文の必要な部分はレジュメに掲載します。

またレジュメ・本文の配布方法としてコースツールを利用しますので、初回のイントロダクションをよく注意して聞いておいてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生きている兵隊	石川達三 / 中公文庫 / 4122034574 /
戦線	林芙美子 / 中公文庫 / 4122047161 /
アメリカひじき・火垂るの墓	野坂昭如 / 新潮文庫 / 410112037 /

輝ける闇 開高健／新潮文庫／410112809X／

ねじまき鳥クロニクル 村上春樹／新潮文庫／4101001413,4101001421,410100143X／

テキストは全て購入する必要はありません。図書館などで閲覧してください。
上記以外は資料として配付します。また下記のHPも参照してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

戦争文学を読む 川村湊 他／朝日文庫／4022615885／

戦時下の文学—拡大する戦争空間(文学史を読む
みかえる) 木村一信 編／インパクト出版会／4755400961／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

青空文庫より 講義で取り上げる作品
与謝野晶子「恋衣」<http://www.aozora.gr.jp/cards/000318/card2086.html>
田山花袋「一兵卒」<http://www.aozora.gr.jp/cards/000214/card1066.html>
夏目漱石「趣味の遺伝」<http://www.aozora.gr.jp/cards/000148/card1104.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

文化人類学入門 (SA)

13282

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学の基本的考え方をその学説史を中心にして講義するとともに、文化人類学によって始められたフィールドワークの実践を、具体的な調査を基にして検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標は三本柱である。

- (1) 初期導入教育として、大学での学問の取り組み方についての理解とそのスキルへの自覚。
- (2) 文化人類学を中心とした社会科学の考え方の基礎を獲得すること。
- (3) フィールドワーク実践の動機づけとその方法についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本授業は一回生前期の授業なので、あらかじめとっておくべき授業はない。

しかしながら、「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会が必要とする人間と大学の役割	コミュニケーション力、フィールドワーク、学問
2	文化人類学の世界	文化人類学、最先端研究、異文化理解
3	人種主義との対決	単系進化、多系進化、人種
4	アメリカ文化人類学	文化相対主義、ボアズ、全体的アプローチ
5	構造主義以前の文化人類学	政治性、実証主義、経験主義
6	教育人類学と心理人類学	文化化、異文化間教育
7	イギリス社会人類学	比較社会学、社会構造、フィールドワーク
8	構造主義の考え方とその系譜(1)	関係性、全体性、交換性
9	構造主義の考え方とその系譜(2)	関係性、全体性、交換性
10	構造主義以後の文化人類学	ハビトウス、生態心理学、グローバリゼーション
11	フィールドワークとは何か	コミュニケーション力、主観と客観そして観
12	フィールドワークの方法	民族誌、マリノフスキー、異文化理解
13	フィールドワーク教育の事例(1)	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
14	フィールドワーク教育の事例(2)	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
15	文化人類学の学問的役割	他者理解、倫理、実践

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の読書を基本として、その延長上に参考書等の読書がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テストと論述テスト
平常点評価	40 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テスト(日付は学生に通達する)出席点(日付等を決めずに、時折実施する)

この授業で、大学の学問に目覚められるようにします。質問は、メールでも、そして個別でも受け付けます。

「求めよさらば与えられん」です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / ISBN978-4-88400-009-7 /

参考書 / Reference Books

参考書については授業時に、随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

Eメール及び個人面談(オフィスアワーについては授業中に指示する)

その他 / Others

「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

文化人類学入門 (SB)

13209

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学の基本的考え方をその学説史を中心にして講義するとともに、文化人類学によって始められたフィールドワークの実践を、具体的な調査を基にして検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標は三本柱である。

- (1) 初期導入教育として、大学での学問の取り組み方についての理解とそのスキルへの自覚。
- (2) 文化人類学を中心とした社会科学の考え方の基礎を獲得すること。
- (3) フィールドワーク実践の動機づけとその方法についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本授業は一回生前期の授業なので、あらかじめとっておくべき授業はない。

しかしながら、「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会が必要とする人間と大学の役割	コミュニケーション力、フィールドワーク、学問
2	文化人類学の世界	文化人類学、最先端研究、異文化理解
3	人種主義との対決	単系進化、多系進化、人種
4	アメリカ文化人類学	文化相対主義、ボアズ、全体的アプローチ
5	構造主義以前の文化人類学	政治性、実証主義、経験主義
6	教育人類学と心理人類学	文化化、異文化間教育
7	イギリス社会人類学	比較社会学、社会構造、フィールドワーク
8	構造主義の考え方とその系譜(1)	関係性、全体性、交換性
9	構造主義の考え方とその系譜(2)	関係性、全体性、交換性
10	構造主義以後の文化人類学	ハビトウス、生態心理学、グローバリゼーション
11	フィールドワークとは何か	コミュニケーション力、主観と客観そして観
12	フィールドワークの方法	民族誌、マリノフスキー、異文化理解
13	フィールドワーク教育の事例(1)	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
14	フィールドワーク教育の事例(2)	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
15	文化人類学の学問的役割	他者理解、倫理、実践

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の読書を基本として、その延長上に参考書等の読書がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テストと論述テスト
平常点評価	40 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テスト(日付は学生に通達する)出席点(日付等を決めずに、時折実施する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業で、大学の学問に目覚められるようにします。質問は、メールでも、そして個別でも受け付けます。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / ISBN978-4-88400-009-7 /

参考書 / Reference Books

参考書については授業時に、随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

Eメール及び個人面談(オフィスアワーについては授業中に指示する)

その他 / Others

「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

企業と社会 (S)

13186

担当者名 / Instructor 宇都宮 浩一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、私たちが暮らす社会と企業の関係について学習する。

私たちの暮らす社会では、様々な問題が日々生じている。これには企業が関係するものも少なくない。社会問題を企業という観点から見ることによって、問題の認識、評価、解決手法などについての視野を、さらに広げることが可能となる。

本講義では、企業に関する基礎知識を習得するとともに、企業と社会の関係性について学習することで、社会を見る上での新たな視野の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 多くの受講生が関わることになるであろう「企業」に関する基礎的知識の習得
2. 企業と社会の関係性について理解し、自ら考えること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	大学で何を学ぶか	企業や経営について知る意義
第2回	企業形態	企業概念、企業分類
第3回	株式会社の特質1	株、株主総会、株式会社の仕組み
第4回	株式会社の特質2	経営機関、経営組織
第5回	株式会社の特質3	持ち合い、M&A、提携
第6回	起業とは	起業家、アントレプレナーシップ、イノベーション
第7回	企業の成長と企業間格差	企業の成長、経営戦略、ベンチャー企業、大企業と中小企業
第8回	企業間関係	企業グループ、下請け、系列、企業集団
第9回	企業競争と独占	企業間競争、競争戦略、独占・寡占、公企業
第10回	現代の日本企業1	戦後復興、高度経済成長、バブル、平成不況
第11回	現代の日本企業2	就職氷河期、雇用システム、成果主義、過労死
第12回	現代の日本企業3	企業の社会的責任(CSR)、雇用と女性、環境問題
第13回	グローバル化と企業1	多国籍企業、直接投資、情報化
第14回	グローバル化と企業2	グローバル化が引き起こす問題、タックス・ヘイブン
第15回	新しい企業と社会の在り方	フェアトレード、NPO、NGO、社会的企業、地域と企業、まちおこし

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	アンケートなどから出席状況も加味します。

就職活動によって受講に支障が出る場合は、必ず事前に相談してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本経済新聞など、経済関係の新聞に目を通すようにしてください。

また、ワールドビジネスサテライト、ガイアの夜明け、カンパリア宮殿など、企業を取り上げるニュース番組やドキュメンタリーなども、機会があれば見てください。

教科書 / Textbooks

1. 教科書は特にありません。
2. 毎回レジュメを用意します。
3. 各講義回終了後にコースツールに掲載しますので、復習に活用してください。
4. したがって、講義ノートなどを購入する必要はまったくありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步 経営学	守屋貴司、小沢道紀、近藤宏一 / ミネルヴァ書房 //

ベーシック経営学Q&A

総合基礎経営学委員会／ミネルヴァ書房／／

タックスハイブン

クリスチアン・シャバニュー、ロナン・パラン、杉村昌昭訳／作品社／／

社会学

アンソニー・ギデンズ／而立書房／／

映画 ハゲタカ

／／／

講義中に追加することがあります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Other

- 1、コースツールを活用します。試験に関する情報なども、コースツールを通じて公表することがあります。
- 2、質問などがある場合は講義終了後の時間か、メールを活用してください。

その他 / Others

- 1、新聞やニュースなどの時事問題を扱います。
- 2、ビデオ教材、プレゼンテーションなどを使用します。
- 3、試験的に、講義中の意見集約手段として、Twitterの利用を検討しています。

担当者名 / Instructor 大平 祐一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、職場における性的嫌がらせ、婚姻にさいして氏を同じにすること、労働現場の変化と法、犯罪とそれに対する刑事罰のあり方、男女の平等な取り扱い、表現の自由とプライバシー、親子の法的問題等、現代における市民生活のなかで生ずる法的問題について論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

市民生活のなかで生ずるさまざまな法的問題についての基礎的知識、考え方を身につけ、健全な市民として成長できる素地を蓄積すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1章	はじめに	現代社会と法を学ぶに当たって
第2章	セクハラ	男女雇用機会均等 人間の尊厳
第3章	夫婦の氏	婚姻 自己決定
第4章	派遣労働	登録型派遣 派遣労働者の法的地位
第5章	犯罪と刑罰	罪刑法定主義 刑罰の正当化
第6章	民事裁判	弁論主義 裁判外の紛争解決
第7章	刑事裁判	適正手続 当事者主義
第8章	表現の自由	知る権利 情報公開
第9章	プライバシー・名誉毀損	私生活の覗き見 人格権
第10章	平等	男女の平等 アファーマティブ・アクション
第11章	親子	親権 相続
第12章	宗教と法	信教の自由 政教分離
第13章	国際社会と法	外国人 国籍
第14章	消費者と法	売買 消費者契約法
第15章	まとめ	法の理念

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業はテキストがなく、ノートをとる授業ですので必ずノートを持参して下さい。
参考書による自学自習、授業内容の復習が授業の学習に効果的です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業でとりあげた基本的なことがらを的確に理解できていること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に出席し、しっかりノートをとってください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
法学入門 第6版	末川博 / 有斐閣 / /
現代法学を学ぶ人のために	中川淳 / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代日本の政治 (S)

13174

担当者名 / Instructor 赤澤 史朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本政治の現状を理解することに焦点を当て、その背景となる制度や歴史に関する基本的知識の習得に力点をかける講義である。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本政治を成り立たせている、基本的な枠組みについて理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	政治とは何か(テキストの第1部1、2)	紛争と解決
第2回	正統性と権力(同上第1部3)	権力の実体説、関係説
第3回	国民権と自由・民主主義(同上第1部4、5)	間接民主主義
第4回	大衆民主主義と世論(同上第1部6、第3部16)	制限選挙、世論調査
第5回	日本の政治文化(同上第2部7)	集団主義
第6回	日本の選挙(同上第3部17)	小選挙区比例代表並立制、無党派層
第7回	議院内閣制(同上第3部17)	行政国家化
第8回	日本の議会(同上第3部20)	現代議会
第9回	官僚(同上第3部21)	大部屋主義
第10回	政党(同上第2部15、第3部22)	55年体制
第11回	圧力団体(同上第3部23)	経団連
第12回	地方自治(同上第3部24)	団体自治と住民自治
第13回	憲法改正問題	憲法第9条
第14回	外交と安全保障(第3部25)	日米安全保障条約
第15回	現代日本の政治と講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	政治学と現代日本政治の基礎的事項の理解を問う

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18歳から考える日本の政治	五十嵐仁 / 法律文化社 / /

毎回レジュメを出します。テキストに沿いつつ、テキストに書かれてないことも扱うこととする。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

現代の経営 (SA)

13293

担当者名 / Instructor 岩本 敏裕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、現代の経営を理解するのに必要な企業と経営の仕組み、それをとりまく社会・経済についての基礎的な知識を獲得すること、およびそれを通じて経営についての学習のモチベーションを高めることを主な目的とします。基礎的な知識の内容を学習するとともに、何を知る必要があるかを理解することが重視されます。このなかで、実際の現代の企業と経営について具体的なイメージを獲得することを目指します。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営を理解するのに必要な企業と経営の仕組みについての基礎的な知識の獲得。
- (2)現代の経営について学んでいく上で必要な経済・社会の仕組みや課題について、何を知る必要があるかを理解。
- (3)『日本経済新聞』、『日経産業新聞』、『日経ビジネス』などの新聞や雑誌を読む力、読みたいという意識を喚起。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学、経済学系の科目。
経営、経済、社会に関心を持つことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	大学でどう学ぶか	理論、企業の社会的責任論、企業倫理、組織、消費者、企業経営
第02回	第1部 企業とは何か 第1章 どんな会社があるのか— 業界と企業形態—	業種、業界、製造業、サービス業、法人企業、個人企業、非営利組織、営利企業、公企業、寡占、独占
第03回	第1部 企業とは何か 第2章 会社は誰のものか	株券、株価、株式市場、所有と経営の分離、ヒト、モノ、カネ、情報、金融商品取引法、消費者保護、ステークホルダー、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス
第04回	第1部 企業とは何か 第3章 会社の一生—ベンチャーから大企業への成長プロセス—	ベンチャー、大企業・中小企業、株式公開、倒産・清算、合併・買収、M&A
第05回	第1部 企業とは何か 第4章 会社は誰が動かしているのか	経営者、トップマネジメント、会長・社長・部長・課長・係長、取締役・常務・専務、CEO、組織構造とその機能
第06回	第2部 経営とは何か 第5章 会社で働くとはどういうことか—労働とマネジメント①	マネジメント・サイクル、日本的経営、ラインとスタッフ、モチベーション、労働組合、非正規労働者、派遣社員、賃金制度、成果主義
第07回	第2部 経営とは何か 第5章 会社で働くとはどういうことか—労働とマネジメント②	
第08回	第2部 経営とは何か 第6章 労働組合ってなに?—労使関係と労働組合—	労働組合、労働三権、労使関係、団体交渉、労使協定、連合、全労連
第09回	第2部 経営とは何か 第7章 会社は何に基づいて活動しているのか—経営戦略の基礎—	経営環境、経営理念、経営戦略、市場、顧客、競争、市場原理
第10回	第2部 経営とは何か 第8章 会社の動かし方としての「経営戦略」①	アンゾフ、ポーター、レビット、シナジー、SWOT分析、経験曲線、SBU、PPM、多角化
第11回	第2部 経営とは何か 第8章 会社の動かし方としての「経営戦略」②	
第12回	第2部 経営とは何か 第9章 ものが売れる仕組み	ニーズ、ウォンツ、コンセプト、マーケティング、流通、広告
第13回	第3部 経営とは何か 第10章 経済社会の動きと企業経営	高度成長、石油ショック、バブル、平成不況、円高・円安、経済のサービス化、新自由主義、景気循環
第14回	第3部 経営とは何か 第11章 企業の社会的責任と社会的企業の成長—企業の果たす役割—	社会的責任、企業倫理、過労死、サービス残業、雇用機会均等法、社会的企業、NPO、社会的責任投資、フェアトレード、まちづくり、女性、SRI
第15回	第3部 経営とは何か 第12章 国際化時代の企業	グローバルゼーション、多国籍企業、BRICs、中国・韓国・インド・ASEAN、国際社会と企業、南北問題、ODA、環境問題、グローバル・スタンダード、外国人労働者、インターネット、ICT

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	テキスト記載のキーワードについて、基本的な説明ができるかどうか。
平常点評価	20 %	小レポートなどの提出。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 日常から経営関連の新聞や雑誌に関心を持つようしてください。
- (2) 授業中の私語は厳禁とします。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『はじめの一歩経営学』	守屋貴司/近藤宏一/小沢道紀著/ミネルヴァ書房/978-4-623-04897-7 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

現代の経営 (SB)

15847

担当者名 / Instructor 上田 智久

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれを取りまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知っておかなければならないのか」を理解することが重視されます。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

経営に関する科目を履修していること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第2回	どんな会社があるのか	業種 業界 製造業 サービス業 法人企業 個人企業 非営利組織 営利企業 公企業 寡占 独占
第3回	会社は誰のものか	株券 株価 株式市場 所有と経営の分離
第4回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、 倒産・清算	ベンチャー 大企業・中小企業 株式公開 合併・買収
第5回	会社は誰が動かしているのか	経営者 トップマネジメント
第6回	会社で働くとはどういうことか	マネジメント・サイクル 日本的経営 ライン・スタッフ
第7回	前半7回の中間総括	
第8回	労働組合とは	労働組合 労使関係 団体交渉
第9回	会社は何に基づいて活動しているのか	経営環境 経営理念 経営戦略
第10回	会社の動かし方としての「経営戦略」	アンゾフ ポーター SWOT分析
第11回	ものが売れる仕組み	ニーズ ウォンツ コンセプト マーケティング
第12回	経済社会の動きと企業経営	高度成長 石油ショック バブル
第13回	企業の社会的責任と社会的企業の成長	社会的責任 企業倫理 過労死 サービス残業
第14回	国際化時代の企業	グローバルイゼーション 多国籍企業
第15回	まとめ・定期試験について	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述形式(持ち込み不可)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1)授業中の私語は厳禁。
- (2)毎回出席をとり、出席回数数が3分の2に満たない場合には単位認定の条件を失うものとする。
*ただし、出席は単位認定と定期試験の受験の必要条件にすぎず、成績評価には加味されない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步経営学	守屋貴司ほか/ミネルヴァ書房/

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

現代の国際関係と日本 (S)

15865

担当者名 / Instructor 篠原 美江

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマは『世界経済のグローバル化と日本』。現代の国際関係と日本について、主に経済的側面から学ぶ講義です。グローバル化の進展によって表面化した現代の世界経済における様々な諸問題について、日本との関連性を視野に含めながら総合的に把握し、それらの解決に向けていったいどのような第一歩を踏み出すべきか、議論を通じて理解を深めていくことが本講義の目的です。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、次の3点です。

- 1) 現代の世界経済における現状とその特徴について理解し、説明することができる。
- 2) 現代の世界経済を取り巻く諸問題について理解し、その要因について述べるができる。
- 3) 現代の世界経済における諸問題に対して、積極的に関わっていくための対応力、構想力、想像力を身に付けることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法、教科書、参考文献などについての説明
第2回	世界経済におけるグローバル化の進展	現代における世界経済の動向、戦後の世界経済体制の確立、ブレトンウッズ体制
第3回	世界貿易と自由貿易協定	GATTからWTOへの移行、貿易自由化の拡大、世界貿易における地域主義の台頭
第4回	多国籍企業と海外投資	国際投資の進展、企業の海外進出、多国籍企業の活動と諸問題
第5回	国際通貨体制	IMF体制の成立と変容、固定為替相場制、変動為替相場制、ドル体制の再編
第6回	人口問題と国際労働力移動	世界人口の動向、国際労働力移動の背景と問題点(頭脳流出(ブレイン・ドレイン))
第7回	食糧問題	世界の栄養不良の現状とその要因、飢餓、多国籍アグリビジネスの活動
第8回	平常点評価テスト	第1回～第7回の講義内容より出題
第9回	地球環境問題—その1	資源問題の本質と論点、枯渇性天然資源と非枯渇性天然資源、資源問題の将来
第10回	地球環境問題—その2	資源問題に関する具体的事例の検証
第11回	発展途上国と累積債務問題	南北問題の登場と国際金融、累積債務問題の背景、多国籍銀行、累積債務危機以後の途上国向け資金フロー、ワシントン・コンセンサス
第12回	冷戦体制崩壊後における世界の軍事化	冷戦崩壊後における軍事化進展の背景、民間軍事会社(PMC)の台頭
第13回	平常点評価テスト	第9回～第12回の講義内容より出題
第14回	日本による国際協力のあゆみ	世界におけるODAの現状、日本のODAの原点とその後の変遷、国際協力の多様化
第15回	講義のまとめ	全体の概観と到達目標の確認、コミュニケーションペーパーの質問と解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業に出てくる語句についてわからないものがあれば、授業後に必ず各自で調べるようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式の問題。授業中に取り上げた基本概念や重要語句の理解をもとに、出題された問題に対して論理的に説明できるかどうかを中心に評価する。
平常点評価	20 %	学習到達度を確認するために平常点評価テスト(第8回、第13回)を行います。具体的な内容については、講義内で説明します。

最終的な成績評価は、定期試験を中心に平常点評価テスト(2回分)を加味して行います。

ただし、コミュニケーションペーパーの提出については、あくまでも「定期試験+平常点評価テスト2回分」の評価に対する補完的な評価として扱うこととします。そのため、ただ単にコミュニケーションペーパーを書いて提出すればよいというものではなく、それらの内容に応じて加点を行うので、提出するときにはくれぐれも注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたって、経済に関する特別な知識は必要ありません。

ただし、新聞やテレビ、インターネット等を通じて国際関係や世界経済などに関する情報と日常的に接し、関心を高めておくことが、講義をさらに理解するための手助けになります。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル資本主義—危機が繁栄か	ロバート・ギルピン / 東洋経済新報社 / /
世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す	ジョセフ・E・スティグリッツ / 徳間書店 / /
現代世界経済をとらえる	石田修 [ほか] 編 / 東洋経済新報社 / /
現代国際金融論【第3版】	上川孝夫 [ほか] 編 / 有斐閣 / /

その他の参考文献については、講義内で説明します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連貿易開発会議 (UNCTAD) のHP <http://www.unctad.org>

経済協力開発会議 (OECD) のHP <http://www.oecd.org>

その他については、講義内で説明します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

平常点評価(平常点評価テストとコミュニケーションペーパー)については、QRコードシールで全て管理するので、提出の際には必ずQRコードシールを持参すること。忘れた場合については、成績評価の対象として一切対応しないので、十分に注意すること。

パワーポイントを使って講義を進行するので、レジュメを配布します。ただし、各回講義終了後におけるレジュメの配布には一切対応しないので注意すること(公欠は除く)。

現代の世界経済 (S)

15902

担当者名 / Instructor 朝日 稔

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化が進んでいる現代の国際社会において、世界経済を舞台にした様々なドラマが繰り広げられている。こうしたドラマを読み解くために、本講義では政治、経済、社会、文化のそれぞれの相互関係や歴史的背景を基礎から把握することを主眼におく。そのことを通じて、現代世界について生き生きとしたイメージと多様な問題関心を深めていくことを望む。本講義では経済学の基礎知識を特別に必要なしないが、共通科目として現代世界経済について大いに関心を持ち、広範にまなび、かつ考えていきたいという学生諸君を歓迎する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界経済をグローバルな視点から捉え、世界経済に関するニュースや新聞記事に関して関心を高め、自分なりの考えをもてるようにすることを目標としている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定する科目はないが、政治や社会や経営にもあわせて関心をもち、それらを総合的に理解する力を養うことが大事です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	21世紀の世界経済を概観する	
第2回	グローバル化とはどういうものか	
第3回	グローバル化はどのように発展してきたか: グローバリティ I - 貿易と決済、海外投資	
第4回	グローバリティ II: 国際生産、技術移転、移民	
第5回	グローバリズムとグローカリズム	
第6回	多国籍企業 I: 基本的特質	
第7回	多国籍企業 II: 活動と形態	
第8回	消費社会の成長過程: 欲望の増大、大衆化、消費拡大	
第9回	ブランドの確立と普及: 個性化、多様化、ブランド愛好	
第10回	サービス経済化の進展: 知財化とイメージ重視	
第11回	ハリウッド映画産業の興隆とグローバル化: 「ハリウッドビジネスモデル」の考察	
第12回	知識資本の時代	
第13回	アメリカ単極世界の虚実: 「帝国」への野望とその挫折	
第14回	「マルチチュード」: グローバルな資本の運動とその対抗軸	
第15回	講義の総括: 21世紀世界の行方	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は課題の一部であり、大切なことは大いに問題関心を深めて、自ら学習していくことである。この授業を基にして現代世界についての認識を高め、いっそう学習が進むことを期待しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	

評価は最終テストを基本にするが、授業中に1~2回程度レポートを課し、その評価を成績評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の進行の妨げになるので、授業中の私語を厳禁です。守ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際政治経済学の新機軸—スーパーキャピタル ズムの世界—	関下稔/晃洋書房/ISBN978-4-7710-2028-3/2009年2月

講義はテキストに沿って行うので、テキストをよく読んで講義の復習をしておくことが、テストにパスための最善の策です。具体的な講義は板書を基に行い、テキストの該当箇所を明示する。また必要に応じて、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

質問を大いに歓迎するので、できるだけ、質問して、疑問を解消していくことが大事です。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松井 章浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、法の視点から国際社会の動きを学習します。具体的には、犯罪と刑罰、とくに死刑を素材にして、国際社会を規律する国際法の基礎を学びます。

日本でも2009年5月から裁判員裁判が始まり、2010年11月、12月には裁判員裁判で実際に死刑判決が下されました。みなさんも近い将来に裁判員に選ばれ、死刑という判断を下す局面に立たされるかもしれません。

この死刑の問題は日本国内にとどまるものではありません。世界にはすでに死刑を廃止している国もあります。国連総会は死刑存置国に死刑執行を一時停止するように求めることを決議しました。自由権規約委員会も日本の死刑に懸念を示しています。死刑存置国への犯罪人引渡が拒否される事例もあります。国際問題にもなりうるのです。

そこで、裁判員制度が動き始めたこの時期に、国際法の視点から犯罪、刑罰、死刑といった問題を考察し、同時に国際法の基礎知識を獲得して、最終的には「国とは何か」、「法とは何か」といった問いを思考する講義をめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 国際社会を規律する国際法の基礎知識を獲得する。
- (2) 実際に生じた事例の内容を正確に把握して、論理的に検討することができる。
- (3) 法的な視点から国際社会を俯瞰し、国そのものや法そのものを思考することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法は社会のあらゆる事象と関わっています。文系理系を問わず、さまざまな科目を履修しておくことが間接的に役立ちます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の導入	この講義にはどのような目的と背景があるのか、日本における死刑の現実
第2回	死刑は国際問題なのか	死刑廃止は世界的な動向ではないのか、死刑を廃止する義務の不存在、国際社会の法構造
第3回	自国領域内における管轄権行使①	犯罪処罰の方法は各国の裁量ではないのか、属地主義、属人主義、保護主義、普遍主義
第4回	自国領域内における管轄権行使②	自国領域内でも管轄権を行使できない場合があるのか、駐留軍隊兵士、外交特権免除、主権免除
第5回	自国領域内における管轄権行使③	犯罪者を海外でも逮捕することができるのか、法執行の限界、犯罪捜査の国際協力、犯罪人引渡
第6回	自国領域内における管轄権行使④	自国領域はどのように決まるのか、空間秩序、領土紛争、海の境界
第7回	国際人権における死刑問題①	なぜ国際人権条約が結ばれるようになったのか、国籍、外国人の権利、国連における人権問題
第8回	国際人権における死刑問題②	人権条約は死刑をどう扱うのか、国連における人権問題、国際人権規約、欧州人権条約
第9回	国際人権における死刑問題③	死刑存置国への犯罪人引渡は拒否されるのか、自由権規約委員会、欧州人権裁判所
第10回	国際人権における死刑問題④	自国民に対する死刑執行を止められるか、国家間紛争の平和的解決、国際司法裁判所の仕組み、自国民の権利保護
第11回	戦後処理における死刑①	戦争犯罪人に死刑を執行できるのか、戦後処理として執行される死刑、第二次大戦後の戦争犯罪処罰
第12回	戦後処理における死刑②	武力行使の違法化、集団安全保障、軍縮問題、戦争犯罪の処罰方法
第13回	戦後処理における死刑③	国際刑事裁判でも死刑判決が下されるのか、重大な人権侵害の処罰、国際刑事裁判の種類
第14回	死刑の今後①	国連総会決議にはどのような意味があるのか、国連決議の方法と拘束力、日本への影響
第15回	死刑の今後②	日本は結局どうするのか、国際社会の動向と日本、終身刑の可能性、裁判員制度との関係

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この講義では教科書を使用します。講義中に教科書をすべて読解することはありませんが、国際法の視点から死刑問題を考えるために必要な知識が教科書にあります。講義の予習、復習に教科書を熟読することを強く推奨します。

また、参考書として提示している書籍のうち、『13階段』、『死刑はこうして執行される』のどちらか1冊をできるだけ早い段階(第5回くらいまで)に

一読することを推奨します。講義内容を理解しやすくなるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	国際法の基礎知識をどれくらい習得しているか、死刑の現状をどの程度理解しているかを試します。基本概念や語句の理解を確認する問題と、死刑を論理的に洞察する力を問う問題を出します。
平常点評価	20 %	「講義メモ」の提出は少なくとも2回実施し、評価が優れている2回分を最終評価に加えます。この「講義メモ」の提出は強制ではないので、提出するかどうかは受講者の判断に任せます(提出しなかった受講者も成績評価の対象とします)。なお、氏名や学生証番号しか書いていないメモを提出しても一切加点しません。

出席確認を行いません(いわゆる「出席点」は一切ありません)。

また、他の受講者の学習を妨げる者には受講を認めません。他の受講者の学衆を妨げる者には定期試験の結果にかかわらず単位を与えません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義では「法」の問題を扱いますが、大多数の受講生が「法」を初めて学習することを前提に講義を行います。他方、この講義で扱う問題は現実の社会で実際に生じているものです。日々の報道からも学ぶことが多いです。日本のこと、国際社会のことに敏感になりましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック 法と国際社会	徳川信治・西村智朗 編 / 法律文化社 / 2011年春に出版予定。教養として国際法を学ぶ者を対象とした教科書である。

講義では教科書を適宜参照するので、必携してください。

また、レジュメと資料を配付します。レジュメと資料を紙媒体で配布するのは講義中のみです。コースツールにも掲載するので、紙媒体のレジュメや資料を入手できないときは、自らダウンロード、印刷してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13階段	高野和明 / 講談社文庫 / 4-062-74838-X / 死刑囚、刑期を終えた者、犯罪被害者の遺族など、犯罪に関係した者たちの懊悩を描いた小説。日本の死刑制度、犯罪処罰の現状を問う一冊。
死刑はこうして執行される	村野薫 / 講談社文庫 / 4-062-75304-9 / 死刑の是非を議論するために必要な情報(死刑執行の現状など)を詳細な取材をもとにまとめている。
国際法(Sシリーズ)[第5版]	松井芳郎 他 / 有斐閣 / 4-641-15927-3 / 講義で扱う国際法全般を見渡すのに適している。
判例国際法[第2版]	松井芳郎 編集代表 / 東信堂 / 4-88713-675-7 / 国際法に関する事例を調べるのに適している。

参考になる文献は他にも多くある。講義のなかでも紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際連合 <http://www.un.org>
 外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
 国際司法裁判所 <http://www.icj-cij.org>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

担当者は非常勤であるので、メール、コースツールによる連絡が確実です。メールアドレスは講義中に知らせます。

その他 / Others

立命館大学の衣笠キャンパスには、京都国連寄託図書館、立命館大学ヨーロッパ審議会資料コーナーもありますし、京都地方裁判所で陪審裁判に実際に使われていた「15号法廷」が末川記念会館にあります。いずれもこの講義で扱う事件に関連しています。見学、利用してみましょう。

持続可能な開発 (GA)

13044

担当者名 / Instructor 高尾 克樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球温暖化の影響が顕在化しつつある21世紀の現在、化石燃料に依存してきた経済社会のあり方は曲がり角に差しかかっている。この講義では、われわれ人間社会の活動と自然環境とのかかわりについて見たうえで、長期的な環境保護と経済発展の調和について考えていきたい。具体的には、物質循環と代謝、地球環境変化のさまざまなメカニズム、経済社会の汚染排出構造、汚染者負担原則と外部費用、持続可能な開発をめぐる国際的な議論、先進国と途上国、などの論点について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.環境汚染のメカニズムを物質循環とエネルギー循環の視点から説明できる。
- 2.汚染者負担の原則を説明できる。
- 3.国際的な環境保護への歩みを説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 熱力学の二つの法則	熱力学
2	廃棄物とリサイクル	廃棄物、リサイクル
3	地球温暖化	地球温暖化
4	自然エネルギー	自然エネルギー
5	環境税	環境税
6	排出権取引	排出権取引
7	水の安全保障	水
8	生態濃縮と有害化学物質	生態濃縮、有害化学物質
9	環境災害(公害の輸出)	環境災害、公害
10	砂漠化	砂漠化
11	生物多様性、野生生物保護	生物多様性、野生生物保護
12	持続可能な開発とは	持続可能な開発
13	枯渇性資源の利用	枯渇性資源
14	途上国の貧困と環境	貧困
15	国際的な環境保護政策	国際環境政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	
平常点評価	25 %	折にふれて小テストを実施する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済学入門	ターナー、ピアス、バートマン / 東洋経済新報社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キャップ・アンド・トレード	高尾克樹 / 有斐閣 / /
不都合な真実	A.ゴア / ランダムハウス講談社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

ktakao@sps.ritsume.ac.jp

市民と政治 (S)

13342

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際政治を含む政治現象について、また、「日本国憲法」の基本原則について理解を得るために、民主政治とその理念の歴史的展開をたどりつつ、政治の基礎概念について説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法の基本理念と結び付けて、現代政治の基本的枠組み、および、その理念の生成と展開の歴史的な理解を期す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学、歴史学、経済学など、社会科学関連学科目の履修ないし併行履修。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	序論	課題と方向
2回	日本国憲法「前文」の政治理念	国民主権、平和主義、基本的人権
3回	同上	
4回	同上	
5回	政治体制の編成	英米の政治体制、民主政治の思想家たち
6回	同上	
7回	同上	
8回	政治体制の現代的再編	行政国家、圧力団体、政党と政党制の比較、民主政の諸モデル
9回	同上	
10回	同上	
11回	戦後世界と日本	アメリカのヘゲモニー
12回	同上	
13回	グローバル化とは何か	国民国家、国際化、民主政の課題
14回	同上	
15回	全体の概括と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

欧米の歴史書や新聞を読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	設問にたいする論理的説明を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必要に応じてアドバイスする。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政治学入門—歴史と概念	中谷義和 / 法律文化社 / /

参考書 / Reference Books

参考書については、その都度指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

日本経済についてのマスメディアの報道を見ると、悪い悪いの大合唱で、次代を担う学生の皆さんも一生懸命勉強して将来の人生を切り開いていこうという元気が出ないのではないのでしょうか。確かに経済が長らく不振なのはその通りですが、何がその原因なのか、どうしたらよいかとなると、さっぱり結論が出ません。またテレビの番組などでは、世界に雄飛する元気な会社や個人も紹介されています。中国など近隣の新興国がどんどん発展して日本が取り残され産業が「空洞化」する、と言われるますが、周りが元気だからこそ日本経済もそれらの国々と手を携えてやっていけるのです。人口が減って衰退すると言われるますが、世界の人口がなお増え続けるときに人口が減って困るのでしょうか。この講義は、戦後の日本経済の発展を振り返りながら、悲観論に振れる世の中の論調に批判的な眼を向け、どうすれば日本の経済社会の将来を切り開いていけるのかを一緒に考えてみるのが狙いです。

到達目標 / Attainment Objectives

第1の目標は、「日本経済新聞」をはじめとする新聞の経済記事やNHKニュースなどの経済報道の内容を理解し、それを鵜呑みにしないで批判的に接種できる素養を磨くことです。

第2に、これから経済学や社会学などを学んでいく皆さんに、常に理論と現実のつながりを意識して勉強する態度を身につけてもらうことです。また、とくに経済統計に親しみ、データや図表を読み解く訓練をします。

第3に、将来卒業して社会に出てから政府や企業、非営利団体などで政策や経営戦略を立案しようとするときに必要となる経済的思考方や論理構成を理解し活用する能力を養うことです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本の経済社会は世界からどう評価されているか	日本経済の世界に占める位置と豊かさ; 企業の「競争力」のランキング; 世界の発展への貢献度
2	日本経済はどのくらい「悪い」のか	日本経済の「成長力」と現実; 厳しさの続く雇用情勢; 戦後世界ではじめての「デフレ」; 大震災と日本経済
3	戦後の高度成長とはどんなものだったのか	戦後の経済発展; 先進国へのキャッチアップ; 日本産業の近代化; 出遅れた産業や地域と格差の拡大; 高度成長のひずみと環境破壊
4	戦後の発展を支えたシステム(1)—企業と従業員の長期的雇用関係	戦後日本の経済システムとは; 終身雇用; 年功序列賃金; 日本的雇用慣行のメリットとデメリット
5	戦後の発展を支えたシステム(2)—銀行と企業の長期的取引関係	メインバンク制とは; メインバンク制のメリットとデメリット; 過大な貸し出しによるバブルへの道
6	戦後の発展を支えたシステム(3)—日本型システムの経済理論からの説明	長期安定的な取引慣行; 「情報の非対称性」理論; 「逆選択」と「モラルハザード」
7	高度成長の終焉と日本経済の対応の遅れ	キャッチアップ型成長から自由競争型発展への転機; 二度の石油危機への政府や産業の対応
8	バブルはなぜ起こったか	バブルを発生させた長期的背景としての戦後経済システム; 短期的背景としての海外への配慮と円高の進行; 今では考えられない楽観論と過大な投資; バブル崩壊による経済の停滞
9	世界で最悪となった日本の財政(1)—1990年代からの財政悪化と財政再建の失敗	1970年代から悪化した日本の財政; バブル崩壊後の財政の本格的悪化; 繰り返された財政再建策の失敗
10	世界で最悪となった日本の財政(2)—人口高齢化と税負担増の先送りのツケ	財政赤字と政府の借金の現状; 人口高齢化で増え続ける社会保障費; 税収では支出の半分もまかなえない財政構造と増税の先送り; 今後の財政再建シナリオ
11	日本の産業・企業の「競争力」低下と産業「空洞化」は本当か(1)—産業空洞化とは	中国など新興国に流出する日本のものづくり産業; 産業の「空洞化」とは; 国際貿易の理論が教える「比較優位」と「国際分業」; スマイルカーブにみる国際分業
12	日本の産業・企業の「競争力」低下と産業「空洞化」は本当か(2)—アジア太平洋地域のダイナミックな発展と日本産業	環太平洋経済のダイナミックな発展と結びつきの強まり; グローバル・バリュー・チェーンの形成と日本産業の役割; 日本の得意とするものづくり分野とアーキテクチャ
13	人口減少と少子高齢化をどう考えるか(1)—確実に進む人口減少と高齢化	将来の人口推計と世代別の動き; 「少子化対策」とは; 世界の「少子化対策」の効果は本当にあったのか; 人口減少は本当に問題か; 高齢化は本当に問題か
14	人口減少と少子高齢化をどう考えるか(2)—公的年金・医療・介護制度は持続不可能	公的年金・医療保険・介護保険の現行制度とこれまでの「改革」; 将来の高齢化と制度の持続可能性; 現役世代のうちにしておくべきこと

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

事前配布されたテキストを読んでくること。

毎回の講義について、コースツールでコミュニケーション・ペーパーを提出してもらいます。内容は、①前回の講義で分かったこと・意見、②前回の講義で分からなかったこと・質問、③当日の講義での関心事・学びたいこと、④授業の改善のための提案、⑤その他。①③は必須。受講者が最低限の予習・復習を確実に行ったかどうかを評価するためのものなので、そこをわかるようにしてください。重要な質問には回答集を毎回の講義で配布し、必要な場合は補足説明します。

「日本経済新聞」などの経済記事に目を通すこと。いくつかの記事を一通り読んだ後で、それぞれの書かれた内容を頭の中で整理してみてください。

その他は授業時に指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	試験は文章の穴埋め、重要語句の説明、論述問題から成ります。重要な語句の理解度、図表の読解力、そして、現実の問題の理解と論理的解釈、処方箋の提示などの論述を重視します。自らの考えと論理的説得力を特に評価します。
平常点評価	30 %	①毎回コースツールで提出してもらったコミュニケーション・ペーパーの内容を評価し、標準点は各回1点として、内容に応じて0.1~2点を評価点とします。仮に講義に欠席した場合でも、当該授業の箇所をテキストで学んで次回までにコミュニケーション・ペーパーを提出すれば評価対象となります。 ②2回ほど課題を出し、内容を評価します。各回1点~5点。 ③その他講義時の質問や意見などを評価します。

* 定期試験として実施 * 日常点評価

講義中の私語は講義への妨害行為として厳禁し、行為者は学生証番号を記録した上で退室させます。

講義中挙手をして許可を得た上での意見や質問(あるいは講義後でも)を歓迎し、講義の内容改善に貢献する場合には日常点に評価点を加えます。コミュニケーション・ペーパーや学内メールなどでの意見や質問も同様です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①広範な現代経済問題を限られた時間でこなすため、講義中に十分な説明をすることはできません。事前配布されたテキストを読んでくること、そして講義後の復習が、内容を理解するための必須条件です。現実の経済制度、政策を学ぶので、多くの経済・経営用語が出てきますが、原則としてわからない言葉は自分で経済辞典やwebなどで調べるようにしてください。講義に出席するだけで内容を理解することは不可能です。
- ②講義は必ずしもテキストに書いてあることを忠実に説明するのではなく、現実の政策づくりの裏話など「横道」にそれることも多い。経済政策決定現場のリアルな状況を知ることもこの講義の重要な目的と考えます。
- ③新聞の経済欄には常に目を通すことを心がけてください。

教科書 / Textbooks

テキストは特に使用せず、PowerPointによるプレゼンと、配布テキスト(PowerPointファイルをNote形式でプリントしたもの)により行なう。配布資料は原則として1週間前の授業で事前配布するので、必ず読んでくること。配布と同時にコースツールのレジュメ欄に掲載するので、配布当日欠席者はそこからダウンロードすること。質問への回答集も同様。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
有斐閣「経済辞典」(第4版、2002)	／有斐閣 ／本講義のみならず経済・経営問題理解のために極めて有益。英文見出しも充実し、英文の読み書きにも有益。
日本経済読本(第18版、2010)	金森久雄他 ／東洋経済新報社／4-492-10008-3 ／日本経済の広範な問題をカバーする入門書。
経済財政白書(平成23年版ほか)	内閣府 ／国立印刷局 ／毎年夏に出る。講義で使うわけではないが、経済社会を学ぶ学生は必携。
OECD対日経済審査報告書2009年版	OECD ／明石書店 ／国際機関の日本経済分析と政策提言。

以上は講義全体にかかわる参考書。個々のテーマについては、分野が多岐にわたるため、そのつど提示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

内閣府HP <http://www.cao.go.jp/>(経済財政政策、GDP(国内総生産)などの統計、月例経済報告など、データや経済分析の情報)
日本銀行 <http://www.boj.or.jp/>(金融政策、金融関係データ、経済分析の論文)
その他、各省庁HP、学内の情報検索システム(特に日経新聞)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学内メール aft20007@ec.ritsumei.ac.jp

講師は講義日以外はBKCにおり、講義日も授業終了後は朱雀キャンパスに行くので、衣笠キャンパスで会うことは難しい。原則としてメール

でのやり取りとなることをお許ください。

その他 / Others

日本国憲法 (S)

15879

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々の生活を規律しながら、その実態を把握することが難しい法。その中でも最も基本的な法である憲法が、どのような考えの下に作られ、どのように働きをしているのかを学んでいく。現実社会で起こる様々な問題に対処できるよう、出来る限り具体的な例を挙げながら、基礎知識と法的な思考を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	近代立憲主義、大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	国民主権、天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位、メディア、知る権利
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュー・プロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	統治機構3(国会・内閣・裁判所)	裁判所の役割、裁判員制度
15	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義では、出来る限りエッセンスを分かりやすく解説しようとするため、詳細な知識や判例などは授業外で補う必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
平常点評価	30 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど。 講義中の応答など。

小テストの回数などは、講義の進行速度により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

資格試験などを旨とする受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

いま日本国憲法は—原点からの検証(第5版)

小林 武 ほか編集／／／出版予定

出版予定である、第5版を使用予定である。
第4版とは、内容が異なるので注意すること。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

新しい日本史像 (S)

15854

担当者名 / Instructor 佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 平安時代の京都

概要: 古代から中世への移行期である平安時代の京都に関する諸問題を、近年の研究成果をふまえて紹介します。様々な角度から、日本における古代から中世への移行過程の特質を考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・歴史学の研究方法を習得するとともに、歴史と文学の関係や歴史的「事実」とはどのようなものなのかを理解する。
- ・異なる世界(この授業では日本古代・中世社会)の人々の生活環境、思考方法、価値観に接し、現在の日本社会に生きる私たちのものの見方・思考方法、社会環境を相対化した上で、現代社会の様々な出来事に問題意識をもつことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに—大学で「歴史」を学ぶとは？	授業計画 概要 目的
第2回	都市と住人①—平安京の成立と庶民のくらし—	桓武天皇 市 祭礼 怨霊
第3回	都市と住人②—平安京の成立と庶民のくらし—	桓武天皇 市 祭礼 怨霊
第4回	古代・中世の対外意識①	華夷思想 蝦夷戦争 穢れ 唐物
第5回	古代・中世の対外意識②	華夷思想 蝦夷戦争 穢れ 唐物
第6回	平安貴族社会と政治①	摂関政治 政務 儀式 古記録「イエ」
第7回	平安貴族社会と政治②	摂関政治 政務 儀式 古記録「イエ」
第8回	王朝文化と貴族のくらし①	後宮 女官 紫式部 女房装束
第9回	王朝文化と貴族のくらし②	後宮 女官 紫式部 女房装束
第10回	みやこと地方①	国司 受領 都鄙間交通
第11回	みやこと地方②	国司 受領 都鄙間交通
第12回	武士の成立と院政①	源氏 平氏 武士論 承平・天慶の乱
第13回	武士の成立と院政②	院政 強訴 荘園 保元・平治の乱
第14回	武士の成立と院政③	院政 平氏政権 鎌倉幕府
第15回	おわりに—授業のまとめ	「平安時代」とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述式の問題。 基本的な語彙や概念を正しく理解し、授業で取り上げた内容について、適切に論じることができるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業中に提出してもらった感想ペーパーや小レポートを日常点として加味する。小レポートは、講義のテーマに関わる各自の関心点について、調査・考察したことをまとめ、最終講義日までに提出すること(詳細は教室で説明します)。

第1回の講義日に詳細を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代・中世に関する概説書や古典文学作品などを積極的に読んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。随時、レジュメと資料を配付する。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

アメリカの歴史 (S)

15907

担当者名 / Instructor 宮下 敬志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

オバマ大統領の動向をはじめとして、アメリカ合衆国の「現在」に関する情報は、日本のメディアから簡単に手に入ります。また、アメリカが生み出した文化—「スタバ」だったり、「ピザ・ハット」だったり、「野球」だったり—に関する情報も、もはやそのルーツを意識しないほどに日本の生活に浸透しています。

一方、アメリカ合衆国の「過去」に関する情報は、幕末以来、様々な局面でこの国の歴史や文化に影響を与えたにもかかわらず、日本ではあまり流通していないようです。「現在」のアメリカ合衆国の政治や文化が、そこに住む人々のどのような考えの上で生み出されてきたものなのかについて、皆さんもこれまで関心がなかったのではないのでしょうか。

そこで、この授業では、我々に馴染みのないアメリカの「過去」についての情報を、下で説明するような3つのトピックに分けて説明していきます。そうすることで、最終的に、「現在」のアメリカや日本のことを自分の頭で深く考えていくことができるようになることを目標にします。

①「超大国アメリカの光と影」

この単元では、アメリカ史の流れを理解するため、アメリカの歴史と地理についての基本知識を学びます。

アメリカを超大国にした経済発展や、発展の裏返しとして生じた労働問題や環境問題に結びつけながら、これらを解説していくつもりです。アメリカ史を始めて学ぶ人のための単元です。

②「我々のアメリカ、我々のアメリカ史」

この単元では、アメリカに住んでいる多様な人々の歴史を学びます。北アメリカは、「先住民」がアジアから移動してきて以来、ヨーロッパ・アフリカ・アジアなどからきた人々を加えながら人口を増やしてきました。これらの人々は、それぞれの母国文化を持ち込んで、アメリカ文化を多様なものにしていきました。しかし、力のなかった一部の人々(マイノリティ集団)はアメリカの支配的な人々が作った文化を受け入れることを強いられていました。授業では、いくつかのマイノリティ集団を取りあげながら、彼らにとってアメリカ、彼らにとってのアメリカ史とは何だったのかについて解説していくつもりです。

③「国民国家としてのアメリカ」

この単元では、多様な背景を持つ人々を合衆国がどのように国民として統合してきたのかについて学びます。

はじめに、自由や民主主義という政治理念が合衆国の統合に果たしてきた役割について解説します。その上で、キリスト教や、女性運動、大衆文化が統合に与えた影響について説明していきます。これらをふまえて、合衆国の国民統合をめぐる論理が、自由や民主主義を世界に強要する「帝国」主義に変質するまでの経緯について最後に解説していくつもりです。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・アメリカ史に関心を持ち、意欲的に知識を吸収しようという学習態度を育む(関心・意欲・態度)
- ・アメリカ史の問題点について、自分の意見を持つことができる(思考・判断)
- ・アメリカ史全体の流れとその問題点について、簡単な論述ができる(知識・理解)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「超大国アメリカの光と影(1): アメリカにおける経済発展の歴史	アメリカ史を学ぶ上での基礎知識、アメリカの経済発展、国土の開発(第2章)
第02回	「超大国アメリカの光と影(2): アメリカにおける環境保護の歴史	イエローストーン国立公園、環境保護と環境保全、20世紀のエコロジー運動(第1章)
第03回	「超大国アメリカの光と影(3): アメリカにおける労働問題の歴史	大農場とアフリカ人、大企業と労働者の戦争、大量生産時代の働き手たち(第3章)
第04回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(1): 先住アメリカ人(インディアン)の歴史	白人と先住民の戦争、寄宿学校での「文明化」教育、先住民の団結と抵抗(第4章)
第05回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(2): アフリカ系アメリカ人の歴史	アフリカ系とヨーロッパ系の結婚、「混血」を禁止する法律、現代の状況(第6章)
第06回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(3): ラティーノ/ヒスパニックの歴史	アメリカ・メキシコ戦争、ブラセロ移民、チカノ運動、「不法」移民(第7章)
第07回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(4): アジア系移民の歴史	クーリー労働、ゴールドラッシュ、移民排斥運動、中国系アメリカ人(第8章)
第08回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(5): ヨーロッパ系移民の歴史	アイルランドのジャガイモ飢饉、ワズプ、イタリア系アメリカ人、新移民(第5章)
第09回	「国民国家としてのアメリカ(1): アメリカの政治思想と社会改革	奴隷解放運動、アフリカ系国外移住とリンカーン、移民のアメリカ化(第10章)

第10回	「国民国家としてのアメリカ(2):大統領制度と国民統合	大統領の弾劾裁判、ニューディール政策、帝王的大統領制度(第11章)
第11回	「国民国家としてのアメリカ(3):星条旗と国民統合	星条旗と独立戦争、南北戦争と星条旗の神聖化、星条旗崇拝儀礼の確立(第12章)
第12回	「国民国家としてのアメリカ(4):宗教と国民統合	アメリカ憲法と政教分離、カトリック教会の歴史、モルモン教の歴史(第13章)
第13回	「国民国家としてのアメリカ(5):スポーツと国民統合	大リーグの成立、野球神話の創造と国民統合、アスリートの公民権運動(第14章)
第14回	「国民国家としてのアメリカ(6):アメリカにおける女性／女性の歴史	女性とうわさ話、中産階級の女性らしさ、現代世界と「ダディ・ロール」(第9章)
第15回	「国民国家としてのアメリカ(7):帝国と国民統合	アメリカ人が「戦う」理由、南北戦争、米西戦争、冷戦、イラク戦争(終章)
※(第〇章)は『アメリカの歴史』の各章に対応しています		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	持ち込み無し(毎回の授業にしっかり出ることが必要です)
平常点評価	0 %	授業中に私語・睡眠・無断で途中退出を繰り返す学生は、教室からの退出を求めます。妨害が著しい場合は、定期試験の成績を減点することもあります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では毎回簡単なレジメを配布します。しかし、ノート・メモを取ることを重要視します。プレゼンテーションソフト(プラズマディスプレイ)を多用しますので、授業では見やすい位置に座ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実	有賀 夏紀(編集), 油井 大三郎(編集) / 有斐閣アルマ / 978-4641121621 /

高校の時のように、教科書に沿って読み上げるような授業ではありません。教科書は主に、授業の予復習に使ってもらいます。(毎回レジメに教科書の参照ページを載せています)

教科書は、前もって生協などで購入して持参してください。もちろん、教科書交換会を利用したりインターネットなどを経由して古本を買ってもよいです。

<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>

<http://www.amazon.co.jp/gp/offer-listing/4641121621>

<http://www.bookoffonline.co.jp/display/001.iscd=0012643715>

参考書 / Reference Books

授業中に紹介していきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 (S)

13152

担当者名 / Instructor 矢島 洋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イスラーム世界に関する基礎知識を体系的に学ぶ。まず宗教としてのイスラームの基本について解説した後、イスラーム世界のいくつかの国家や地域を取り上げてその歴史と現状について概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

イスラームに関する正確な基礎知識を修得する。その際特に、(1)イスラーム世界の多様性を認識し、多様なイスラームを多様なまま理解すること、(2)イスラーム世界の現状を理解するために必要な歴史的知識を得ること、の二点を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論	授業の方針、用語
2	イスラームの基本(1)	六信五行
3	イスラームの基本(2)	多様性
4	イスラームの宗派	スンナ派、シーア派
5	イスラーム法(1)	シャリーア
6	イスラーム法(2)	現代のイスラーム法
7	ムスリム美術	偶像崇拜の禁止、絵画・書道・工芸・建築
8	トルコ	世俗主義
9	イラン	イスラーム主義
10	湾岸諸国	君主制、産油国
11	中央アジア諸国	旧ソ連
12	アフガニスタン	英露関係、冷戦、ターリバーン
13	ヨーロッパ	移民、スカーフ
14	日本とイスラーム(1)	
15	日本とイスラーム(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	すべて講義の内容から出題し、知識の修得度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は継続して出席すること。また、必ずノートをとること。

教科書 / Textbooks

必要に応じて何度かプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
岩波イスラーム辞典	大塚和夫ほか(編) / 岩波書店 / 4-00-080201-1 / イスラーム関係の用語を調べるのに便利である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

エリアスタディ入門 (S)

15824

担当者名 / Instructor 藤巻 正己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業テーマ:「旅の経験から人文学的地域研究へ」

本講義では、政治経済社会文化的に総合的現象ともいえるツーリズム(観光)を切り口にして、自身の世界観[再]構築のための方法ともいえる「地域研究」(エリアスタディ)の有用性について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) エリアスタディとは何かを他者に対して適確に説明できる。
- (2) ツーリズムという観点からのエリアスタディの有意義さを具体例をあげて説明できる。
- (3) ツーリズム現象を素材にして、他者に対して当該地域の特性について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「旅の経験」から「人文学的地域研究」へ	旅の経験、地域研究(エリアスタディ)
第2回	エリアスタディとは何か	エリアスタディ、学際的総合的アプローチ、フィールドワーク
第3回	エリアスタディとフィールドワーク	フィールドワークの進め方
第4回	ツーリズムとエリアスタディ	ツーリズム、ツーリズム研究からエリアスタディへ
第5回	アジアにおけるツーリズムの動向	観光立国、多様なツーリズム、ツーリズム空間の生産
第6回	ツーリズムの政治経済社会文化的意味	貧困克服のためのツーリズム、国民統合政策、観光と政治
第7回	マレーシアにおけるツーリズムの風景(1)	多民族国家、観光戦略、ツーリズム・マレーシア
第8回	マレーシアにおけるツーリズムの風景(2)	少数民族観光、オランアスリ
第9回	タイにおけるツーリズムの風景(1)	タイ・ナショナリズム、少数民族
第10回	タイにおけるツーリズムの風景(2)	北部山地少数民族観光、「秘境観光」、創られた「山村民」イメージ
第11回	台湾におけるツーリズムの風景(1)	多民族社会台湾、ツーリズムの動向、台湾原住民族
第12回	台湾におけるツーリズムの風景(2)	台湾原住民族観光、コミュニティ・ベースのツーリズム
第13回	アジアにおける観光と政治(1)	「国の光を觀せる」、テーマパーク
第14回	アジアにおける観光と政治(2)	遺産観光、インドネシア、カンボジア
第15回	ツーリズムとエリアスタディ「再考」	ツーリズム、エリアスタディ、ホスト・ゲスト論、よりよきツーリスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

とくになし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	①授業の内容およびテキストにかかわって自らが設定したテーマで、自身のフィールド経験、文献研究等にもとづき執筆する。 ②分量: 本文のみ3000字以上。 ③本文の内容それのみならず、アカデミックなレポートとしての様式・ライティングとなっているか、参考文献をどれだけ多く活用しているか、また、関連写真・図・表を効果的に使っているかについても評価の対象とする。
平常点評価	30 %	①授業時のコミュニケーション・ペーパーの提出 ②授業時の課題提出

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①各授業時において、シラバスや授業中の指示に従い、あらかじめ教科書および参考書をよく読み、理解の上、授業に出席すること。
- ②Webコースツールを適宜、参照すること(授業時に使用したスライド、レジュメを掲示。授業内容等に関する質問に対する回答等を開示)

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

授業内容は、教科書にもとづきますので、授業中のみならず事前・事後に活用してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
貧困の超克とツーリズム	江口信清・藤巻正己 編著 / 明石書店 / 978-4-7503-3169-0 /
現代東南アジア入門[改訂版]	藤巻正己・瀬川真平 編著 / 古今書院 / 978-4-7722-3123-7 /
朝倉世界地理講座 大地と人間の物語3 東南アジア	春山成子・藤巻正己・野間晴雄 / 朝倉書店 / 978-4-254-16793-1 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。自身の関心ある事象にかかわる検索語によって広く、深く探求してほしい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

戦争の歴史と現在 (GA)

13036

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

戦争の歴史を振り返ってみると、「形の上では」主権平等の国家間の戦争から、「非対称的な」戦争へと変化している。すなわち、特に同時多発テロ以降、テロ組織に対する「戦争」が議論されるようになってきているのである。いずれにせよ、国際関係論の枠組みの中で、主権国家システムの変容と結びつけられて、戦争形態の変化が論じられている。今年は、アメリカとの関係を重視する中で、軍事化の進む日本の政治構造を考え、あわせて中国や北朝鮮の脅威はどの程度信憑性があるのかを検証してみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自ら、進んで新聞やニュースの政治欄や国際欄などを読み、自分なりの意見を形成できるように、また、他者に、自らの主張を、感情論ではなく、論理的かつ説得的に説明できるようになること。
- 2) 戦争形態の変化がなぜ起こってきたのか、国際情勢の変化に敏感になること。
- 3) 翻って、日本国内の状況、特に、若者の「真剣な話」をけむたがる風潮はなぜなのかを、自分自身の問題と絡めて考えられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「立命館で平和を学ぶ」(産業社会学部、文学部)をあらかじめ履修しておく、平和学に関する知識が習得できる。(法学部の学生は、専門科目として「平和学」がある。また、政治外交史の講義を履修しておくことよい) また、国際インスティテュートに所属する学生は、「国際協力論特論」をあわせて履修すると、より発展的な学習ができる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ウェストファリア・システムの成立	アナーキーとヒエラルキー、国家主権、勢力均衡
第2回	権力の暴走は「暴力」になる?	プロパガンダ、メディア宣伝
第3回	戦争の違法化	正戦論、無差別戦争観、国際組織の形成、集団安全保障、理想主義と現実主義
第4回	戦後国際秩序の形成(1)	ヤルタ会談、冷戦の始まり
第5回	戦後国際秩序の形成(2)	(古典的)リアリズムとネオリアリズム
第6回	冷戦秩序(1)	核による平和、抑止力、集団的自衛権、ゲームの理論、囚人のジレンマ、チキンゲーム
第7回	冷戦秩序(2)	植民地からの独立戦争、ベトナム戦争、
第8回	冷戦秩序の崩壊:なぜ、ネオリアリズムは、冷戦の崩壊を予測できなかったのか	分析レベル問題、トランスナショナルな連帯
第9回	ポスト冷戦期の国際秩序形成	「世界の警察官」、湾岸戦争
第10回	大量破壊兵器の拡散と不拡散	核兵器不拡散、国際レジーム、ABC兵器
第11回	ジェノサイドと国連平和維持活動	PKO、ソマリア、ルワンダ、PKO協力法
第12回	テロリズムと「新しい戦争」	テロリズム、「新しい戦争」、同時多発テロ
第13回	アメリカの一国行動主義と有志連合	ブッシュ大統領、一国行動主義、有志連合、小泉政権
第14回	日米安保体制の進展(1)	吉田ドクトリン、基盤的防衛力構想
第15回	日米安保体制の進展(2)	米軍再編、動的防衛力、島嶼防衛

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義に関する必要な連絡は、すべてWebCTを通じて行うので、毎週1回はWebCTをみること。積極的な、ディスカッション・ボードへの書き込みを期待する。(話題提供として) 新聞、ニュース、インターネットなどの情報に目を通す習慣を身につけること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通して、どの程度、自分なりにニュースや新聞を読み、自分の頭で考えたのかを問う論述2問。 自分の言葉で表現することを重視する。 持ち込みは今年から不可とする。
平常点評価	20 %	WebCTを通じて3回課す。そのうち、最低2回以上提出すること。(3回提出した場合には、110点満点で計算し、100点を超えた場合には、100点とする)

レポートは、小論文形式の文体を求め、参考文献リストを明記すること。レポートを課す最初の講義のときに説明する。字数は、いずれも2000字程度。(長くても、論理的であればかまわないが、分量不足は減点する。)コースツール上に提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やニュースの政治欄や国際欄に目を通しておくこと。

テキストを必ず持参すること。

板書を中心とした講義とするので、できるだけ前の方に着席し、この講義用のノート(ルーズリーフでかまわない)を用意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際紛争	ジョセフ・ナイ / 有斐閣 / / * 原著がかなりの頻度で改訂され、それに応じて翻訳版も新しく出版されているので、できるだけ、新しい版を参照すること。また、大学院を志望する人は、原著はさほど分厚くないので、原著(英書)で読むことをおすすめする。
戦争の記憶と和解	池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 特に1章を、講義開始前に読んでおくこと。図書館にあるはずです。
「帝国」の国際政治学	山本吉宣 / 東信堂 / /
地域から平和をきずく	池尾靖志・伊波洋一・井原勝介 / 晃洋書房 / /
日米同盟再考	土山 實男監修 / 亜紀書房 / 978-4750510071 /
安全保障の国際政治学—焦りと傲り	土山 實男 / 有斐閣 / 978-4641076792 /
砂上の同盟: 米軍再編が明かすウソ	屋良朝博 / 沖縄タイムス社 / 978-4-87127-193-6 /
「アメとムチ」の構図: 普天間移設の内幕	渡辺豪 / 沖縄タイムス社 / 978-4-87127-189-9 /
アメリカ外交と21世紀の世界	五十嵐武士編 / 昭和堂 / 4-8122-0623-5 /

これ以外の参考文献については、講義について随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ (<http://www.yikeo.com>) を参照のこと。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

コースツール上で受講生と情報を共有することが望ましい。(掲示板機能を使うこと。)

また担当者のホームページに記載してあるメールアドレスに直接メールをしていただいてもかまわない。

その他 / Others

国際 / 国内政治状況の変化によって、内容を入れ替えたり、講義内容を追加することがあるので、注意すること。

中国の国家と社会 (S)

13184

担当者名 / Instructor 谷 秀樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

清帝国滅亡(1912年)までの中国を、英語圏ではImperial China(中華帝国)と称する。「帝国」には皇帝・官僚ら少数エリート層による専制支配/多民族国家という二重の含意があるが、この二つの要素は中国共産党一党独裁の権威主義/漢族による少数民族支配という形で今なお健在である。すなわち、現代中国が抱える切実な政治的諸問題に対して根源的な答えを見出していくためには、まず第一に歴史的観点からの再認識・再検証作業が必要なのである。

本講義は、このような問題意識から中国史を紐解き、「中華帝国」の発生に遡って現代中国を問い直そうとする試みである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 教養レベルの中国史(主に政治史・外交史)を通史的に理解する事ができる。
- 現代の国民国家が抱える諸問題及び国際的諸問題を考えていく上で必要な、歴史的洞察力を養う事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「中華帝国」の負の遺産(1):少数エリートによる支配	辛亥革命、孫文、中国国民党、レーニンの革命政理論、蒋介石による党国体制、中国の社会主義革命、中国共産党、プロレタリア文化大革命、毛沢東個人崇拜
第2回	「中華帝国」の負の遺産(2):「少数民族」に対する支配	滅満興漢、五族共和論、大漢族主義(漢族同化論)、大中華民族主義(「中華民族」同化論)
第3回	先秦期から秦漢期にかけての複合民族支配体制	戦国秦王国、秦漢帝国の異民族支配[道・属国・外臣・擬制親族国家関係(兄弟国関係)]
第4回	魏晉南北朝期における複合民族支配体制	魏晉南北朝期の異民族支配[五胡政権の二重統治体制、北魏の「可寒」号と孝文帝の中華主義]
第5回	隋唐期における複合民族支配体制	隋唐期における異民族支配[唐の「天可汗」号と六都護府による支配体制、擬制親族国家関係(父子国関係、兄弟国関係、舅甥国関係)]
第6回	宋・遼・金の国際関係と複合民族支配体制	宋代の異民族国家関係[擬制親族国家関係(兄弟国関係、伯姪国関係、叔姪国関係)]、遼・金の二重統治体制(部族制と州県制、猛安・謀克制と州県制)
第7回	元代における複合民族支配体制	元の異民族支配[漢人・南人支配、属国、土官・土司、朝貢国]、元の君主権の多面性[中華皇帝・モンゴリアのカアン・チベット仏教の大施主]
第8回	明代の国際関係と複合民族支配体制	明蒙関係と万里の長城(モンゴリアのカアン・チベット仏教勢力と中華皇帝)、明の異民族支配[土官・土司、朝貢国]
第9回	清代における複合民族支配体制	清の異民族支配[藩部、土官・土司、朝貢国]、清の君主権の多面性[中華の儒教的皇帝・モンゴリアのカアン・チベット仏教の大施主・満州旗王の長]
第10回	儒教の誕生と漢代における官学化	漢代の郷挙里選、豪族、王莽時代の性急な儒教国教化とその失敗、門生・故吏ネットワークの形成、宦官と党錮の禁
第11回	門閥貴族の時代	魏晉南北朝期の九品中正法、甲族・寒門・寒人の区別、門閥貴族と皇帝権力
第12回	唐宋期における貴族支配の終焉と科挙官僚の台頭(1)	貴族子弟採用の手段としての科挙、資蔭との併存関係、吏部試に見られる「身言書判」、則天武后以降の科挙官僚進出、牛李の党争
第13回	唐宋期における貴族支配の終焉と科挙官僚の台頭(2)	新興地主層子弟に開かれた科挙、形勢戸・官戸、「衣冠の家」の形成、殿試の導入と三段階試験方式の定着、科挙官僚の増大と冗官問題、新法と旧法
第14回	明清期における科挙	官民の挟間に位置する郷紳の社会的役割
第15回	中華民国及び中華人民共和国の党国体制と近代国民国家建設	一党独裁への志向と国内他民族の「少数民族」化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

● 毎回の講義で、疑問点や興味深く思う点は必ず出てくるはず。安易に納得して終わらせずに、大学生らしく自主的に関係資料に目を通してみよう。それが「研究」の第一歩であり、いつしか自分が「研究してる」事に気付くはず。資料検索等でわからない点があったら、気軽に質問しにきてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	基本的な概念がきっちりおさえられているか、という内容の面と文章力の程度を重点的に見ます。たとえまとまりのある論述であっても、講義内容をふまえていないものについては、厳しい評価をくだします。
平常点評価	50 %	小レポートを何度か実施します。提出には各々2週間の作成期間を設けますので、相応の内容を要求します。レポートを一度も提出しなかった学生については、評価対象といたしません。

- 受講態度の悪い学生に対しては退出を命じます。勿論、評価対象とはいたしません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国史に関する簡単な入門書に目を通しておく事がのぞましい。特に高校時代に世界史を選択していなかった者は、必ずそうする事。毎回の講義内容のボリュームが結構あるので、そういう自助努力をしないとついていけなくなる。また、講義中はノートをとるようにする事。疑問点を整理しやすくなり、質問も効率良くできるようになります。勿論、試験の時にも役立ちます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
中国の歴史	砺波護,尾形勇,鶴間和幸,上田信編 / 講談社 / 入門者も興味深く読める概説書。
中国の歴史	愛宕元,富谷至編 / 昭和堂 / 小著ではあるが内容は詳解。
中国史(世界歴史大系)	松丸道雄[ほか]編 / 山川出版社 / 専攻者向けの詳解書。
図説中国文明史	稲畑耕一郎監修 / 創元社 / フルカラー図版の概説書。

- 上記以外の参考書については、適宜紹介していく予定です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

- 質問は、講義終了時に教室で受け付けます。

その他 / Others

- 講義中は、私語及び飲食禁止。メールのやりとり禁止。途中退室もできるだけ避ける事。守らない学生には、退出を命じます。

東アジアと朝鮮半島 (S)

15814

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

東アジアは英語でEast Asiaであり、欧米人がつくった言葉である。つまり、当事者である東アジアと呼ばれる場所に生活する人々がつくった言葉ではない。つまり、当事者ではない外部の人間が何らかの都合でつくったことばが東アジアということになる。しかしながら、今日の東アジア（国家レベルでは、中国、朝鮮民主主義人民共和国、韓国、日本など）は、政治上の問題があつたとしても、一衣帯水の関係にあるといえる。これは、前近代において中国を中心とした冊封関係のときから連続していると考えられることである。

本講義においては、東アジアというマクロなレベルで朝鮮半島をとらえ、まず、前近代における朝鮮半島の歴史状況、次に、近代から現代までの朝鮮半島の歴史、社会状況について考察する。前近代においては中国との関係、近代から現代においてはそれに加えて日本との関係を重点的に考えることにする。これを通して、東アジアにおける朝鮮半島と日本列島についての基本的理解が達成できると考えられる。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 東アジアとは何かについて歴史的に理解すること
- (2) 東アジアのなかの朝鮮半島の意味について理解すること
- (3) 近現代における朝鮮半島と日本との関係について理解すること
- (4) マスコミ報道に流されない基本的教養を身につけること
- (5) 東アジアについて語れるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎教養としては、歴史学関連科目、特に、日本史、中国史、朝鮮史などのアジアの歴史についての科目。また、授業内容には社会史が含まれているので、研究方法としては「文化人類学入門」を履修しておくことが望ましいが、この科目の履修後でも構わない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	東アジアとはどこなのか？	オリエンタリズム、地政学的位置、冊封関係、アジアと太平洋
2	朝鮮王朝時代の国家と政治	王権、儒教、冊封関係
3	近世の日本と朝鮮	侵略、和解、善隣
4	豊臣秀吉の朝鮮侵略その1	オリエンとオクシデント、世界史のなかの日本史
5	豊臣秀吉の朝鮮侵略その2	オリエンとオクシデント、世界史のなかの日本史
6	近代世界における朝鮮半島からの移動	前近代、近代、大量移民
7	1945年以前の在日朝鮮人社会	サバイバル、適応、差別
8	戦時下朝鮮の労働動員	強制連行、陸軍慰安婦
9	植民地朝鮮に暮らした日本人	外地と内地、日本人町
10	日本での定着過程：故郷の離れ方と異国での適応	文化の流用、適応力
11	サッカーの大衆化過程からみる韓国の「民族」・「国民」形成	国民国家、スポーツの政治性
12	嫌韓流からみる日本社会	朝鮮蔑視観、他者排除の論理
13	多文化的状況の韓国と日本その1	多文化主義、多文化共生、ネットワーク
14	多文化的状況の韓国と日本その2	多文化主義、多文化共生、ネットワーク
15	まとめ	朝鮮半島、理解

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

基本的には教科書を読むことで授業理解を深めることができる。これに加えて、授業中に紹介する参考書を読むと、理解は更に深まる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業内容の理解度とそれに基づいた論理的な個人的見解
平常点評価	40 %	中間試験をやる(30%)。また、抜き打ちのリアクション・ペーパーを数度して、出席点とする(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日朝関係・交流史近現代篇(仮題)	原尻・六反田・外村編／／／

上記の教科書は2011年9月末までに出版される予定なので、その折に、出版社等の情報を提示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

<hharajiri@yahoo.co.jp>までにメールで連絡。

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 (S)

13280

担当者名 / Instructor 佐藤 専次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日ヨーロッパは統合へと向かって進んでいる。二回の世界大戦ののち、フランス・ドイツ・イギリスといった国民国家がせめぎ合う時代は終わりを告げ、ヨーロッパは国家を越えて、より広域な経済・政治体制のもとに統合されつつある。このようなヨーロッパという文化的政治的なまとまりがどのように形成され、発展していくのかを概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

ヨーロッパ世界の形成・発展を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ヨーロッパの風土・民族・宗教	ロマンス語, ゲルマン語, スラヴ語, カトリック, 東方正教, プロテスタント
2	後期帝政のローマとキリスト教の発展	3世紀の危機, ディオクレティアヌス, 西ローマの滅亡, キリスト教の発展
3	ケルト人とゲルマン人	ドルイド, タキトゥス, ヴォーダン, 供犠祭
4	ゲルマン人の移動と部族王国 西ゴート, ガイセリック, テオドリック	ゲルマン人の移動と部族王国
5	イスラームと地中海世界の分裂	ウマイヤ朝, ピレヌ=テーゼ, 交易の活発化
6	東ローマ帝国からビザンツ帝国へ	ユスティニアヌス, テマ制, マケドニア朝
7	フランク王国の成立	サリ族, クローヴィス, ピピン, カロリング朝
8	カール大帝とフランク王国	ザクセン族, カールの戴冠, カロリング=ルネサンス
9	ノルマン人とイングランド王国の成立	ノルマンディー公領, デーン人, アルフレッド大王, ノルマン=コンクエスト
10	技術革新と人口の増大	水車, カルッカ, 三圃制, 収穫率
11	修道院改革とグレゴリウス改革	聖遺物崇拜, クリュニー修道院, レオ9世, 叙任権闘争
12	十字軍とラテン=キリスト教世界の膨張	クレルモン宗教会議, 民衆十字軍, 東方植民, レコンキスタ
13	中世都市の誕生	キヴィタス, 商人定住地, 商人ギルド, コミューン運動
14	たそがれる中世世界	黒死病, 廃村, 領主経済の危機
15	近代世界へ向けて	大航海時代の到来, 主権国家の出現

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	出席状況

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『教養のための西洋史入門』	中井義明ほか / ミネルヴァ書房 //

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

歴史観の形成 (S)

15873

担当者名 / Instructor 李 豪潤

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は歴史学の研究方法、歴史学を学ぶ意味を主に東アジア関係史・日本の対外関係史を通じて理解し、「自国史」・「一國史」的歴史記述の持つ問題点を明らかにすることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①日韓関係史研究の方法と現況について理解できる。
- ②専門的基本文献を読解し、論点、問題点を発見・理解できる力を養う。
- ③東アジア＝外部から日本を見る視点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	はじめにーオリエンテーション	授業の概要、自己紹介、成績評価方法、参考文献紹介など
2回	歴史観とは何か	歴史とは 何か。国民国家と一國史。
3回	先史時代の文化と交流	石器時代。縄文・弥生時代。
4回	初期国家の成立と神話	檀君神話と記紀神話。
5回	伽耶史の諸問題1	伽耶と任那日本府。
6回	伽耶史の諸問題2	視聴覚資料による授業
7回	古代日本列島と朝鮮三国1	ヤマト王権と高句麗・新羅・百済。
8回	古代日本列島と朝鮮三国2	視聴覚資料による授業
9回	隋・唐の登場と東北アジア	唐の登場。朝鮮三国の政変。乙巳の変と壬申の乱。
10回	モンゴル帝国の成立と日本・高麗1	モンゴル帝国。高麗王朝。文永・弘安の役。
11回	モンゴル帝国の成立と日本・高麗2	視聴覚資料による授業
12回	15・16世紀の中華秩序と日本・朝鮮関係	明建国と朝貢・冊封体制。文録・慶長の役。
13回	通信使外交の展開	徳川幕府。朝鮮王朝と通信使。雨森芳洲。
14回	近代以降の東アジア関係史	明治維新。朝鮮の植民地化。日本の敗戦と朝鮮の独立。戦後の高度成長。
15回	おわりにー授業のまとめ	確認テスト、総合討議。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	確認テスト60% 出席などの日常点40%

出席が3分の2に満たない場合、出席点は0点となる。

授業中私語などによって教員が注意する場合、日常点の減点対象になるので注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業では、日本史及び韓国史・中国史の基礎知識が重要である。DVD・VIDEOなどの視聴覚資料やパワーポイントを用いるなど、できるだけわかりやすく解説するが、下記の参考書を読むなど、予習・復習に努めてほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない(レジュメ・史料等はプリントして配布する)。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『近代世界システム』I II	イマニエル・ウォーラスティン / 岩波書店 / 1981年
『日韓交流の歴史』	歴史教育研究会(日本)・歴史教科書研究会(韓国)編 / 明石書店 / 2007年
『向かい合う日本と韓国・朝鮮の歴史』	歴史教育者協議会(日本)・全国歴史教師の会(韓国)編 / 青木書店 / 2006年

その他の文献については教室で解説する。参考書はできるだけ読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

E-Mail

vgi659sh@lt.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

宇宙は私たちが観測でき、その上考えられるすべての天体の大集団とそれを含む全空間を含んでいる。しかもこれを宇宙誕生のはるか昔から無限の未来にわたって考えた場合、時間と空間の一切全部が宇宙であり、従って宇宙誕生が我々の故郷と考えられる。そこで、最初に宇宙科学の基礎的な事柄として、素粒子、原子核、原子と分子、相転移と超伝導、量子と実在、エントロピーを学んだ後、宇宙の進化に沿って、宇宙誕生から始めて、銀河、恒星、太陽、地球の順序で講義を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、宇宙をテーマに科学するため、先ずその基本法則である物理学の概念を学習した後、宇宙の進化について理解を深め、宇宙の誕生から我々が住む地球の誕生から現在までを学ぶことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修しておく科目は特にはないです。宇宙と言う広大な自然に眼を向けることにより私たちが持っている感覚(五感:視覚、聴覚、味覚、匂覚、触覚)を敏感にし、総合的な観点から自然を見る事の重要性を学んでほしい。そのために教科書並びに参考書を読むことを勧める。また、日常報道される科学ニュースに眼を向けていただきたい。科学の考え方や分析の進め方を私たちの身近な現象に適用し、これからをどのように生きるかを考えるきっかけにしてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要、序論	宇宙物理学を学ぶ意義、宇宙の観測、宇宙からの情報(可視光線、電磁波、距離、時間)
2	基礎的な事柄、素粒子	物理量のスケール、基本定数、素粒子の仲間たち、素粒子に働く力、クオーク
3	素粒子 —世界の構成要素—	素粒子物理学の歩み、素粒子の仲間たち、素粒子に働く力
4	素粒子	陽子、中性子、クオーク、レプトン、グルーオン、ニュートリノ
5	原子と分子 —物質界の煉瓦—	原子の構造、水素原子の場合、水素以外の原子の場合、元素の周期律、原子から分子、原子の物理学の課題
6	相転移と超伝導、量子と実在	超伝導の機構、完全反磁性、電子の粒子性と波動性、粒子と波、光
7	相転移と超伝導 —マイクロからマクロ—	1986年の出来事、オンネスの発見、相転移、水の相転移、磁石の相転移、超伝導はなぜ起きるか、完全反磁性—超伝導の最大の特徴—、電流と磁場、超伝導の応用
8	量子と実在 —現実と幻想のはざままで—	粒子としての電子、波としての電子、粒子と波(粒子の波動性、de Broglie 波)、光も粒子であり波である、弱い光も干渉縞を作る、電子の運動
9	エントロピー —過去は戻らない—	自由エネルギー、エントロピー、自然対数、熱力学第一・第二法則、変化の向き、(情報のエントロピー)、ゆらぎ、エントロピーをめぐる話題: 宇宙の将来、資源と環境
10	宇宙 —光と闇—	オルバースのパラドックス、銀河の運動、スライファー—ハッブル—ファーソン、パラドックスの解決、理論からのアプローチ、ガモフの夢
11	宇宙 —光と闇—	ガモフたちの予言—宇宙マイクロ放射—、過去の再現、定常宇宙論、宇宙の暗黒物質、可能な未来、インフレーション、宇宙の大規模構造、宇宙は我々の宇宙だけか
12	恒星 —果てしない輪廻—	1987年の出来事、漂う雲、星の誕生、水素燃料への点火、主系列星、太陽は大飯くらい、赤い巨人、終末、宇宙の素材、取り残された芯、新たな誕生
13	恒星 —果てしない輪廻—	終末、宇宙の素材、取り残された芯、新たな誕生、パルサーの発見、パルサーは中性子星である、ブラックホール
14	太陽系 —地球の家族たち—	惑星の素顔、惑星はどのようにして誕生したのか、太陽系が誕生した時刻、惑星を作るもの、惑星の位置、重要な問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義はパワーポイントを使って行う。講義で使ったパワーポイントはWebの講義レジメでも閲覧できるようにしておくので、復習に利用するようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	定期試験で評価する。試験問題は15回の講義内容を全て含んだ話題で作るようにする。試験は、教科書、自筆ノート及び Web 講義レジメを持ち込み可とするので、これを使って解答してください。問題の解答は記述形式です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙・物質・生命—進化への物理的アプローチ	高橋光一 / 吉岡書店 / /
—	—

授業は教科書の項目に沿って進める。尚、学生諸君は本書を教科書としてだけ読むに止まらず、ここから科学のより広い世界へ眼を向けていって欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙論のすべて	池内 了 / 新書館 / /
宇宙をあやつるダークマター	池内 了 / 岩波書店 / /
宇宙の基礎教室	長沢 工 / 地人書館 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)
 学生との直接対話 / Talk with Students
 吉村幸雄・E-mail: yukio@pl.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

科学・技術と社会 (SA)

15839

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとおして考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会—世紀をこえて	20世紀とは、人工合成化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工合成化学物質と人体—21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減?
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今—不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン—動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読—生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起こったか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基礎的な知識を確認し、とくに講義の内容を理解したうえで、重要な論点について自分の考えを説明できるかを評価する。
平常点評価	30 %	用語説明など基礎的知識の確認を中心に中間の小テストを2回実施し、また質問、感想、意見など日常の授業の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを2回程度実施する。不定期に宿題を課すことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類的課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら／翔泳社／88135-985-1／
沈黙の春	R.カーソン／新潮社／10-207401-5 c0161／

狂牛病—人類への警告 中村靖彦／岩波書店／00-430759-7／

優生学と人間社会 米本昇平／講談社／06-149511-9 c0245／

原発事故はなぜくりかえすか 高木仁三郎／岩波書店／00-430703-1／

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー／Communication Paper

学生との直接対話／Talk with Students

その他 / Others

科学・技術と社会 (SB)

15843

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会—世紀をこえて	20世紀とは、人工合成化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工合成化学物質と人体—21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減?
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今—不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン—動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読—生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起こったか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基礎的な知識を確認し、とくに講義の内容を理解したうえで、重要な論点について自分の考えを説明できるかを評価する。
平常点評価	30 %	用語説明など基礎的知識の確認を中心に中間の小テストを2回実施し、また質問、感想、意見など日常の授業の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを2回程度実施する。不定期に宿題を課すことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類的課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら／翔泳社／88135-985-1／
沈黙の春	R.カーソン／新潮社／10-207401-5 c0161／

狂牛病—人類への警告 中村靖彦／岩波書店／00-430759-7／

優生学と人間社会 米本昇平／講談社／06-149511-9 c0245／

原発事故はなぜくりかえすか 高木仁三郎／岩波書店／00-430703-1／

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー／Communication Paper

学生との直接対話／Talk with Students

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (S)

13146

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達がもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まった。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題をテーマに、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考えたい。

この授業では、グループ学習を取り入れている。自分たちで調べ、考えたことをクラスの前で発表し、それに対してみんなでディスカッションすることにより、大学生としての学習の仕方を身につけるとともに、自分の頭で考える力を培ってほしい。

授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学的な見方・考え方を身につける。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・プレゼンテーションとディスカッションができるようになる。
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	科学的な見方・考え方とは何か、グループ研究の進め方、グループ分けの希望調査	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間、環境、社会、グループ研究
第2回	課題研究とは何か、グループ分け、チーム・ミーティング(1回目):研究テーマの相談	【キーワード】課題研究、グループ研究
第3回	課題研究の方法、チーム・ミーティング(2回目):グループ研究の打ち合わせ	【キーワード】課題研究、研究方法、チーム・ミーティング
第4回	研究発表の方法、チーム・ミーティング(3回目):グループ研究の中間報告、発表日程の確定	【キーワード】研究発表、チーム・ミーティング
第5回	講義(公害)、グループ研究発表(1, 2)	【キーワード】公害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第6回	講義(労災職業病)、グループ研究発表(3, 4)	【キーワード】労災職業病、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第7回	講義(炭じん爆発)、グループ研究発表(5, 6)	【キーワード】炭じん爆発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第8回	講義(環境行政)、グループ研究発表(7, 8)	【キーワード】環境行政、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第9回	講義(薬害)、グループ研究発表(9, 10)	【キーワード】薬害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第10回	講義(内部告発)、グループ研究発表(11, 12)	【キーワード】内部告発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第11回	講義(原子力)7グループ研究発表(13, 14)	【キーワード】原子力、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第12回	講義(エネルギー)、グループ研究発表(15, 16)	【キーワード】エネルギー、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第13回	講義(差別)、グループ研究発表(17, 18)	【キーワード】差別、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第14回	講義(専門家の責任)、グループ研究発表(19, 20)	【キーワード】専門家の責任、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回	講義(今期の授業の総括)、グループ研究発表を振り返って	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループ研究ではチームワークが重要なので、チーム内では携帯メール等で連絡を取り合いながら進めることが必要である。この授業ではコースツールを活用する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価	100 %	・グループ研究発表の総括レポート(自分たちの発表の振り返りと他のグループ発表に対する論述、30%) ・当日レポート(当日発表に対する論述と評価、40%) ・教室およびコースツールでのディスカッション等への参加度(30%)
-------	-------	--

* 原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私は自分の授業を「双方向型の授業」と名付けているが、その意味は、教員と学生の間、さらに同じ授業を受けている受講生同士の間でのコミュニケーションを大切にすることを指していることである。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることでもあり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではそれをグループ研究を通して達成したいと思う。

発表の授業では受講生に司会進行をやってもらい、Q&Aを活発にしてみんなで作る授業を体得してほしいと願っている。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間—公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 /

グループ研究の大枠(班分け)は教科書の各章ごととし、班の研究テーマは各章の内容に関連したものを自分たちで設定する。グループ研究発表の後、聞いた人は当日レポートで教科書と発表を関連させて論じる。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インタラクティブシート / Interactive Sheet

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

skino@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (Z)

53330

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報化の時代にあつては、知識が豊富であることの価値は徐々に減少し、それに代わって、情報を選択する能力や情報をもとに新しいことを構築する能力が価値を持つようになる。この情報を選択する能力や新しいことを構築する能力は主に次の能力を鍛えることで開発される。第一は自分が何をしたいのか自分を明確に把握する能力である。第二は自分の持っている知識をもとに科学的に判断する能力である。第三は情報を総合する能力である。第一の能力を開発するよい方法は自分の考えていることを文章にしてみることである。第二の能力は疑問を持つことにより、第三の能力は法則性を発見することにより開発される。この授業では科学の歴史的事例を題材として、科学者がどのような疑問を持ち、どのような発想をしたかを紹介する。受講生は日常生活において、疑問に思ったことや発見したことを電子掲示板(BBS)に毎週報告していれば、疑問を持ったり、発見する癖が自然と身に着く。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式+スクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができる。受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

※詳しくはこちら「立命館大学のオンデマンド授業について」(要確認)

http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/guide/110314_guide_ond.htm

スクーリングに出席できない場合の課題については別途連絡する。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な疑問・発見の書き込みを期待する。他の学生の疑問・発見に積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は考える習慣が身に付き、無意識の内に何故だろう、こんな法則が潜んでいるのではないかと考えながら生活するようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンスおよび私の発見・発明の紹介	気がついたことは発見、工夫したことは発明、酸素を磁石にくっ付ける方法
第2回	科学的な見方・考え方とは	再現性、価値観
第3回	質量保存の法則の発見	ラボアジエ、天秤、化学反応
第4回	電子・原子の発見	X線、油滴、イオン、クーロン力
第5回	スクーリング	
第6回	くらしの中の発見・発明	鉛筆、消しゴム、マッチ
第7回	食べ物の発見・発明	チーズ、アイスクリーム、インスタントラーメン
第8回	有機化学の発見・発明	コールタール、染料、プラスチック、ビニール
第9回	医学・薬学の発見・発明	ワクチン、抗生物質
第10回	化学工業の発見・発明	硫酸、織物産業、ダイナマイト
第11回	電気の発見・発明	摩擦電気、電池、発電機
第12回	原子力の発見・発明	核分裂、核融合、ウラン
第13回	エジソン	真空管、蓄音機
第14回	ドクター・中松	フロッピーディスク、CD、DVD
第15回	日常に生かす科学的な見方・考え方	能力開発、癖、習慣、見方・考え方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業の目的は授業外(オンデマンド授業)で疑問を抱く習慣をつけることです。したがって、疑問を抱いたことを投稿する(メモを取る)ことが非常に大切です。積極的に受講生同士のディスカッションに参加してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートの評価
平常点評価	50 %	日常的な授業への取り組み状況(特に電子掲示板(BBS)への参加状況)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義自身は科学的な見方や考え方を身につけたり、考える習慣をつけるための刺激であり、自主的に参加しなければあまり意味がありません。

大切なことは意識的に教室外で探したり、考えたりして、いつの間にかそれが習慣づくことです。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発見・発明の大常識	板倉 聖宣 監修 / ポプラ社 / /
化学工業の発明発見物語	大沼 正則 編 / 国土社 / /
エジソン	ニール・ホルト・ヴァイン、椿正春訳 / 三田出版会 / /
ドクター・中松の発明ノート	ドクター・中松 / PHP研究所 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

次のメールアドレスに連絡してください。件名を「科学的な見方・考え方受講生」として、本文のはじめに学生証番号氏名を必ず記載してください。yasuoka@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

- この科目はオンデマンド授業です。
登録者は、立命館大学のコースツールを通して受講することになります。
PCやインターネットの基本的な操作を習得している必要があります。
具体的な受講方法は、開講前に送信される事務局からのメールをご参照ください。
- 開講前や開講中には、授業に関する大切な情報が、
大学のメールアドレス(……@ed.ritsumeai.ac.jp / ……@apu.ac.jp)宛てに送信されます。
受信BOXの容量過多等のトラブルに注意し、
大学からの案内を受信できる環境を整えるようにしてください。
大学からのメールは、「……@st.ritsumeai.ac.jp」のアドレスから送信されます。
- オンデマンド授業は、大学のマルチメディアルーム(オープンパソコンルーム)のPCから受講することができます。
また、同様の受講環境(PCの性能、ブラウザの種類、通信速度)であれば、
学外のPCからも受講することができますが、受講を保障するものではありません。
- 詳しくは、次の案内用ページをご参照ください。
http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/guide/110314_guide_ond.htm

科学と技術の歴史 (S)

13289

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力を増し、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史、および科学と技術の社会史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)地球規模の環境問題の要因とも関連して、人類史においてとくに近代技術による生産力の拡大が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)あわせて科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)とくに19世紀ドイツにおいて科学と技術の現代的な社会的ありよう(企業研究所と国立研究所など)が成立するプロセスを系統的に学び、企業や国家と科学技術の関わり、その問題点について考察すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩—古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュターの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史(その1): 模倣	ドイツ産業革命と技術導入、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	科学と技術の社会史(その2): 転回点	F.リューローと「フィラデルフィアからの手紙」、品質問題としての「鉄と鋼の等級分け」問題、試験と試験研究所、国立研究所の誕生
15	科学と技術の社会史(その3): 「科学大国」への道	企業と研究所、E.アッペとカールツァイス社、ガラス技術研究所、標準・度量衡検定委員会、帝国物理技術研究所、国家・企業と科学技術

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基礎的な知識を確認し、とくに教科書と講義の内容を理解したうえで重要な論点について自分の考えを説明できるかを評価する。
平常点評価	30 %	上記に準じて中間の小テストを2回、質問、感想、意見などを含めて日常の授業の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを2回程度実施する。また宿題を不定期に課すことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
模倣から「科学大国」へ—科学と技術の社会史	宮下晋吉 / 世界思想社 / 978-4-7907-1328-9 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
緑の世界史	C.ボンディング / 朝日新聞社 / 02-25963-1 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /
科学の社会史—イギリスにおける科学の組織化	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

現代環境論 (SA)

13149

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

従来の人間社会における工業化の進展は、地域的な産業公害を生み出し、さらに地球温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境破壊まで引き起こし、人類の生存をも脅かす危険性さえある。環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要課題の1つである。持続可能な環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とし、その影響と被害の実態を概説し、その原因や発生メカニズムなどの理解を深め、その克服について考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、放射能汚染、自然・生態系破壊、戦争による環境破壊などについて、現代社会や人間活動のあり方と関係づけて論じる。これらを通して持続可能な社会への発展の必要性についての認識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

地球環境問題を中心とするさまざまな環境問題全般についての基礎知識を習得する。

さまざまな環境問題と社会の関係を考える力を身につける。

自分や家族の生活を環境問題と関連づけて考え、行動できるようになる。

環境問題を克服しうる持続可能な社会に関する認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに一本講の概要と目的、	公害問題、環境問題、人間社会の歴史と未来
2	地球の進化と構造	地球と生命の誕生、生物と自然環境の相互作用と進化、地球環境の特徴、物質・エネルギー・生物のバランス(平衡)
3	オゾン層破壊	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
4	地球温暖化問題(1)	地球気温の推移、温室効果ガス濃度の推移、地球温暖化のメカニズム、地球温暖化の影響、気候変動
5	地球温暖化問題(2)	21世紀地球気温の予測、影響予測、不可逆的環境破壊
6	地球温暖化問題(3)	地球温暖化危機の克服条件、温室効果ガス削減目標、国際的対応、京都議定書、
7	地球温暖化問題(4)	世界と日本の地球温暖化対策、化石燃料とCO2、再生可能エネルギー、地球温暖化懐疑論、
8	大気汚染と酸性雨	化石燃料、石炭・石油・天然ガス燃焼による大気汚染、酸性雨と環境の酸性化、
9	化学物質汚染(1)	産業公害、イタイイタイ病、水俣病、重金属汚染
10	化学物質汚染(2)	環境ホルモン、インポセックス、オスのメス化、有機塩素系化合物
11	放射能汚染(1)	放射線、自然放射能、人工放射能、人体影響、ウラン、プルトニウム、核分裂
12	放射能汚染(2)	原子力発電、苛酷事故、使用済み核燃料、再処理、高レベル放射性廃棄物
13	自然・生態系破壊	森林破壊、砂漠化、生物多様性の喪失、開発と環境
14	戦争による環境破壊	戦争、軍事活動、地球温暖化、有害物質汚染、オゾン層破壊、
15	まとめ～環境問題と社会	自然と人間の関係、社会発展、生産力、持続可能な社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習、復習に努めることを望む。

わからないこと、関心があること、などについては、参考書等を利用して、自主的、主体的に学んでほしい。

新聞等で環境問題の動向に注意を払い、関心をもつように努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	

レポート試験	0 %	提出義務のあるレポートは課さないが、自主レポートの提出は何回でも可能である。そのなかで優れたレポートの場合、成績評価に最大10%まで加点することができる。
平常点評価	20 %	授業の感想、意見、質問等を記述する小レポートの提出を数回、求める予定である。それらを平常点評価の対象とする。必ず、提出すること。

上記のように、優れた自主レポートについては、上記評価に加点(ただし最大10%以内)する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講用ノートをとることを勧める。受講での学びを自主的に補充や発展的学習し、ノートに記録することで、力がつくはずである。

下記参考書のうち、少なくとも1冊以上は読むこと。また、新聞等を通じて環境問題や環境政策に関する記事に日常的に目を通しておく習慣をつけることも重要である。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、参考書リストに挙げた『新・地球環境論』『地球環境問題入門』『新データガイド地球環境』には、本講の内容がほぼ記述されており、準教科書的に参考にしてほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4-422-40017-7 / 地球環境問題の全容の理解に役立つ
地球環境問題入門	和田 武 / 実教出版 / 4407029501 / 地球環境問題の基礎
新データガイド地球環境	本間 慎 / 青木書店 / / 環境問題全般の解説
ワールドウォッチ研究所・地球白書2009-10	C.フレイビン / ワールドウォッチジャパン / 9784948754355 / 各年度版があり、いずれも参考になる。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 / / 地球温暖化問題の概要紹介
地球温暖化懐疑論批判	明日香寿川ほか / 東京大学 / / 地球温暖化懐疑論への科学的批判
環境展望Vol.1~5	日本科学者会議 / 実教出版 / 978-4-407-31352-9 / さまざまな環境問題への対応
異常気象学入門	増田善信 / 日刊工業新聞社 / 9784526063848 / 温暖化による異常気象の入門書
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 / 9784790707585 / 環境問題の学び方
飛躍するドイツの再生可能エネルギー	和田 武 / 世界思想社 / 978-4-7907-1346-3 / ドイツの温暖化防止、エネルギー政策の最新動向と成果

上記のほかにも、必要に応じて講義中にも紹介する予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

政府機関等: 環境省; <http://www.env.go.jp/>、気象庁; <http://www.data.kishou.go.jp/>、地球温暖化防止活動推進センター:

<http://www.jccca.org/>、

国際機関: IPCC; <http://www.ipcc.ch/>、国際エネルギー機関(IEA): <http://www.iea.org/>

NPO/NGO: 気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、自然エネルギー市民の会 <http://www.parep.org/>、

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

質問等は授業終了後に直接聞くこと。やりとりで理解が深まる。

その他 / Others

地球温暖化をはじめとする環境問題は21世紀に克服すべき最重要課題である。環境問題に関する理解を深めることは、自らの生活や将来を考える上で不可欠である。市民生活を営む上でも、行政、企業などで働く立場からも、環境問題に関する基礎知識を身につけなければならない時代になっている。集中して受講し、自主的、積極的に学んでほしい。

現代環境論 (SB)

13153

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

従来の人間社会における工業化の進展は、地域的な産業公害を生み出し、さらに地球温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境破壊まで引き起こし、人類の生存をも脅かす危険性さえある。環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要課題の1つである。持続可能な環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心に、その影響と被害の実態を概説し、その原因や発生メカニズムなどの理解を深め、その克服について考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、放射能汚染、自然・生態系破壊、戦争による環境破壊などについて、現代社会や人間活動のあり方と関係づけて論じる。これらを通して持続可能な社会への発展の必要性についての認識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

地球環境問題を中心とするさまざまな環境問題全般についての基礎知識を習得する。

さまざまな環境問題と社会の関係を考える力を身につける。

自らの生活を環境問題と関連づけて考え、行動できるようになる。

環境問題を克服しうる持続可能な社会に関する認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに一本講の概要と目的	公害問題、環境問題、人間社会の歴史と未来
2	地球の進化と構造	地球と生命の誕生、生物と自然環境の相互作用と進化、地球環境の特徴、物質・エネルギー・生物のバランス(平衡)
3	オゾン層破壊	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
4	地球温暖化問題(1)	地球気温の推移、温室効果ガス濃度の推移、地球温暖化のメカニズム、地球温暖化の影響、気候変動
5	地球温暖化問題(2)	21世紀地球気温の予測、影響予測、不可逆的環境破壊
6	地球温暖化問題(3)	地球温暖化危機の克服条件、温室効果ガス削減目標、国際的対応、京都議定書、
7	地球温暖化問題(4)	世界と日本の地球温暖化対策、化石燃料とCO2、再生可能エネルギー、地球温暖化懐疑論、
8	大気汚染と酸性雨	化石燃料、石炭・石油・天然ガス燃焼による大気汚染、酸性雨と環境の酸性化、
9	化学物質汚染(1)	産業公害、イタイイタイ病、水俣病、重金属汚染
10	化学物質汚染(2)	環境ホルモン、インポセックス、オスのメス化、有機塩素系化合物
11	放射能汚染(1)	放射線、自然放射能、人工放射能、人体影響、ウラン、プルトニウム、核分裂
12	放射能汚染(2)	原子力発電、苛酷事故、使用済み核燃料、再処理、高レベル放射性廃棄物
13	自然・生態系破壊	森林破壊、砂漠化、生物多様性の喪失、開発と環境
14	戦争による環境破壊	戦争、軍事活動、地球温暖化、有害物質汚染、オゾン層破壊、
15	まとめ～環境問題と社会	自然と人間の関係、社会発展、生産力、持続可能な社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習、復習に努めることを望む。

わからないこと、関心があること、などについては、参考書等を利用して、自主的、主体的に学んでほしい。

新聞等で環境問題の動向に注意を払い、関心をもつように努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	

レポート試験	0 %	提出義務のあるレポートは課さないが、自主レポートの提出は何回でも可能である。そのなかで優れたレポートの場合、成績評価に最大10%まで加点することができる。
平常点評価	20 %	授業の感想、意見、質問等を記述する小レポートの提出を数回、求める予定である。それらを平常点評価の対象とする。必ず、提出すること。

上記のように、優れた自主レポートについては、上記評価に加点(ただし最大10%以内)する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講用ノートをとることを勧める。受講での学びを自主的に補充や発展的学習し、ノートに記録することで、力がつくはずである。

下記参考書のうち、少なくとも1冊以上は読むこと。また、新聞等を通じて環境問題や環境政策に関する記事に日常的に目を通しておく習慣をつけることも重要である。

教科書 / Textbooks

教科書は未定。教科書を使用する場合は、開講時に紹介する。なお、参考書リストに挙げた『新・地球環境論』『地球環境問題入門』『新データガイド地球環境』には、本講の内容がほぼ記述されている。準教科書的に活用してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・地球環境論	和田 武 / 世界思想社 / 4-422-40017-7 / 地球環境問題の全容の理解に役立つ
地球環境問題入門	和田 武 / 実教出版 / 4407029501 / 地球環境問題の基礎
新データガイド地球環境	本間 慎 / 青木書店 / / 環境問題全般の解説
ワールドウォッチ研究所・地球白書2009-10	C.フレイビン / ワールドウォッチジャパン / 9784948754355 / 各年度版があり、いずれも参考になる。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 / / 地球温暖化問題の概要紹介
異常気象学入門	増田善信 / 日刊工業新聞社 / 9784526063848 / 温暖化による異常気象の入門書
環境展望Vol.1~5	日本科学者会議 / 実教出版 / 978-4-407-31352-9 / さまざまな環境問題への対応
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 / 9784790707585 / 環境問題の学び方
地球温暖化懐疑論批判	明日香寿川ほか / 東京大学 / / 地球温暖化懐疑論への科学的批判
飛躍するドイツの再生可能エネルギー	和田 武 / 世界思想社 / 978-4-7907-1346-3 / ドイツの温暖化防止、エネルギー政策の最新動向と成果

上記のほかに、必要に応じて講義中にも紹介する予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

政府機関等: 環境省; <http://www.env.go.jp/>、気象庁; <http://www.data.kishou.go.jp/>、地球温暖化防止活動推進センター:

<http://www.jccca.org/>、

国際機関: IPCC; <http://www.ipcc.ch/>、国際エネルギー機関(IEA): <http://www.iea.org/>

NPO/NGO: 気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、自然エネルギー市民の会 <http://www.parep.org/>、

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

質問等は授業終了後に直接聞くこと。やりとりで理解が深まる。

その他 / Others

地球温暖化をはじめとする環境問題は21世紀に克服すべき最重要課題である。環境問題に関する理解を深めることは、自らの生活や将来を考える上で不可欠である。市民生活を営む上でも、行政、企業などで働く立場からも、環境問題に関する基礎知識を身につけなければならない時代になっている。集中して受講し、自主的、積極的に学んでほしい。

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今年の3月11日に東日本大震災で福島原発事故が起こり、大きな社会問題となっている。かつて2005年にはアスベスト・パニックが起こった。さらに、環境問題の原点ともいべき水俣病事件では、公式発表から半世紀を越えても、いまだに被害者の救済も終わっていない。有害物質による環境汚染の問題はかつて「公害」として世に知られたが、今や地球環境問題にまで広がっている。

この授業では具体的な事例として、アスベスト、水俣病、薬害エイズ、原子力問題などを取り上げ、それらのトピックスを通して環境問題の中に潜む本質とは何かを考える。

さらに私たちが今後環境問題にどう対応すればよいのかを考えるため、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の当事者の方々にゲストに招き、直接話をいただく機会を設ける。

この授業では環境問題の知識を得ることだけが目的ではなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことが目的である。講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。BBS(電子掲示板)でのディスカッションや、レポートもそのつもりで取り組んでほしい。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式とスクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進める必要がある。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

オンデマンド授業については下記ページを参照すること。ページからはガイダンス動画を見ることもできる。

登録前に必ず視聴すること。

URL: <http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/2011/pre-guide-2011gendai.html>

授業スケジュールは下記ページで確認すること。

URL: <http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/2011/2011gendaisch.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ①(公害認定までの長い道のり)	環境汚染、メチル水銀、食物連鎖、水俣病、公害認定
第2回	水俣病事件から学ぶ②(被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、被害者救済、加害責任、認定制度、解決策
第3回	公害と労災職業病①(ある町工場のマンガン中毒事件から)	町工場、マンガン中毒、公害と労働者、労働安全衛生、不作為
第4回	公害と労災職業病②(アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間、補償と救済
第5回	スクーリング 日程はスケジュールで確認してください。	オンデマンド授業、公害、環境問題、現代環境論
第6回	薬害から学ぶ①(薬害エイズは今……被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害、血友病、血液製剤、薬害エイズ、告知、エイズパニック、HIV訴訟
第7回	薬害から学ぶ②(薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、薬害、大鵬薬品、ダニロン、マイルーラ、データ不正、労働組合
第8回	原子力とエネルギー①(原子力の光と影-原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、事故、被曝、原発労働者
第9回	原子力とエネルギー②(プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル、エネルギー政策、核拡散
第10回	原子力とエネルギー③(エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	石油、原発、核廃物、エネルギー浪費、不平等、差別
第11回	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	公害患者への差別、ニセ患者問題、胎児障害、公害と障害、障害者差別、優生思想
第12回	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市会議員の二木洋子さんに聞く)	環境行政、環境アセスメント、バイオハザード、住民、環境自治体
第13回	公害環境問題と専門家(水俣病と三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭鉱、炭じん爆発、CO中毒、後遺症、水俣病、胎児性、専門家の責任

第14回	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。原因究明、被害者救済、専門家、良心、責任、私たちでは私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、良心、責任、私たち
第15回	現代環境論とは?	現代環境論、大学教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・第1～第2回目:教科書のはしがき、あとがき、第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第14回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	50 %	最終レポート(50%)は「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。
平常点評価	50 %	最終レポート以外に、授業コンテンツの視聴確認テスト(5%)、理解度確認小テスト(15%)、指定課題の小レポート(2回、各500字程度、各5%)の日常学習の評価が計30%である。さらに、オンデマンド授業ならではの電子掲示板(BBS)への読み書き参加状況への評価が20%である。この授業では講義を聞くだけで終わらず、講義を題材に自分の頭で考え、それをみんなと意見交換することを重視している。講義を聞いて考えたことをスレッドに立て、それに対してみんなで意見を交換し合うのであるが、これによって同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることができる。お互いの違いを知った上で、自分の考えをまとめる力をつけてもらうことが目的である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義を行う。

また、この授業ではBBSを使って受講生の授業への積極的な参加を求める。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることが自分で考えるための第一歩である。BBSの書き込みに対しては主として教育コーチ(山中由紀氏)が対応する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間—公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第7刷(2011.4刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。
必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

なお、直接の対話は、スクーリング(対面授業)の機会に限られます。

その他 / Others

- この科目はオンデマンド授業です。
登録者は、立命館大学のコースツールを通して受講することになります。
PCやインターネットの基本的な操作を習得している事が必要です。
具体的な受講方法は、開講前に送信される事務局からのメールをご参照ください。

- 開講前や開講中には、授業に関する大切な情報が、大学のメールアドレス(……@ed.ritsumeai.ac.jp / ……@apu.ac.jp)宛てに送信されます。

受信BOXの容量過多等のトラブルに注意し、
大学からの案内を受信できる環境を整えるようにしてください。
大学からのメールは、「……@st.ritsumeai.ac.jp」のアドレスから送信されます。

- オンデマンド授業は、大学のマルチメディアルーム(オープンパソコンルーム)のPCから受講することができます。
また、同様の受講環境(PCの性能、ブラウザの種類、通信速度)であれば、
学外のPCからも受講することができますが、受講を保障するものではありません。

現代人とヘルスケア (SA)

13151

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう?	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・三大栄養素
3	食べることについて(栄養素)	ビタミン・ミネラル・食物繊維
4	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
5	運動について	運動の効果・身体活動量
6	メタボリックシンドローム	診断基準
7	肥満	体脂肪・減量
8	生活習慣病①	糖尿病
9	生活習慣病②	高血圧
10	夏の健康対策	熱中症
11	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
12	アルコール	代謝・パッチテスト
13	健康食品	保健機能食品
14	食品表示	期限表示・強調表示
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

現代人とヘルスケア (SB)

15862

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう?	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・三大栄養素
3	食べることについて(栄養素)	ビタミン・ミネラル・食物繊維
4	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
5	運動について	運動の効果・身体活動量
6	メタボリックシンドローム	診断基準
7	肥満	体脂肪・減量
8	生活習慣病①	糖尿病
9	生活習慣病②	高血圧
10	冬の健康対策	風邪・インフルエンザ
11	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
12	アルコール	代謝・パッチテスト
13	健康食品	保健機能食品
14	食品表示	期限表示・強調表示
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山田 喬彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今や日常の必須生活道具となった携帯電話とインターネット。これらの基本となる技術を入門レベルで講義します。担当者は通信技術に関して NTT で 25 年間研究・実用化を経験し、また本学で 15 年間研究を行ってきました。皆さんが当たり前のように使っている携帯電話やインターネットはこの期間に発展を遂げたものです。本講義では情報通信技術の基本を少し述べ、インターネットの基本技術、入門的に通信技術を述べる。

到達目標 / Attainment Objectives

インターネットや携帯電話などの現代の通信技術について、その動作原理を入門レベルで理解する。各技術に関して感覚的でなく、数量で理解する。例えば、光(電波)の速度はどれだけで、では高速の通信では情報 1 ビット(情報の単位)を送り出す時間に光は何 mm 進めるのか。意外と光は遅い などと数値で理解するようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1. コンピュータやデジタル通信で用いる2進数	十進数と2進数、2進数の正負、2進数の加減乗除、大きな数の表し方、2進数の利用(アドレス/データ、論理)、論理回路
2	2. コンピュータの動作	命令とデータ、命令語、演算回路と制御回路、ジャンプ命令と実行順序、演算結果判定と条件付きジャンプ
3	3. デジタルとは	アナログとデジタル、アナログ情報のデジタル化、時間的なデジタル化(標本化)、大きさのデジタル化(量子化)、大きさの数値化(符号化)、デジタル情報のアナログ化
4	4. ネットワークサービス1 Web	Webサービス、日本語文字コード、Webページ、Webサーバとブラウザ、プロキシサービス
5	5. IP	IPアドレス、IP転送
6	6. DNS	ドメインネーム、名前解決、分散ファイル
7	7. TCP/IP	実行対象プログラムを識別するポート番号、IPアドレスいろいろ、サブネットマスク、IPアドレスとMACアドレスの連携、マルチキャストとブロードキャスト、階層モデル、インターネット層、トランスポート層、TCP通信手順、アプリケーション層
8	8. ネットワークサービス 2 メール	メール転送の仕掛け、メールを届けるSMTPサービス、メールを受け取るPOPサービス
9	9. TCPルーティング	IPフォワーディング、IPルーティング
10	10. ルータ	ルータの仕掛け
11	11. LAN	LANとゲートウエイ、ルーティング、NAT、VPN、
12	12. セキュリティ	暗号、認証、デジタル署名
13	13. 回線交換とパケット交換	回線交換型通信、パケット型通信、光ファイバ通信、HDLC
14	14. デジタル変調、携帯電話(移動通信)システム	変調とは、振幅変調、周波数変調、位相変調、位相変調と+1/-1乗算、復調、周波数分割多重、時分割多重
15	予備・補習	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	毎回テストの補充。毎回の授業で示した問題から出す。マークシートを利用する。平常点が十分でないと考えた人は受験すること。
平常点評価	50 %	授業終了前に確認テストを行う。毎回25問程度の正誤問題を出す。そのうちの10問を指定して答えてもらう。各回100点満点。合計点をテスト実施回数で割る。本テストで十分な点数がとれたら定期試験を受ける必要はない。

成績評価の基本は各回テスト。両方受験した場合は良い方を取る。問題は正誤問題。ある程度の応用問題を含んでいる。「授業でやっていない」とクレームがつくことがあるが、授業そのまま全員が直ちに答えられような問題で全員が100点で、全員をA+とするわけにはいかな

い。考えて答える問題が必要である。各回の問題の答はコースツールに掲示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

昨年の例では分からない用語が出てくる ということであった。極力気をつけるが、分からない用語はWeb検索で調べることも行ってほしい。また、本授業は実践教育ではない。本授業によってホームページが書けるようになったり、ネットワークの設定ができるようになる訳ではない。なんだ、こういう仕掛けか と手品の種明かしのように通信技術の裏が分かってくるとうれしい。たぶん、ネットワーク知識は最初の敷居が高いだけだと思う。(もちろん専門家にとって、作り出すという段階では遙かに難しいが、..)

教科書 / Textbooks

授業に使うスライドは事前にコースツールにあげておく。ダウンロードして利用してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ネットワーク基本の知識	増田若奈 / 技術評論社 / 9784774138800 /
とことんやさしいTCP/IPネットワークキング	小林峰子 / ソフトバンク / 4797327049 /
ネットワークはなぜつながるのか	戸根勤 / 日経BP社 / 9784822283117 /
新・ネットワーク超入門	日経NETWORK編 / 日経BP社 / 9784822212643 /

4冊どれも入門書である。後の参考書ほど細かい話が出てくる。4-12の授業は1番目の参考書に従って進める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

分からない言葉はgoo、google、yahooなどの検索システムで自分で検索する習慣を身につけること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Other

毎回のテストの解答用紙に質問欄を設ける

その他 / Others

自然人類学 (S)

13148

担当者名 / Instructor 足立 薫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係をつきつて生きているのかを考える。人間に近縁な霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介し、さまざまな人間らしさの起源を探ることを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

進化論の基本を知り、進化のしくみを理解する。人間の行動や社会の特徴を、他の動物(とくにほかの霊長類)と比較して、人類進化の観点から論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	人類学 動物 環境 「人間とは何か」
2	霊長類とは何か	生物の分類 分布 社会構造
3	サルと類人猿	近縁種 分岐分類 動物の権利
4, 5	進化論とは何か	自然選択 ダーウィン 総合説 進化心理学
6, 7	人類の起源と進化(1)	直立二足歩行 アウストラロピテクス 脳の進化
8	人類の起源と進化(2)	ホモ・エレクトス アウト・オブ・アフリカ 更新世
9	人類の起源と進化(3)	現代人の起源 ネアンデルタール
10	行動学と進化	行動の機能 血縁度 包括適応度
11	繁殖と性	性淘汰 配偶者選択 性差 家族の起源
12	道具使用と文化	行動の社会的伝達 類人猿の道具使用 伝統
13	言語の起源	霊長類の音声 類人猿の言語研究
14	コミュニケーションと進化	社会構造 システム理論 ニッチ構築
15	人間の社会	狩猟採集民 文化 宗教

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式
平常点評価	20 %	レポート、小テスト、レスポンスペーパーなど。詳細は第1回の授業で通知します。

定期試験に日常点を加味して、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生物学の予備知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について、論理的に深く考えることが求められる。講義に関する諸注意の伝達にWebCTを使用するので、各自でアクセスできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。講義中に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

第1回の授業で連絡用のメールアドレスを通知します。

その他 / Others

講義の進展状況によって授業内容・スケジュールは変更の可能性があるので、WebCTなどのお知らせをチェックすること。

自然と進化 (S)

15860

担当者名 / Instructor 本郷 儀人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目標は、生物進化つまり自然淘汰の基本的な仕組みの理解。さらに動物にみられる様々な不思議かつ多様な行動や形態を、自然淘汰の観点から説明することができるということを理解することである。

到達目標 / Attainment Objectives

生物進化の基本的なしくみ、自然淘汰によるプロセスを学ぶ。
動物の行動や形態などを、進化的にとらえ、いかによくできているのかを理解してもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、ダーウィンについてなど
2	自然淘汰と進化1	ダーウィン、進化の基本プロセス、行動生態学、適応度
3	自然淘汰と進化2 -進化は観察できる！なぜそんな行動が進化するのか？進化の実例-	アノールトカゲ、ライオン、子殺し
4	自然淘汰と進化3 -「種の利益のために」はあり得るか？-	ライオン、ハヌマンラングール
5	群れ生活の進化 -群れていることは有利、不利？-	警戒性、うすめの効果、防衛効果
6	最適戦略 -あまりにも良くできている動物たち	最適採餌、最適卵数
7	性淘汰 -どんな雄がもてる？ どんな雄が強い？-	同性内淘汰、異性間淘汰
8	性淘汰2 -多様で面白い雄の求愛	求愛行動、配偶者選択
9	代替戦略 -弱い雄はどうするか？-	行動の多型、形態の多型
10	信号の進化 -様々なコミュニケーション-	化学的、触覚的、聴覚的、視覚的信号
11	共進化と軍拡競争	捕食者、餌生物、隠ぺい色、警告色、托卵
12	動物の闘争	儀式的闘争、ゲーム理論
13	血縁淘汰	包括適応度、社会性、利他行動、血縁度
14	まとめ1 質問回答編	鋭い質問や面白い質問をとりあげる
15	まとめ2	全体の復習、総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

あなたの身近にいる動物の不思議な現象をみてみよう！
面白い行動や形態をしている動物がたくさんいるはず。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	自然淘汰理論の基本的な考え方を理解出来ているかどうかを評価基準にする。
平常点評価	50 %	レポートを提出してもらおう。オリジナリティを高く評価する。受け売りではなく自分の考えを書くように。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけて下さい。
当然、理解できていないと試験で良い点はとれません。

教科書 / Textbooks

特に指定しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
進化とはなんだろうか	長谷川真理子／岩波ジュニア新書／4-00-500323-0 /
動物の社会	伊藤嘉昭／東海大学出版／4-486-01259-3 / C3045
クジャクの雄はなぜ美しい？	長谷川真理子／紀伊国屋書店／4-314-00574-2 / C0340
全て強制ではない(買う必要はない)が、とても面白いので一読の価値アリ！	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

E-mailにて気軽に連絡を取って下さい。
yoshihon@ethol.zool.kyoto-u.ac.jp

その他 / Others

スポーツのサイエンス (S)

13147

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、プロスポーツ選手のプレーをスローで再生しながら解説するテレビ番組など、多くの人にとってスポーツや運動のサイエンスに触れる機会は増えている。しかし、実際にそれらの情報を正しく理解し、自分たちの健康維持や競技力向上に十分利用できている人はそう多くはない。

そこで、本講義では、受講者が自身の日常生活で経験する運動、スポーツに科学的な取り組みを応用できるようになることを目的として、運動やスポーツのサイエンスを理解するための基礎的な知識や実際のトレーニング方法について解説するとともに、いくつかの身近なテーマについて、実際の科学的な観察を通して考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活の中で経験する運動やスポーツに対してサイエンスとしての視点をもって観察し、取り組むための基礎的な知識を身につけ、自身で応用するための基盤を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入、講義内容の概説	到達目標、授業概要
2	運動を行うための仕組み1ー筋収縮ー	生理的限界、心理的限界、超回復、滑走説
3	筋カトレーニング1ーフォーム、部位による違いー	等尺性収縮・短縮性収縮・伸張性収縮、筋の起始・停止・作用、屈筋・伸筋
4	筋カトレーニング2ー負荷による違いー	速筋線維・遅筋線維、運動単位
5	身体組成とウエイトコントロール	体脂肪、BMI、肥満、生活習慣病
6	スポーツ選手とウエイトコントロール	減量、痩せ、無月経
7	運動を行うための仕組み2ーエネルギー供給機構ー	ATP-PCr系、解糖系、有酸素系、有酸素運動
8	最大酸素摂取量	最大酸素摂取量、心拍
9	みんなで測定してみようー運動に伴う脈拍の変化ー	脈拍、スポーツ心臓
10	個人に応じた運動強度設定	HRreserve、LT、インターバルトレーニング
11	身近なデータを用いて考える	得点、比較、統計
12	運動を調整する仕組み	神経、脳、反射、随意運動
13	技術トレーニング	反復練習、フォーム、合目的性
14	トレーニング計画	トレーニングの原則
15	日常生活におけるスポーツ科学の応用	総括と質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義では、自分の身体の機能を自分で測定したり、実際のトレーニング方法を体験してもらうことを予定している(受講者数によっては変更になる可能性がある)ため、常に積極的な姿勢でのぞんでほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	運動生理学の基礎知識を踏まえ、スポーツを科学的な視点で観察し、自らの言葉で論理的な記述ができる
平常点評価	30 %	毎回コミュニケーションペーパーを提出してもらうことにより出席および受講態度を評価する

出席回数が全講義回数の2/3未満の者には出席点を与えない。ただし、試合参加や就職活動等の事情によっては配慮を行うので、申し出る

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・私語や遅刻、授業中の座席移動など他の受講生に迷惑のかかる行為には厳しく対応する
- ・原則として講義はスライドのみを用いて行い、レジュメは配布しない。ただし、講義終了後にスライドをコースツール上に掲示するので、それを利用して復習に努めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
運動生理学	P.O.オストランド, K.ラダール / 大修館書店 / 4-469-26037-1 /

新版これできちんと使えるスポーツサイエンス

征矢英昭, 本山貢, 石井好二郎編 / 講談社サイエンティフィック / 978-4-06-153130-7

競技志向と健康志向のスポーツ科学

宮下充正 / 杏林書院 / 978-4-7644-1106-7

その他, 必要に応じて講義内で適宜紹介する.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

uru@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

生物の多様性 (S)

13197

担当者名 / Instructor 村松 大輔

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球上には数えきれないほど多くの生物が存在し、それぞれが異なった戦略で生き延びている。なぜこれほどにも多様な生物が存在しているのだろうか。この講義では、生物が多様化するべき一般的な理由は存在するのか、種はどのような過程で分化するのか、なぜ種内にも多様な個体が存在するのか、なぜオスとメスがいるのかなど、生物多様性を支えるしくみについて分かりやすく解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 自然淘汰・性淘汰・血縁淘汰の概念を理解し、応用できる。
2. 種分化のしくみについて理解し、説明することができる。
3. 生物多様性の意義について自分の意見を述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義内容の紹介や評価方法について	この講義を聞いてわかること、レポートの書き方と評価基準
第2回	生き物の生き方: 地球上の多様な生物相	生物の種類, 生存戦略, ニッチ, 生態系
第3回	自然淘汰: 生物を形作るルール	変異, 淘汰, 遺伝, 適応
第4回	性淘汰: 歌う・踊る・戦う	性的対立, 性的二型, ハンディキャップ, ランナウェイ
第5回	利己主義: 生物界を貫く美学	利己的な遺伝子, 適応度, ジレンマ, 子殺し
第6回	利他主義: 愛の進化	血縁淘汰, 子育て, 協力, モビング, アラームコール, 互恵的利他行動
第7回	ケンカの経済学: 殺し合いと譲り合い	儀式闘争, 直接闘争, 持久戦, 分配, モチベーション
第8回	種内多様性: 同種内の多様な戦略	戦略, 戦術, サテライト, スニーカー, ドワーフ
第9回	性の進化: なぜオスとメスがいるのか	性の起源, 赤の女王仮説, 環境変動仮説
第10回	性の崩壊: 雌雄関係が破綻するとき	単為生殖, 雌雄同体, オス殺し, CMS, ボルバキア
第11回	種分化: 種はどのように作られるのか	異所的種分化, 同所的種分化, 同類交配, 進化的分岐
第12回	特殊化: スペシャリストとジェネラリスト	ニッチ, 特殊化, 種分化, 適応
第13回	生物間相互作用: 種どうしのつきあい	捕食, 被食, 競争, 共生, 寄生, 宿主殺し
第14回	種の絶滅: 種の崩壊が起きるしくみ	スペシャリスト化, アリー効果, 周縁効果, 交雑, 近交弱勢
第15回	生物多様性の意義: 多様性を保全する価値とは何か	資源としての多様性, 保全の問題点, 新環境主義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

淘汰の概念は非常に応用範囲の広い理論なので、法学や経済学、社会学など、自分の親しみやすい分野に当てはめて考えて欲しい。また、講義で習った内容を踏まえて身近な生物や人間関係などを観察し、理解を深めるきっかけにしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第7回と第13回の講義中に理解度を確認するためのレポートを課し、これら2つのレポートで成績評価を行う。(100%) レポートはA4用紙1枚以内にまとめ、翌週の講義で提出すること。レポートでは講義や自習で得た情報を咀嚼し、自分の言葉で説明することを要求する。議論の整合性や分かりやすさを加点対象とし、説得力のある独自の理論を述べたものは特に高く評価する。引用なしで他者の意見を書いた場合は減点する。

レポートの書き方や引用の方法などはレポートを課す前に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

全ての学生が毎回出席しているものとして講義を進める。やむを得ず欠席した場合は、講義ごとのキーワードだけでも自習により理解しておくこと。キーワードはオンラインシラバスで公開する。

教科書 / Textbooks

教科書は使わず、配布資料やプレゼンテーションで講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

生命の多様性(上)	エドワード・O. ウィルソン／岩波現代文庫／4006001312／生物多様性についての入門書。専門でない学生にも理解しやすいと思う。値段が安いので上巻だけでも読んでみたい。
生命の多様性(下)	エドワード・O. ウィルソン／岩波現代文庫／4006001320／生物多様性についての入門書。種の絶滅や人為的な環境破壊について易しく書かれている。下巻には用語集が収録されており、講義内容を確認する際にも役立つはず。
利己的な遺伝子	リチャード・ドーキンス／紀伊國屋書店／4314005564 / 誰にでも薦めることのできる名著。淘汰についての詳細な解説が一貫した理論で書かれており、とても分かりやすい。
Animal Signals	John Maynard Smith & David Harper／Oxford University Press／0198526857 / 生物多様性を彩る派手な飾りやディスプレイがどのように進化してきたのかについて、数多くの理論が載せられている。なぜ生存に不適なほどの派手な飾りを持つ生物が存在するのか、性淘汰・儀式闘争・個体の戦術などを通じて理解できる。
これからの進化生態学	ピーター・メイヒュー／共立出版／4320056817 / やや専門的。種分化・多様性・性の進化・共生・種の絶滅などの理論モデルと実例が数多く紹介されている。新しい情報が多く載せられており、発展途上の研究にも触れている。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

生物多様性って何だろう(JSTバーチャル科学館)
<http://jvsc.jst.go.jp/earth/bd/>

生物多様性とは(環境省生物多様性センター)
<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

質問や意見は講義中のほか、Eメールや書面でも受け付ける。全て匿名でも可とする。

dmr11098@fc.ritsumeai.ac.jp

質問の内容は講義で使うこともあるので注意すること。

その他 / Others

生命科学と倫理 (S)

13283

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考えるが、とくに先端医療の発達と「生命のはじまり」をめぐる生命倫理問題に焦点を当て、そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション/授業の概要と解説	bioethics、生命倫理学
2	近未来における生と死～映画『ガタカ』視聴	bioethicsと映画
3	近未来における生と死～映画『ガタカ』より論点抽出	ELSI
4	遺伝子決定時代の到来?～ポスト・ゲノム時代の「生・老・病・死」	PUS、PUM
5	人工生殖技術の現在(1) 生殖技術の歴史	生殖補助技術
6	人工生殖技術の現在(2) 生殖技術の現状	人工授精、体外受精
7	ベビーM事件	ベビーM事件
8	代理出産契約の是非/親権・養育権	代理懐胎/代理出産
9	代理母契約の背景	自己決定
10	分裂する父性・分裂する母性	父性、母性
11	出生前診断の波紋	出生前診断
12	優生学と新優生学	優生学、新優生学
13	再生医療と人体の資源化	再生医療
14	治療を超える?	エンハンスメント
15	まとめ:生殖技術が問いかけるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席の他、授業終了後に、毎回、コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。
一定以上の出席が無い場合、評価対象としない 授業中の私語、途中入退中は厳禁します		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめて出会う生命倫理	玉井真理子・大谷いづみ編/有斐閣//

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命倫理とは何か	市野川容孝編/平凡社//
テーマ30 生命倫理	生命倫理教育研究協議会/教育出版//
他に、参考となる文献や情報については、授業中に適宜プリントほかで配布、紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Others

地球科学 (S)

13176

担当者名 / Instructor 桂 郁雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。

はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

地球の全体像と共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解し、説明できる。

地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解し、説明できる。

地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめにー地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質ー元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プリュームテクトニクス
9	地球の磁場ー現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定ー岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働くカー地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動	発散境界、収束境界、すれ違い境界、地震活動、火山活動、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	沈み込み、島弧、圧縮場、活断層、地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	日本列島の形成	沈み込み、島弧、付加体、背弧海盆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100% 基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として論述問題を主に課す。

授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。原則として定期試験だけで成績評価をするが、もしレポートを課した場合は、20%を目安としてレポート点とし、定期試験との合計で100%とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。

授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	///
次の2つ(部分)は便利な参考書である。	
ニューステージ新訂地学図表 浜島書店編集部編著 浜島書店 4-8343-4007-5 役に立つ図表集。	
理科年表 平成23年版 国立天文台編 丸善 978-4-621-08292-8 データブック。一部が参考になる。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門-プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書(絶版?)
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書(絶版?)
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書
その他、講義内容の一部に関連する参考書	
安藤雅孝・吉井敏尅「地震-理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1	
藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6(絶版?)	
松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7	
平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3	
Kenneth J. Hsu 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船-グロマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X	
土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2	
池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)4-13-063309-0	
寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5	
上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7	
瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1	
寒川旭「地震の日本史 大地は何を語るのか」(中公新書, 2007)978-4-12-101922-6	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所、USGS(United States Geological Survey)などのホームページ

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確実であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであろうか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	情報科学で扱うこと	情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
2	情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	物質 エネルギー 情報 汎用化
3	情報とネット社会の現状	世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
4	情報の表現をどのようにするか	符号化と復号化 暗号 個人認証
5	最適な情報の表現について考える	コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
6	情報の価値を科学的に量るために	情報量 エントロピー 生起確率
7	情報量を求めてみる	TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
8	機械的情報処理のメカニズム	人工生命 複雑系 オートマン セルオートマン
9	オートマンによる情報処理の表現	状態図 オートマンによる認識 形式言語
10	生物の情報処理のメカニズムを真似て	脳 マカロックとピッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
11	コンピュータの原理を考える	チューリングマシン コンピュータ
12	人間と計算機の情報処理能力の比較	チューリングテスト ゲーデル
13	人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	人間の能力 計算機の能力
14	人間とコンピュータの情報処理能力を比較する3	クリーネーの定理
15	授業で扱った内容の関係について整理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。教科書に沿って授業を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	随時、問題を解いてもらう。正解は加点をする。小テストを行う。

欠席しないこと。抜けるとわからなくなる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報学概論・Prologプログラミング	吉田要 / 八千代出版 / 4-8429-0874-2 / 生協書籍部にて

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

情報技術と社会 (S)

12968

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会は急速に情報化社会に移行している。すなわち、大量生産による効率向上を目指した社会から、個性化重視の情報化社会に移りつつある。

本科目では、情報化社会を支える情報技術について学ぶとともに、情報技術によって人々の社会生活がどのように変わってきているのかを、具体的な例をあげて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.情報社会を支えるコンピュータおよびネットワークの基本的な仕組みを理解し、説明できる。
- 2.情報技術を活用した製品やサービスが社会に与える影響について理解し、説明できる。
- 3.情報社会の進展にともなう課題とその対策について理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報処理、情報リテラシーの技術を身につけているとより理解が深まるが、本科目を履修する上においては必須ではない。レポートの提出に利用する予定であるWebCT等の詳細な使い方は授業の中で説明する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(授業の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは	IT、ICT
第2回	ハードウェアの基礎	コンピュータの歴史、ノイマン型コンピュータ、コンピュータの5大装置
第3回	ソフトウェアの基礎	基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、ユーザビリティ、アクセシビリティ
第4回	ネットワークの基礎(1)	インターネット、World Wide Web
第5回	ネットワークの基礎(2)	プロトコル、TCP/IP、パケット、IPアドレス、ドメイン、DNS、ルーティング
第6回	ネットワークの活用(1)	ソーシャルメディア、CGM
第7回	ネットワークの活用(2)	ソーシャルメディア、CGM
第8回	中間のまとめ	これまでのまとめと、レポート課題の出題
第9回	情報技術とセキュリティ	個人情報の保護、コンピュータウイルス
第10回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
第11回	広告分野における情報技術の活用	インターネット広告、デジタルサイネージ
第12回	行政分野における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、デジタルディバイド、電子投票
第13回	医療分野における情報技術の活用	CTスキャナ、MRI、電子カルテ
第14回	情報技術と倫理	情報倫理、著作権、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス
第15回	最新の技術動向とまとめ	授業で取り上げたテーマのまとめと最新の技術動向について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- 授業を受講する前に閲覧・利用が望まれるWebサイト等がある場合は、事前に指示する。
- 授業の内容を復習するとともに、授業で紹介したWebサイトやサービスを、マルチメディアルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	(1) 授業で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスの基本的な知識を問う。 (2) 授業で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
平常点評価	25 %	(1) 与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問うレポートを課す。(課題内容は第8回の授業中に説明する。WebCTを使って提出を受け付ける予定である)[15%] (2) 授業中の演習等、授業への参加度を考慮する[10%]

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「参考になるWWWページ」で紹介している情報技術に関するニュースサイトを閲覧するなどして、日頃から情報技術に関するニュースに関心を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。
授業中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報科学概論 第3版	小松原 実 / ムイスリ出版 / 978-4896411577 / 情報技術の基礎から応用まで、わかりやすく丁寧に説明されている。
自分のペースでゆったり学ぶ TCP/IP 改訂新版	網野 衛二 / 技術評論社 / 978-4774140254 / ネットワークの基礎について物語形式でわかりやすく解説している。
ユーザーインタフェースデザインの基礎知識	古賀 直樹 / 技術評論社 / 978-4774142302 / ユーザーインタフェースの設計に関する参考書。使いやすさとはどういうことか、どうすれば使いやすくなるかを考える際の参考になる。
著作権法入門	島並 良 / 有斐閣 / 978-4641143739 / 著作権法について、豊富な判例を交えてわかりやすく解説している。情報技術が関係する内容も多い。
アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門	佐藤 望 / 慶應義塾大学出版会 / 978-4766413243 / 大学あるいは社会において知的活動を行う際に、情報技術は欠かせないものとなっている。本書は、情報技術を用いた知的技法について多く取り上げられている。

上記のほかにも、授業中に適宜、参考文献を紹介する予定である。
授業で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日経BP記事検索サービス : <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
(日経BP社発行雑誌のバックナンバーの全文記事検索サービス。授業内容に関連した記事を紹介するので利用して欲しい)

[情報技術に関するニュースサイト]

IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>

CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>

ITpro : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/>

[情報技術の用語辞典サイト]

IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

授業終了後教室にて。

その他 / Others

情報の数理 (GA)

15880

担当者名 / Instructor 大坂 博幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において重要な役割を果たしている暗号理論を歴史を踏まえながら解説をする。また、道路交通網、通信ネットワークをはじめとしたネットワークを数学的にモデル化したグラフ・ネットワークを紹介し、グラフ理論の基礎と応用を紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

暗号理論に用いられている数学の理論を学習し、日常的に使用している暗号のブラックボックス(背景及び中身)を理解する。また、ネットワークにまつわる具体的な問題を抽象的なグラフの問題として表現し、最適な解を求めるための基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学 I, II, A, Bを理解していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回~2回	数学と暗号	カエサル暗号, アルファベット換字式暗号, 頻度分析, ヴィジネール暗号, ワンタイム・パット暗号, エニグマ, DES, RSA, 量子暗号
3回~4回	数とは何か?	自然数, 0の発見, 数学的帰納法, 演算, 整数, ユークリッドの互除法
5回~6回	素数	素数, フェルマーの小定理, ディオファントス方程式,
7回~8回	暗号理論	公開鍵暗号, RSA方式, 認証法, デジタル証明
9回	グラフとは何か?	一筆書きの問題, ネットワーク
10回~11回	グラフの基礎的概念	頂点, 辺, 木, サイクル, 連結, 同型
12回~13回	オイラー回路	閉歩道, 小径, オイラー回路, ハミルトン回路, 巡回セールスマン問題
14回~15回	応用問題	4色問題, 最短経路問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	ほぼ毎週講義に関するレポート問題を課する。

レポート問題は、コースツールに毎週講義終了後載せます。提出は次回の講義の予定(テキストは使用せず、レジュメ等をコースツールを通して配布します)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回課するレポート問題を通して講義を理解するよう努力してください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。板書を基本に参考にしてください。必要なときレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報数理入門	藤井保典 / 工学図書 / 4-7692-0475-2 /
情報科学のためのグラフ理論	加納幹雄 / 朝倉図書 / 4-254-11424-9 /
暗号理論入門	ヨハネス・A. ブーフマン / シュプリンガー・ジャパン / 9784431713111 /
暗号解説 上・下	サイモン・シン / 新潮文庫 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ritsume.ac.jp/se/~osaka/>
 オフィスアワーの時間、前期の予定表、講義進行内容の確認の際利用すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

数理の世界 (GA)

15607

担当者名 / Instructor 大坂 博幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

数学を哲学的な視点から見直すのがこの講義の目標です。数学が国際言語の1つであることを認識し、数学的論理学を用いて我々の実世界を理解することが可能かどうかを実世界に用いられている数学の問題を通して検討し、実証論理主義を実践している法学に 응용する。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的考察において何が仮定であり何が論理的帰結であるかを様々な数学的問題を通して身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学I, II, A, Bに触れていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	数学とは何か?	数学, 数学者, 古代ギリシャの3大不可能問題, ゲーテルの不完全性定理
2回	数の世界1	自然数, 0の発見, 数学的帰納法
3回	数の世界2	演算, 整数, ユークリッドの互除法
4回~5回	数の世界3	素数, ディオファントス方程式,
6回	無限の世界1	ピタゴラスの定理, フェルマーの最終定理, 無理数
7回	無限の世界2	実数, 集合
8回	無限の世界3	集合の演算, 集合の要素, いくつかの問題
9回	無限の世界4	フェルマー, バスカル, 確率
10回~11回	代数的方程式	3次方程式, 4次方程式の解法, アーベルの定理, ガロアの定理
12回~13回	ギリシャの3大不可能問題	定規とコンパスの作図, 超越数, 体の拡大理論
14回~15回	19世紀の数学と20世紀の数学	無限, 非可換, パナッハールタスキーの定理, 不完全性定理, 暗号理論, 数理ファイナンス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	ほぼ毎週講義に関するレポート問題を課する。

レポート問題は、コースツールに毎週講義終了後載せます。提出先は法学部事務室の予定(確定次第連絡します)テキストは使用せず、レジュメ等をコースツールを通して配布します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

数学は理系の科目であるという偏見を捨てること。理系、文系という枠組みを捨て、教養を身につけるという意識で受講することを希望する。また、高校で履修していないから苦手であるという意識を捨て、新しいことを勉強して身につけるという姿勢で講義に臨んでほしい。毎回課するレポート問題を通して講義を理解するよう努力してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
数学とは何か	クーラント・ロビンズ / 岩波書店 / 9784000055232 /
数	エビングハウス他 / シュプリンガー・フェアラーク東京 / /
代数学に惹かれた数学者たち	ジョン・ダービーシャー / 日経BP / 4-8222-8354-4 /
数学は言葉	新井紀子 / 東京図書 / 978-4-489-02053-7 /
ゲーテルと20世紀の論理学	田中一之 / 東京大学出版 / 4-13-064095-x /
スマリヤンの無限の論理パズル	レイモンド・スマリヤン / 白楊社 / 978-4-8269-0140-6 /
ヴァイトゲンシュタインにおける言語・論・世界	野村恭史 / ナカニシヤ出版 / 4-7795-0095-8 /
形而上学 上・下	アリストテレス / 岩波文庫 / /

その他講義字での紹介文献及びレジュメの参考文献を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ritsumeai.ac.jp/se/~osaka/>

オフィスアワーの時間, 前期の予定表, 講義進行内容の確認の際利用すること.

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

統計学 (G)

13091

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

統計学は、多数の資料を整理しその傾向を探るための方法であり、社会調査などから得た標本をもとに母集団のありさまを推測するために活用されています。この講義では統計学の基礎的な手法を学ぶことを目的としています。ほとんどの学生にとっては、これまでに統計学を学ぶ機会は少なかったと思われるので、受講にあたり特別な予備知識は必要としていません。

到達目標 / Attainment Objectives

資料の整理と統計的な分析を、現実の問題解決にあたって運用できる能力を習得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修しておくべき科目はありませんが
事前に高校数学(数学I,A)の1次関数・2次関数・確率の部分を復習しておくに役に立つでしょう

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	種々の平均値	平均値 中央値
第2回目	特性値	平均 分散 標準偏差
第3回目	度数分布表	加重平均
第4回目	標準化	Zスコア 偏差値
第5回目	順位	四分位数 百分位数 ローレンツ曲線 ジニ係数
第6回目	相関	正の相関 負の相関 相関係数
第7回目	回帰分析(1)	回帰直線 最小2乗法
第8回目	回帰分析(2)	重回帰 決定係数
第9回目	確率変数	確率変数の期待値
第10回目	二項分布	二項係数
第11回目	正規分布	二項分布の正規近似
第12回目	母集団と標本	母平均・母分散の推定
第13回目	区間推定	標本平均
第14回目	検定	帰無仮説 対立仮説 有意水準
第15回目	復習と試験の概要	試験の類題演習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内で行った演習問題と同程度のもの
平常点評価	30 %	毎回授業の後半に演習問題を出题します

定期試験(筆記)では電卓を使用します
平方根が計算できるものが望ましいですが、関数電卓は不可とします

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

指定の教科書はありません
毎時授業ごとにテキストを配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
統計学入門	東京大学教養学部 / 東京大学出版会 / 978-4-13-042065-5 / やや高度な内容で、統計学の幅広い分野に対応しています

高校数学(B,C)の教科書には通常の課程で使用しないページがあり、統計学の解説がコンパクトになされています

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話／Talk with Students

演習の時間を設けていますので、その時間に質問等には答えられると思います

その他 / Others

教養ゼミナール(1)

53315

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】ジェンダー・アプローチの可能性

家庭や学校、職場、その他さまざまな組織や制度を含め、私たちの日常生活や社会には、男女性別2元論のジェンダー秩序がある。ジェンダー・アプローチとは、この社会秩序のなかで無意識のうちに私たちが従っている性別規範を対象化することである。この教養ゼミでは、性別役割分業や、男らしさ・女らしさという典型化された性の特性が、歴史的、文化的、人為的に形成されたものであることを明らかにし、人間の多様な在り方を模索するために、現代の性差別を克服する課題について多面的に検討する。最近のジェンダー論では、2元論的な異性愛主義の性規範に基づくジェンダー・アイデンティティが問い直されつつある。こうした新しいジェンダーの視点から私たちを取り巻く社会をとらえ直し、個人の多様な在り方を尊重する、より多様で開放的な人間関係と社会を展望する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- * 日常的な生活から男女間の不平等や差別の問題を考える。
- * 性別役割分業や、家族、母性などの歴史的な性格について考察し、説明できる。
- * 男女2元論の枠組みや性規範、それに基づく制度や法の現状を把握し、性の多様性、各個人の違いを尊重する社会を展望する。
- * 国内だけでなく国際社会におけるジェンダー公正を目指す法制度・政策について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ジェンダーとはなにか	セックス、ジェンダー、セクシュアリティ
2	性の2分法	ジェンダー・アイデンティティ、女らしさ、男らしさの規範
3	性の多様性	ゲイ、レズビアン、インターセックス、トランス・ジェンダー、トランス・セクシュアル
4	結婚と家族	制度と現実、多様化する家族
5	家事労働と賃労働	性別分業と賃金差別、雇用均等法
6	母性	子育て、介護、ケア
7	性と生殖	優生思想とリプロダクティブ・ライツ
8	グループ・プレゼンテーションI	
9	性の商品化I	広告、ファッション、整形・化粧品、ダイエット
10	性の商品化II	ポルノ産業、セックスワーク
11	性暴力I	セクシュアル・ハラスメント
12	性暴力II	DV防止法
13	性暴力III	軍事化とジェンダー、「従軍慰安婦」制度
14	ジェンダー公正に向けて	貧困の女性化、国連女性差別撤廃条約の提言・勧告、男女共同参画基本法
15	プレゼンテーションII	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ジェンダーにかかわるトピックについて基本的なデータ、資料、事例を調査・収集し、分析・考察する。各トピックにかかわってグループプレゼンテーションを行い、ディスカッションを深め、データや資料、事例に基づいて考察した結果について発表する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	試験に代わる最終レポートを提出する。
平常点評価	70 %	トピックごとに、調査・収集した関連データ、資料、事例について分析・考察し、グループディスカッションを深め、プレゼンテーションをする。 関連データ、資料、事例の調査・収拾(20%) グループディスカッション(20%) プレゼンテーション(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一般教育の大講義で「ジェンダー論」を受講するのとは違い、少人数のゼミナールで、ゼミ生一人一人が自分の関心にそって問いを立て、関連する事例の資料やデータを調査し、結果をまとめて報告する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
21世紀のジェンダー論	池内靖子、二宮周平、姫岡とし子編 / 晃洋書房 / 4771015651 /
ジェンダーの社会学	江原由美子 / 新曜社 / /
男女共同参画社会をつくる	大沢真理 / 日本放送出版協会・NHKブックス / /
結婚と家族	福島瑞穂 / 岩波新書 / /
家父長制と資本制	上野千鶴子 / 岩波書店 / /
生殖の政治学	荻野美穂 / 山川出版社 / /
クイア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /
「レズビアン」である、ということ	掛札悠子 / 河出書房新社 / /
多様な性がわかる本	伊藤悟、虎井まさ衛 / 高文研 / /
はじめて学ぶジェンダー論	伊田広行 / 大月書店 / /
その他の参考図書については、適宜ゼミで紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

WAN(Women's Action Network)のホームページ

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

教養ゼミナール (2)

53329

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】一神教思想と現代社会

私達が直面している現代社会の諸問題に対して、これまでも様々な角度から多くの調査・研究・提案がなされてきた。しかし、唯物論的思想が優勢で、たとえ宗教的思想が取り上げられても、多神教が優勢と一般的に言われる日本においては、一神教の思想や文化がこれらの諸問題とどのように関わっているのかという考察が比較的少ない。それは、本学の学生も含めて日本の学生には、そのような考察や情報に触れる機会が少ないということでもある。そこで本ゼミナールでは、「主にユダヤ教思想とキリスト教思想に関連したり、影響を受けている現象や諸問題を調査・研究し、その討議や発表を通して主体的な学びを実践する」。このような学びを通して、異文化や他の異なる世界を見る目を養い、現代社会の諸問題や変化に柔軟に対応できる見識を身に着けることを目標とする。今まで世界を動かしてきた思想の一つと現代社会との関係を教養として学ぶことは、今後日本のみならず国際社会で活躍を目指す日本の若者にとって有益で、新たな知的刺激となりうる。(指摘するまでもないが、その影響は、政治・経済・哲学・教育・医療・福祉・文学・音楽・絵画・メディア・スポーツ等、現代社会のあらゆる分野に見ることができる。)

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

上記のような授業を通して、学生は主体的な学びを実践していくが、その過程で主に次のような力量を獲得することが期待される。①問題観察力・課題設定力 ②調査・研究力 ③文献読解力 ④問題解決力 ⑤発表力 ⑥コミュニケーション力・議論する力 ⑦レポート作成による文章作成力 ⑧異文化理解力 ⑨チームワーク

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

宗教と社会、基礎演習I、情報リテラシーI、プロジェクトスタディ等(と同様)の科目を履修しておくことが望ましいが、必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション(本ゼミの目標・手順・研究範囲の理解)、ブレイン・ストーミング 1、プレ調査 1	
第2回	ブレイン・ストーミング 2、プレ調査 2、課題と研究グループの設定	
第3回	調査・研究手法の確認	
第4～5回	事例研究 1～2	
第6～9回	中間発表と討議 1～4	
第10回	中間発表の小括、最終発表の準備	
第11～14回	最終発表と討議 1～4	
第15回	総括 — 本ゼミを通して何を学んだか。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本授業では課題の調査・研究、及びその発表や討議を通して主体的な学びを実践していくので、調査・研究・発表・レポート作成に関わる授業外学習が期待される。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	本ゼミナールへの出席・参加・貢献度、発表、レポート等を基に評価する。
開講回数数の3分の2以上の出席が評価の最低要件となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1) 受講態度: 受講にあたっては、出席は勿論、課題実行も含めゼミナールへの高い参加度が期待される。
- 2) 欠席した場合の対処: 欠席した場合は、クラスメートから欠席中に行われた授業の内容や出された課題について聞き出し、遅れを取り戻すこと。
- 3) 剽窃(ひょうせつ): 引用という形式を取らずに他人の知的財産を盗用すること(剽窃)は厳に慎むこと。レポートや発表において剽窃が発覚した場合は、その課題の評価は零となる。場合によっては、単位を失うこともあるので注意すること。
- 4) 学部から配布される学習用『(さんしゃ)ハンドブック』等を事前に読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

聖書の読み方

大貫隆／岩波書店／978-4004312338／

一神教であるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の共通聖典が旧約聖書である。一神教を理解するには、まずその聖書自体を読むことが重要であるが、その一つの読み方を上記の本を通して学ぶことができる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
一神教とは何か: 公共哲学からの問い	大貫隆・他著 / 東京大学出版会 / 4-13-003205-4 /
一神教文明からの問いかけ	宮本久雄・他著 / 講談社 / 978-4000234061 /
一神教の誕生—ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	O. ヴァレ著 / 創元社 / 978-4422214962 /
ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか	森孝一編 / 明石書店 / 978-4-7503-2903-1 /
原理主義から世界の動きが見える: キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像	小原克博・他著 / PHP研究所 / 4-569-65577-7 /
聖書(新共同訳)	/ 日本聖書協会 / /
イスラーム	P. タンディ著 (小杉泰訳) / ネコ・パブリッシング / 4-7770-5050-5 /
問いかける聖書と経済: 経済と経済学を聖書によって読み解く	山本栄一著 / 関西学院大学出版会 / 978-4-862830050 /
ヨハネ福音書 文学的解剖	A・カルペッパ著 (伊東寿泰訳) / 日本キリスト教団出版局 / 978-4818405660 /
太宰治と聖書	野原一夫 / 新潮社 / 4-103353074 /
さんしゃハンドブック(入門編)	産業社会学部編 / / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

教養ゼミナール (3)

53314

担当者名 / Instructor 及川 正博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】「アメリカの夢」の光と影 - 文学を通して考える

アメリカのエトスの基である「アメリカの夢」をキー概念としてアメリカの本質を理解し、さらに、その光と影をその文学を通して考えることで、アメリカという国の強さと弱さを知る手がかりを得る。

到達目標 / Attainment Objectives

それぞれの時代を代表するアメリカの作家たちが「アメリカの夢」とどのように関わってきたかを検討・考察することで、トータルにしかも具体的にアメリカ社会と文化を理解する能力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、アメリカ関係の科目と並行して履修することで研究が進むだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「アメリカの夢」概観(1)	
2	同上(2)	
3	同上(3)	
4	ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』(1)	
5	同上(2)	
6	同上(3)	
7	マーク・トウェイン『ハックルベリ・フィンの冒険』(1)	
8	同上(2)	
9	同上(3)	
10	スコット・フィッツジェラルド『偉大なギャッツビー』(1)	
11	同上(2)	
12	同上(3)	
13	アーサー・ミラー『セールスマンの死』(1)	
14	同上(2)	
15	同上(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業では、第1回から第3回まで講師がまず「アメリカの夢」が各時代の文学にどう現われているか概説する。その後、上記の4作品をそれぞれ3回にわたって扱い、それぞれの1回目は作品の内容と技巧など全般を論じ、続く2回の授業で作品を「アメリカの夢」の視点から論じた英語の論文を読む。なお、第4回目からは受講生の発表を中心に授業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	* テーマに関わった作品論
平常点評価	60 %	* ゼミへの参加度・貢献度などによる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は「アメリカの夢」とは何かに関して講師が3回にわたって全体を網羅した講義を行った後、これをテーマとした各時代を代表する作家の主要作品4編を読むが、簡便な翻訳本が出ているので、じっくり読んで授業に臨むこと。理想的には英文のオリジナルにも目を通して欲しい。4回目以降は、上記のテーマが諸作品にどう反映しているか、英文資料を使用して議論する。受講者は原則として順番に、指示された1作品を責任を持ってレポートし、ディスカッションをリードし、他の者は配布された英文資料などを基に積極的にコメントすることが求められる。授業はディスカッション中心に進めるので、ぜひ問題意識を持って参加して欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリン、松本慎一・西川正身訳／岩波文庫／／
『ハックルベリ・フィンの冒険』	マーク・トウェイン、西田実訳／岩波文庫／／
『華麗なるギャッツビー』	スコット・フィッツジェラルド、野崎孝訳／新潮文庫／／
『セールスマンの死』	アーサー・ミラー、倉橋健訳／ハヤカワ演劇文庫／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文学とアメリカの夢	川上忠雄編 / 英宝社 / 4-269-74008-6 / 「序章」は必読
The American Dream	Blake Hobby (Editor) / Bloom's Literary Criticism / 9-780791-098011 /
American Dreams, American Nightmares	David Madden (Editor) / South Illinois Univ. Press / 0-8093-0446-5 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

メールによる質疑応答
oikawa@ir.ritsumei.ac.jp

教養ゼミナール (4)

53320

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】ことばの世界

ゼミのタイトルは「ことばの世界」です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後驗的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴァイトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。具体的には、久津内一雄『ことばの世界』をテキストにして、班単位で報告し合い、それに基づいて、議論を深めていきたいと考えています。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~6	近代言語学の成立とその背景	ソシュール
7~9	言語相対主義の潮流	フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウオーフ仮説、ドイツ意味論学派
10	言語理論の記号学的展開	レヴィ＝ストロース
11~12	言語理論の記号学的展開	ラカンの欲望論
13~14	言語理論の言語使用論的展開	ヴァイトゲンシュタイン言語ゲーム論
15	言語と現代思想の問題(まとめ)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席と班活動への取り組みを重視します。 レポートを課します。
2/3以上の出席が不可欠です。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

久津内一雄『ことばの世界』をテキストとして配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
これがニーチェだ	永井均 / 講談社現代新書 / /
ヴァイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む	野矢茂樹 / ちくま学芸文庫 / /
時間論	中島義道 / ちくま学芸文庫 / /
寝ながら学べる構造主義	内田樹 / 文春新書 / /
現代思想の冒険	竹田青嗣 / ちくま学芸文庫 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

教養ゼミナール (5)

53316

担当者名 / Instructor 重森 臣広

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】日本社会の「現在」と正義論

昨年話題になったマイケル・サンデルの『これからの「正義」の話をしよう』を素材にして、人や行為の「正しさ」について、どのような考え方があるのかを学び、語ってみようというのが趣旨です。厄介なことにこの「正しさ」の評価は、およそ全員一致などということではなくて、むしろ衝突しあうのがしばしばです。その衝突の根底にはいったいどういう考え方の違いがあるのか。ヨーロッパの思想史の基本事項を学びながら、今を生きる私たちにとっての「正しさ」とは何かを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

「読む」、「書く」、「語る」、「聴く」というのは、すべての人間の営みの基本であり、これらの能力に磨きをかけることが教養教育の目標であり、「生きる力」を身につける学習の基本だといえるでしょう。上にあげた共通のテキストを読んで、知識を得ることももちろん大事ですが、それをどう自分が受け止めたのか、あるいは受け止められないのかを感じ、それを自分の言葉で表現してみることも大切です。座学の授業とはちがって、この授業では「会話」と「学び」が結びつくことの楽しさを味わってもらえればと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~15	共通テキストに関する講義、討論。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
これからの「正義」の話をしよう	マイケル・サンデル / 早川書房 / /

参考書 / Reference Books

授業時間に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students
 その他 / Other
 電子メール (sigemori@sps.ritsumei.ac.jp)

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】合意形成や相互理解のためのファシリテーションの理論と作法

(1) 自分をとりまく様々な問題解決のためには、どんな能力や発想法が必要になるでしょうか？そもそも何をどんな立場で問題としてみなすのか？問題の発生要因や構造はどうなっているのか？解決とは何がどのようになることなのか？そもそも「ある状況や出来事」を問題、とみなす自分は一体何者なのか？あるいは「これは問題だ！」とみなしている他者を理解するとはどういうことなのか？

(2) こうした「問い」から出発して、一人の頭で考えるのではなく、他者とのやりとりの中から、自分の目で見、耳で聴いて、自分の頭で考えて、自らの考えを表現し、さらにまた他者とのやりとりの中から「問い」そのものをデザインし、「こたえ」を見つけていくためのプロセスを学びます。そして、そのプロセスの果てにある自己と他者への深い理解、合意形成に至るためのファシリテーションの理論と作法を学びます。

(3) 具体的には参加者個々人の興味関心から、担当教員の専門である「まちづくり」の分野まで話題を幅広く取り上げながら、それらを考察のための題材にしなが、問題解決や合意形成、相互理解のための理論と作法」であるファシリテーション能力の獲得と向上を目指します。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 他者とのやりとりを促進し、創造的なコミュニケーションを展開させるファシリテーション能力＝「聴く力」＋「眺める力」＋「表現する力」の獲得と向上を目指します。

(2) 合意形成や問題解決に必要なとなるファシリテーション能力は、グループワークを展開する能力でもあります。具体的には様々なグループワーク(ワークショップ)を展開する際に必要となるアクティビティの遂行能力や、グループワークそのもののプロセスやプログラムをデザインする能力を獲得します。

(3) 文献講読により、グループワーク(ワークショップ)やファシリテーションが必要とされてきた背景や、その理論や実践が発達してきた経緯や歴史を学ぶことで、単なる技術ではなく、人間への深い洞察と理解、哲学に裏付けられたコミュニケーション作法を獲得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

担当教員が担当する「環境形成論」「景観デザイン論」を併せて受講すると、様々な実践例を通してファシリテーション技術の可能性や奥深さを深く理解することができます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	己を知る・他者を知るワーク	自己紹介や他己紹介のための様々なアクティビティを実際に経験し、「聴く」「眺める」「表現する」ことを学ぶ
第2回	「己を知る・他者を知るワーク」の振り返り	第1回目のワークに込められた心理学的な考察を文献によって理解し、自分達が経験したワークの意味と意義、効果について考察をしてみる。
第3回	“単独でやりきることの効果”と“協働してやりきる効果”との比較	ものごとを効率的にしあげていくためには自分一人で考えて実行した方が良いのか？それとも他者と協働して展開していった方が良いのか？この2つを実際に体験するワークを展開。
第4回	“眺める”ことによって解決の兆しを見つける	担当教員が経験してきた「まちづくり」の現場での事例をいくつかを共有しながら、立場も意見も心情も全く異なるステークホルダー(利害関係者)が、ある一つの方向性に向かっていくためのプロセスを検証し、実際に担当教員が「まちづくり」の現場で用いてきた様々なワークショップ・プログラムや、ファシリテーション技術の応用例を紹介し、ファシリテーション能力の必要性和コツについての理解を深める。
第5～8回	「“眺める”ことによって解決の兆しを見つける」ための実践的ワーク体験とその解説その1	「“眺める”ことによって解決の兆しを見つける」ために必要となる3つの基礎的技術(KJ法、ファシリテーション・グラフィック、ノミナル・グループ・テクニク)を実際に体験し、その意味や効果について解説。
第9回	ワークショップとファシリテーションの起源	ワークショップやファシリテーションの方法論の起源とその展開や意義について、カール・ロジャースのグループカウンセリング論やジョン・デューイの教育論、そして1960年代のアメリカ合衆国におけるコミュニティ・デザイン運動にさかのぼって考察し、理解を深める。

第10回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その1	参加者を1グループ6~7人程の3つの小グループにわけ、それぞれのグループ毎に、「お題」を決め、その「お題」を深く考察するためのワークショップのプログラム作成と実施を行う。本ゼミで取得したファシリテーション技術の応用を実践することで、その意義や苦労を実感、理解する。
第11回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その1の振り返り	前回に実施したワークショップのプログラム内容やファシリテーションの実際を振り返る。企画グループの反省や獲得できたこと、ワークショップ参加者からのコメント、担当教員からの講評を共有することで、ファシリテーションの効果や不十分な点などを考察する。
第12回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その2	第10回のグループとは異なるグループによるワークショップの実施。
第13回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その2の振り返り	前回に実施したワークショップの振り返りとフィードバック。
第14回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その3	第10回、第12回とは異なるグループによるワークショップの実施。
第15回	「受講生の受講生による受講生のためのワークショップ」その3の振り返りと全体の振り返り	前回に実施したワークショップの振り返りとフィードバックと、全体と通じての振り返り。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	全15回への出席が単位認定の最低条件です。その上で、毎回参加型授業を展開するので、参加度を重視します。 毎回の授業では、コミュニケーションペーパーへの記述だけでなく、具体的なワークやコメントの記述など、かなりの作業量が必要となります。参加度は、作業に対する姿勢や、作業結果の内容によって毎回判断し、それらを基に、全15回を通じての成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 少人数(20名)による参加型の授業となります。
- (2) 様々な学部からの参加を想定していますが、たとえそうでなくても、参加者一人一人がそれぞれ異なった問題意識やテーマを持ち寄って参加することを鑑みれば、まずはその「違い」、さらには「違う中にも存在する共通点」を、参加者自身が相互に理解することで、参加者それぞれの能力や個性、問題関心を広げる場にしたいと考えています。
- (3) 具体的には4冊の文献を講読しつつ、実際に参加者同士で、相互理解や合意形成のためのファシリテーション技術を獲得するグループワークを展開していきます。
- (4) 実際のグループワークを経験する回と、そのワークに込められた意味や背景、さらにはワークを経験したことから得られた知見を深く理解するための回を交互に繰り返していきます。
- (5) 必要に応じて、3回分のワークを1日で行い、集中的にファシリテーション技術の獲得を目指す時間を設けます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境と都市のデザイン—表層を超える試み・参加と景観の交点から	斎藤・土肥編著 / 学芸出版社 / 担当教員も執筆陣に加わり、実践的な活動の中で合意形成やワークショップがどう展開するかを記した本。担当教員がどのような実践を経て今日に至っているかを理解してもらえる本です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会議の技法—チームワークがひらく発想の新次元	吉田新一郎 / 中公新書 / この10年間で様々な合意形成手法やファシリテーション技術の本が出版されたが、この本が一番手頃でシンプルかつ的確。
紛争の心理学—融合の炎のワーク	アーノルド・ミンデル / 講談社現代新書 / ワorkshopに関する本は様々あれど、担当教員が唯一衝撃と深い感銘を受けたファシリテーションに関する書籍(残念ながら品切れ)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナルHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー／Communication Paper

学生との直接対話／Talk with Students

その他 / Others

教養ゼミナール (10)

53327

担当者名 / Instructor 森 利博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】現代金融システムの基礎知識

先ず金融に関する基本的な知識や金融システムについて学び、それを踏まえて、今回の世界金融危機の発生原因について考える。また、今後金融危機の再発防止策として何が有効か、についても議論する。主要なテーマについてレクチャーを行った上で、それらに関して新聞や雑誌などに掲載された記事をマテリアルとして用い、それらについて用意された質問に答えるべく、グループワークを行う。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界金融市場についての認識を深め、それが直面する諸問題に関して自分の意見・見解を述べられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、マクロ経済学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	金融の仕組み(レクチャー)	間接金融、直接金融、貨幣、信用創造
第2回	金融の仕組み(グループワークとディスカッション)	間接金融、直接金融、貨幣、信用創造
第3回	金融政策(レクチャー)	中央銀行、金融政策の目的、政策金利、市場操作、ゼロ金利政策、非伝統的金融政策
第4回	金融政策(グループワークとディスカッション)	中央銀行、金融政策の目的、政策金利、市場操作、ゼロ金利政策、非伝統的金融政策
第5回	金融行政(レクチャー)	垣根政策、護送船団方式、金融ビッグバン、ペイオフ解禁
第6回	金融行政(グループワークとディスカッション)	垣根政策、護送船団方式、金融ビッグバン、ペイオフ解禁
第7回	銀行業(レクチャー)	BIS規制、自己資本、貸し渋りと貸しはがし、預貸率と預証率、預金保険
第8回	銀行業(グループワークとディスカッション)	BIS規制、自己資本、貸し渋りと貸しはがし、預貸率と預証率、預金保険
第9回	証券業とシャドウバンク(レクチャー)	グラス・スティーガル法、ユニバーサル・バンキング、株式売買委託手数料の自由化、資産管理ビジネス、対顧客ビジネスと自己勘定取引、ヘッジファンド、レバレッジ
第10回	証券業とシャドウバンク(グループワークとディスカッション)	グラス・スティーガル法、ユニバーサル・バンキング、株式売買委託手数料の自由化、資産管理ビジネス、対顧客ビジネスと自己勘定取引、ヘッジファンド、レバレッジ
第11回	証券化(レクチャー)	オフBS、オリジネーター、裏付け資産、SPV、真正売買、優先劣後構造、サブプライムローン
第12回	証券化(グループワークとディスカッション)	オフBS、オリジネーター、裏付け資産、SPV、真正売買、優先劣後構造、サブプライムローン
第13回	デリバティブ(レクチャー)	先物、スワップ、カウンターパーティー・リスク、CDS、オプション
第14回	デリバティブ(グループワークとディスカッション)	先物、スワップ、カウンターパーティー・リスク、CDS、オプション
第15回	金融危機再発防止策(レクチャー)	TARP、ボルカー・ルール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で取り上げたトピックに関する新聞・雑誌記事などを探し出し、積極的に学習するよう心がけて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	内訳は、出席点15%、グループワークへの貢献度及びプレゼンテーション55%、検証テスト30%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日ごろから、新聞の経済・金融欄の記事に目を通すように心がけて欲しい。

教科書 / Textbooks

市販の書籍などは特に用意しない。

授業で取り上げるトピックに関するクエスチョン・リスト、及びそれに答えるための参考となる新聞・雑誌記事のコピーを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

金融入門 第6版

日本経済新聞社編 / 日本経済新聞出版社 / 978-4-532-11815-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

英文のサイトであるが、日々の金融市場情報が入手できるものとして、www.bloomberg.comを推薦する

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

授業の中で教員のメールアドレスを受講者に伝える。

その他 / Others

教養ゼミナール (12)

55076

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】映像から「生と死の物語」を読み解く

生殖補助技術、再生医療、生命維持治療など、バイオテクノロジーと先端医療技術の急激な発達により、これまでの「生と死の諸相」は大きく変容しようとしている。本ゼミナールでは、映画やドキュメンタリーなど、「生と死」がメディアのなかでどのような物語として描かれているかを解読しながら、それが生命に対するどのような価値観の形成に影響を与えているかを考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディアによって流される「生と死の物語」がどのような生命観を内包しているかを解析できる。
- ・市民としてバイオの時代を生き抜くための視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

担当者による教養科目「生命科学と倫理」、「生命倫理学」の受講を強く望む

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション: 授業の概要	
2	生命倫理問題を主題にした映像作品(映画)の視聴と論点抽出①	
3	生命倫理問題を主題にした映像作品(映画)の視聴と論点抽出②	
4	生命倫理問題を主題にした映像作品(映画)の視聴と論点抽出③	
5	生命倫理問題を主題にした映像作品(映画)の視聴と論点抽出④	
6	生命倫理問題を主題にしたドキュメントの視聴と論点抽出・議論①	
7	生命倫理問題を主題にしたドキュメントの視聴と論点抽出・議論②	
8	生命倫理問題を主題にしたドキュメントの視聴と論点抽出・議論③	
9	各自の関心に沿った調査報告と討論①	
10	各自の関心に沿った調査報告と討論②	
11	各自の関心に沿った調査報告と討論③	
12	各自の関心に沿った調査報告と討論④	
13	各自の関心に沿った調査報告と討論⑤	
14	最終レポートの吟味・完成	
15	最終レポートの吟味・完成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

大講義の「生命科学と倫理」や専門科目「生命倫理学」ではコミュニケーション・ペーパーとそのフィードバックを毎回行い、大講義ながら双方の授業を試みてきたが、本ゼミナールでは小集団である利点を生かし、より能動的に、ゼミ生一人一人が自らの関心にそってひとつの事例やメディア作品を選んで調査・研究・発表し、報告にまとめます。受講生のより積極的な姿勢を期待します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業・討論への参加
平常点評価	50 %	自らの関心に沿った作品を解析し、報告してレポートにまとめる

映画やドキュメンタリーだけでなく、漫画や演劇など、媒体は広く想定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業で適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

メールリングリストを作成予定

その他 / Others

教養ゼミナール (13)

55075

担当者名 / Instructor 大平 祐一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】人は法を使ってどのような社会を造ろうとしたのか

本授業では、日本の歴史、とくに「近現代日本の祖型」といわれる近世社会(江戸時代)のなかでの法の特徴を理解することを通じて、法と社会についての豊かな見方を養うことを目的としています。

授業では、法と社会をめぐるさまざまな問題のなかから興味のあるテーマを調べ、報告しレポートを作成します。近世については、婚姻、離婚、不倫、相続、裁判、復讐、拷問と自白、犯罪、刑罰など社会と法に関するさまざまな興味深い問題が考えられます。「刑務所は存在しない」「妻の不倫は死刑」「裁判は無料」など、現在では想像できないことがらについて、「なぜそうなのか」と「問う力」「考える力」の涵養を追求します。

個人学習、グループ学習のなかで、学びを深め、調べる、考える、話す、議論する、まとめる等、知的探求、知的生産のプロセスの楽しさを追求します。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 歴史の中での多様な法のあり方を学ぶことにより、社会と法に対する多面的で幅広い見方ができる基礎を築く。そして、そのことにより、現代の社会と法に対する豊かな見方ができる力を涵養する。
2. みずから研究テーマ(課題)を見出し、それに必要な文献、史料を収集し、それをもとに自己の見解をまとめ、報告、討論する(他人に伝える)能力を身につける。
3. 大学での学びのルールを尊重し、学部、学年を異にする人々と共に対話し、学び励まし合える雰囲気づくりに貢献できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション 授業計画を説明する重要な場ですので必ず出席すること。	自己紹介 授業の到達目標 授業計画 成績評価基準 班分け
第2回	文献の調べ方 文献収集の仕方	文献目録 ネットでの文献の調べ方 文献入手の仕方の学習
第3回	全員学習	論文読み合い。問題関心の涵養
第4回	全員学習	論文読み合い。問題関心の涵養
第5回	事例研究	個別論文の検討、班報告、討論
第6回	事例研究	個別論文の検討、班報告、討論
第7回	事例研究	個別論文の検討、班報告、討論
第8回	事例研究	個別論文の検討、班報告、討論
第9回	中間報告	テーマ披露、各自の報告取組状況の報告、質問
第10回	中間報告	テーマ披露、各自の報告取組状況の報告、質問
第11回	中間報告	テーマ披露、各自の報告取組状況の報告、質問
第12回	本報告	各自の成果報告、討論
第13回	本報告	各自の成果報告、討論
第14回	本報告	各自の成果報告、討論
第15回	まとめ	総評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、報告、討論への参加、レポート等を総合的に判断する。

なお、スケジュールは受講者の人数により多少の修正をすることがあります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

法制史学会のホームページは文献検索に便利です。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

授業で指示

その他 / Others

歴史に興味があり、法に関心のある方、歓迎します。

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】アクティブ・ラーニングの探究

アクティブ・ラーニングとは学生の活動を中心に組み立てられた授業のことで、伝統的な旧来の講義形式に対して1980年代のアメリカで始まった双方向型の授業方法で、大学授業のパラダイムの転換とも言われています。

かつて、ブラジルの教育学者のパウロ・フレイレは旧来の授業を学生の口座に知識を貯め込んで必要なときに引き出す教育法だとして銀行型学習と呼びました。しかし、そのような学習法は現代のように膨大な情報の中で何が正しいのか、何をどうすればよいのかを考えるとときには役に立たないということから、学生が自ら知識や情報を整理し、分析し、解決法を考えるような、学生の主体的・能動的な学習法が提案され、アメリカを始め各国で実践されてきました。

ところが日本では皆さんが受けている授業でもわかる通り、いまだに知識伝授型、一方通行型、銀行型の学習法が主流です。

この教養ゼミでは、自分たちの受けてきた授業を振り返りながら、銀行型学習とアクティブ・ラーニングの違いについて理解したうえで、学生にとって「役に立つ授業」「ためになる授業」「おもしろい授業」とは何かを考えたいと思います。

さらに、このゼミに来る学生には、このゼミを通して「生徒」と「学生」の違いを理解し、大学生らしい学生生活を送ってほしいと願っています。また、教養ゼミは学部・回生を超えた知の交流ができる貴重な機会です。このゼミも学生が主役のそれこそアクティブ・ラーニングで楽しくやりたいと思います。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・アクティブ・ラーニングの意義を理解できる。
- ・自分で考える力をつける。
- ・自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を他の人に理解できるように伝える力をつける。
- ・他の人の意見を理解する力をつける。
- ・コミュニケーションに関する力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・自己紹介(まずは仲良くなるのが大事ですから、ゲーム風にやりましょう) ・ゼミの進め方 ・メーリングリストとWebコースツールについて	
第2回	・大学授業序論(戦後の新制大学が大衆化段階を経てユニバーサル段階を迎えるなかで、日本の大学も1991年以後、大きな変革期に入ったことを理解してください) ・これまでに受けた授業を振り返り、授業に対する思い(良かったこと・改善して欲しいこと)を自由に語り合います。 (これ以降、このゼミでの話し合いの進め方は、グループに分けた話し合いと全体での報告討議を適宜組み合わせで行います)	
第3~4回	・アクティブ・ラーニング序論(D.W.ジョンソン等のパラダイム転換論をもとに、自分たちの受けた授業をアクティブ・ラーニングの観点から整理し、改善の課題を抽出し合います)	
第5~8回	・アクティブ・ラーニングのケース・スタディ(ハーバード白熱教室や、国内の学生主体型授業事例を題材に、アクティブ・ラーニングの要素・条件・手法・達成目標などを考えます)	
第9~12回	・自分が受けた授業の中で最もアクティブ・ラーニングに近いと思う授業を探し、アクティブ・ラーニングの観点から授業紹介を行い、さらなる改善の課題を意見交換します。	
第13~14回	・アクティブ・ラーニングの観点からのさらなる授業改善プランを発表し合い、討論します。	
第15回	・ゼミを振り返って ・ゼミ論集について	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

- ・図書館やインターネットを利用して、ゼミで必要な情報を積極的に収集してください。
- ・収集した情報をゼミで発表するために、レジュメや図表を作成するのに慣れてください。
- ・グループワークの際はメンバーの間でよく連絡を取り合いながら進めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミへの積極的参加度(単なる出席ではなく、発表やディスカッションへの参加、コースツールやメーリングリストの活用)を総合的に評価します。:70% 最終レポートを、独創性、調査力、まとめ方、考察力で総合的に評価します。:30%

-
- ・ゼミですから、出席が前提です。やむを得ず欠席するときは事前に連絡することと事後のフォローに努力するよう心がけてください。
 - ・ゼミ生と相談の上ですが、ゼミ論集を作る予定です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・おもしろい授業を探している人、今の授業に飽き足りない人、大学で何をすべきか迷っている人などは、ぜひどうぞ。
- ・教養ゼミは学部・回生を超えたクラス編成が特徴です。何より学部・回生を超えた交流を楽しんでください。

教科書 / Textbooks

なし。必要に応じて授業用プリントを作ります。

参考書 / Reference Books

必要に応じてゼミで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

skino@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

履修者数の上限は20名とします。

教養ゼミナール (17)

55071

担当者名 / Instructor 清水 凱夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】一般教養としての故事熟語

日本文化に強い影響を与えた中国の漢語で書かれた一般常識的な故事熟語の語源を取り上げ、その意義を考察しつつ、講読していくようにする。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

一般常識としての有名な故事熟語となっている漢文を読解し、その意義を正確に理解できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

漢語・漢文法をとっておくのが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	尾生の信・漱石枕流	史記・晋書
第2回	一字千金・顰に倣う	史記・莊子
第3回	狡兎死して良狗煮らる・肯綮に中る	史記・莊子
第4回	遠交近攻・燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや	戦国策・史記・
第5回	蝸牛角上の争い・臥薪嘗胆	莊子・史記
第6回	苛政は虎よりも猛し・合従連衡	礼記・史記
第7回	鼎の軽重を問う・五十歩百歩	春秋左氏伝・孟子
第8回	宋襄の仁・匹夫の勇	春秋左氏伝・孟子
第9回	風馬牛・蛇足	春秋左氏伝・史記
第10回	竹馬の好・朝三暮四	世説新語・列子
第11回	轍鮒の急・先ず隗より始めよ	莊子・戦国策
第12回	桃源郷・虎の威を借る狐	桃花源記・戦国策
第13回	寧ろ鷄口と為るも牛後と為るなかれ・木に縁りて魚を求む	史記・孟子
第14回	漁夫の利・奇貨居くべし	戦国策・史記
第15回	管鮑の交り・舟に刻して剣を求む まとめの試験	史記・韓非子

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

故事熟語の意味を多く調べてみてほしい。講義の進度や難易の具合を見て、場合によっては故事熟語の項目を変えることがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	予習状況や出席などといった受講態度および最終講義でのテストにより、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に漢文を読んでもらうので、予習してきてもらいたい。

教科書 / Textbooks

プリントしたものを使用。

参考書 / Reference Books

講義時に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

教養ゼミナール (18)

55070

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】東アジアを学ぶ

近年、東アジアにおける経済的、文化的躍進が世界の注目を浴びている。冷戦崩壊以降、東アジア地域においても、東北アジア共同体や東北アジア非核地帯など地域内での平和、繁栄を目指す共同の努力が始まっている。また、観光やビジネス、就業や留学など地域内で爆発的に人の交流が広がり、「東アジア大交流時代」が始まったと言われている。しかし、日本は東アジア諸国との過去清算や核問題を含むトータルな平和の実現に至っておらず、一般の旅行ブームもかかわらず、他方において、中国、朝鮮など東アジアに対する嫌悪が蔓延しており、本当の東アジア理解は深まっていないと思われる。ゼミでは、文献的にアジアを理解するだけでなく、実際の交流やフィールドワークを通じて、地域理解を深めてゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 東アジアを理解する
- ② 東アジアを体験する
- ③ 東アジアの学生とのネットワークを作る
- ④ 東アジアの未来への展望を持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

朝鮮語、中国語、東アジア近現代史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2~4回	東アジア学入門	東アジア、韓国、台湾、沖縄
5回	課題設定	各自のフィールドワークと期末レポートの課題を設定する
6~9	フィールドワーク	課題設定と関わる実際の調査
10	中間報告	フィールドワークの結果報告
11~13	レポート作成構想発表と検討	
14、15	報告書のプレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①ゼミナールにおける発表・討論 ②フィールドワークの調査報告 ③最終プレゼンテーション ④レポート の4点を踏まえて、総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ゼミナールは全出席を前提する。10-11月に、韓国、台湾、沖縄などでのフィールドワークを行う。

8月20日ごろから、4泊5日のスケジュールで、中国東北の延辺朝鮮族自治州で、延辺大学、韓国の学生たちとキャンプを行います。フィールドワーク、講義、討論などの内容で、参加費は10万円ほどです。参加を奨励します。この授業を取る参加希望者は、私のメールに5月末までに連絡をください。詳細を知らせます。

教科書 / Textbooks

教科書は特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
東アジア平和紀行—韓国、台湾、沖縄をめぐる	徐 勝 / かもがわ出版 / /
東アジア冷戦と国家テロリズム—米日中心の地域秩序の廃絶をめざして	徐 勝 / 御茶ノ水書房 / /
東アジア論	丸川哲史 / 人文書院 / / ブックガイドシリーズ
台湾ナショナリズム 東アジア近代のアポリア	丸川哲史 / 講談社選書メチエ / /
東アジア近現代史	上原一慶他 / 有斐閣Sシリーズ / /

『東アジア平和紀行—韓国、台湾、沖縄をめぐる』を教科書に准じて位置付け、必ず読んでください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

suh@law.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】市民メディアが拓く世界

「組織された利害団体の広報活動と消費的公共圏」に占有されてしまったマスメディア公共圏に対し、近年「市民メディア」が欧米にもアジアにも制度化され、多様な芽を出しはじめた。コミュニティラジオやケーブルテレビ、インターネットを活用した市民メディアは、地域住民どうしのつながりを創り出し、地域課題の解決やまちづくりに役立つなどの公共圏機能を果たし始め、過疎地域、障害者や在日外国人のコミュニティ形成にも欠かせないツールとなってきた。

このゼミでは、参加者それぞれが、さまざまな市民参加型メディアをフィールドに、市民メディアの発信内容、経済基盤、担っている人々の意識や課題などの実態を調査・検証することによって、「市民メディア公共圏」が拓く新しい社会のメディア・情報システムの展望と課題をさぐる。

教養ゼミナールHP

http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm

到達目標 / Attainment Objectives

- ・市民参加型メディアでのフィールドワークや調査によって、市民メディアの具体的な実態・課題を知る。
- ・市民メディアの効果や影響を観察・評価し、今後の社会におけるメディア公共圏のありかたを考える。
- ・マスメディア中心のメディア・情報の価値体系を再考する。

メディア関係就職希望者には、進路問題もあわせて再考していきたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要、ねらい、メンバー自己紹介
2	市民メディアとは何か	ゲスト・スピーカー(京都コミュニティ放送町田寿二局長・予定)
3	基礎研究1・関西の市民メディア	ラジオ・カフェ、FMわいわい、目で聴くテレビ、Scrap、奈良どっとFM……
4	基礎研究2・市民メディアのネットワーク	『メディア・ルネサンス』(風媒社)、市民メディア全国交流会
5	基礎研究3・メディア資源と分配	「メディアは誰のものか」(『現代思想』34巻4号)
6~8	市民メディアでのフィールドワーク	
9	班ごとのまとめ	
10~14	各班による研究発表	
15	市民メディアとは何か 現況と課題の整理、報告書作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	ゼミへの積極的参加度(発表やディスカッションへの参加)を総合的に評価します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目はくらしの周辺やさまざまなコミュニティで活用されているメディアでのフィールドワークを中心に実践的に学び、メディアの可能性や課題を学ぶものです。市民社会形成やメディアの改革に興味・関心がある人には有用でしょう。身近なメディアを観察・研究してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 /パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫ほか／世界思想社／／
市民メディア論	松野良一ほか／ナカニシヤ／／
コミュニティメディアの未来	松浦さと子ほか／晃洋書房／／

ネット時代のパブリック・アクセス

津田正夫ほか／世界思想社／／

メディア・ルネサンス

津田正夫ほか／風媒社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

別途連絡

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

tsudam@ss.ritsumeai.ac.jp

tsudam@ccn.aitai.ne.jp

その他 / Others

教養ゼミナール (20)

55079

担当者名 / Instructor 土居 靖範

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】京都の交通と持続可能なまちづくり(ワークショップ方式による)

クルマ社会偏重の現状を変え、ひとと環境にやさしいまちづくりを行うにあたって、京都の交通をどのように変えていったらよいかワークショップ形式で具体的に取り上げたい。ゲストスピーカーの講義もおこなう。

世界の都市交通とまちづくりの現状と解決方向、カーシェアリングの動向、公共レンタサイクルシステムのヨーロッパの動向を等、講義の中で学びつつ、サステイナブル・コミュニティ(いつまでも住みつづけられるまち)づくりの実現に交通をどのようにしていくかを、ワークショップ方式を取り入れて考える。班に分かれてアイデアをブレイン・ストーミングで出し、KJ法を使って整理し、プレゼンテーションしあう。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

問題点を発見する能力と解決する能力を 集団のなかで討議し発表することで切磋琢磨し身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業ガイダンス 自己紹介 衣笠キャンパスまでの通学手段とその問題点の紹介	
2	交通でどこが問題か ウォッチングに出かける	
3	京都の交通の問題点と改善について発表	
4	駐輪問題、市バス問題 等 具体的に取り上げ、討論する	
5	「交通改善策のプレゼンテーション」	
6	「交通改善策のプレゼンテーション」(続き)	
7	ゲストスピーカー 講義「カーシェアリング」	
8	ゲストスピーカー 講義「自治体の交通政策」	
9	ゲストスピーカー 講義「新規バス路線の導入」	
10	ゲストスピーカー 講義「嵐電」	
11	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』	
12	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』(作業続き)	
13	まちづくり会社を作って、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』(作業続き)	
14	事業企画書の発表会	
15	事業企画書の発表会(続き)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出欠席状況、プレゼンテーション および 日常レポートで評価します。おおよその配分は20%、40%、40% です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『交通政策の未来戦略 ―まちづくりと交通権保障とで脱「クルマ社会」の実現を―』 土居 靖範／文理閣／978-4-89259-536-3／

LRTが京都を救う

土居靖範・近藤宏一・榎田基明／つむぎ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

メール・アドレスはdoi@ba.ritsumei.ac.jp です。

その他 / Others

教養ゼミナール (21)

55049

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】〈サービスラーニング〉経験×学び

サービスラーニングは、サービス活動(ボランティア活動/奉仕活動/社会貢献活動)とアカデミックな学びとを有機的に結び付けた教育/学習手法です。

受講生は、教室で知識を習得するだけでなく、教室を出て地域のさまざまな非営利組織や地域住民と協働して社会課題解決に取り組みます。理論を実践し、実践した経験を再び教室に持ちかえる(経験×学び)の循環の中で受講生は、社会課題のリアルな実態を知るだけでなく、その解決のために自分が日ごろ大学で学んでいる学問をどのように活かせるのかを体感的に学ぶことを目指します。

そして異なる学問を専攻する学生が共通の社会課題解決に臨むことで、互いの異なるアプローチを知り、チームとして包括的に問題に接近するだけでなく自身の学問がもつ独自性を再発見できます。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 学問と日常生活および自分自身との関わりを発見し、学ぶ意義や学びの実践方法を理解する
2. 社会の一員としての自覚と能力を身につけ、自分が社会の中でどのような役割を担えるのか/担いたいのかを理解する
3. 多様な他者と協働するためのコミュニケーション能力やチームワーク力を備える
4. 社会の中で活躍する多様な人材と交流することを通して、自身のキャリアパスを明確にする

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明・教員と受講生の自己紹介・グループ分け4人×5班
2	サービス活動事前学習1	活動先決定・地域活動入門レクチャー
3	活動フィールド先訪問	活動スケジュールなどの詳細確認
4	サービス活動事前学習2	目標設定と活動計画 *以降、授業と並行して授業時間外に各班でサービス活動を行う
5	社会課題と国家・企業・市民の役割1	新聞記事を用いたディスカッション/テーマ:世界と日本の貧困
6	社会課題と国家・企業・市民の役割2	新聞記事を用いたディスカッション/テーマ:誰もが参加できる社会
7	社会課題と国家・企業・市民の役割3	新聞記事を用いたディスカッション/テーマ:環境保護と生物多様性
8	中間リフレクション	目標の到達度検証と再設定
9~13	プレゼンテーション&ディスカッション	各班のサービス活動現場からの報告と討論
14	事後リフレクション1	目標の到達度および活動成果の検証
15	事後リフレクション2	学びの深化と今後への発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

普段から新聞を読んだり、テレビのニュースを見たりする習慣をつけて、身近に起こっている出来事や世界の情勢などと自分が大学で学んでいることとの繋がりに気づくことが大切です。そこから生まれる問題意識をぜひ教室に持ち込んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	サービス活動の計画書と報告書:55% プレゼンテーション:30% ディスカッションへの積極的な参加やグループワークにおけるリーダーシップ:15%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

サービスラーニングは、座って話を聞くだけの授業ではありません。実際に自分が体を動かして「学びを実践する」授業です。よってこの授業は、授業時間外にチームで行う活動を楽しめる人に向いています。

活動の内容やフィールド先は、教員があらかじめ用意した選択肢の中から受講生の問題意識に応じて決定します。その他、希望のフィールド先がある受講生は、教員に相談してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

教養ゼミナール (23)

55051

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】英語名人の学習法研究

2008年は日本人が英語を始めてちょうど200年の記念すべき年であった。このゼミでは、この約200年の間に日本人がいかにして英語を学んできたかを学習する。ゼミの前半では、英語教育・学習の歴史の概論を学ぶ。次に、明治から現代までの英語名人(ジョン万次郎や津田梅子ら)のうち、1人を取り上げ、業績や英語学習法を紹介してもらおう。最終的には、自分の英語学習法の見直しにつなげて欲しい。取り上げる英語名人に関しては、前半の歴史概論を学習する過程で決定したい。また、学生の出身地(郷土)の偉人(英語名人)を取り上げても構わない。他にはTOEFLやTOEIC対策をまとめてくれてもいい。

概論のまとめ、英語名人の研究など基本的には学生のプレゼンを中心とした授業である。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、約200年間の英語教育・学習の歴史を学び、その時代背景とともに全体的な流れをつかんで欲しい。次に、明治以来の英語名人を取り上げ、その個人の業績・業績学習歴を報告してもらおう。最後に、自分の英語学習歴を見直し、英語力向上につなげて欲しい。最終的には、主体的に英語が学べる自律した学習者を目指して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	オリエンテーション、英語教育史概論(1)日本人にとっての英文法	講義
2回目	英語教育史概論(2)英語教授法の歴史	講義
3回目	英語教育史概論(3)英語教科書の歴史、NSの採用の歴史、英語教育行政の歴史	講義
4回目	英語教育史概論(4)英語教授法の歴史1	グループ討論
5回目	英語教育史概論(5)英語教授法の歴史2	グループ討論
6回目	学生のプレゼン(1)	質疑応答
7回目	学生のプレゼン(2)	質疑応答
8回目	学生のプレゼン(3)	質疑応答
9回目	学生のプレゼン(4)	質疑応答
10回目	学生のプレゼン(5)	質疑応答
11回目	ゲストスピーカー講演	聴講
12回目	学生のプレゼン(6)	質疑応答
13回目	学生のプレゼン(7)	質疑応答
14回目	学生のプレゼン(8)	質疑応答
15回目	検証テスト、総括	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	約6割を授業内でのプレゼンで評価する。残り4割は検証テストで評価する。詳しくは、受講人数が決まってから授業の中で指示する。

このクラスは教養ゼミなので、授業は基本的には学生の発表を中心とする。履修の人数によって、その後の授業内容(プレゼンの計画など)が変わる可能性が高いので、最初の授業には必ず出席すること。ゼミの性格上、4回以上欠席した場合やプレゼンを行わなかった場合などは、原則単位を認定しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学問に王道なしとはよく言ったものです。だからこそこれだけ文明が発達した現代でも絶対的な外国語習得法は見つかっていません。重要なことは、このゼミを通じてさまざまな学習法を知り、自分の英語学習に生かすことです。多くの学習法から自分にあった学習法を見つけて実践することです。

学生には2回プレゼンを行ってまいります。プレゼンはパワーポを使ってまいります。また、できれば2回目は英語でお願いします。プレゼンに関しては院生が丁寧に指導してくれるのでそんなに心配する必要はありません。要は、やる気です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本の英語教育200年	伊村元道 /大修館 /4-469-2448-4/

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
間違いだらけの英語学習	近江誠 /小学館 /4-09-387567-7/
日本人に一番合った英語習法	斉藤兆史 /祥伝社 /4-396-50073-4/
英語達人列伝	斉藤兆史 /中公新書 /4-12-101533-9/
よりよい外国語学習を求めて	竹内理 /松柏社 /4-7754-0052-5/
英語学習7つの誤解	大津由紀雄 /生活人新書 /978-4-088229-0/
英語達人塾	斉藤兆史 /中公新書 /4-12-101701-3/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)
 学生との直接対話 / Talk with Students
 授業中指示する

その他 / Others

現代の人権 (S)

13168

担当者名 / Instructor 生田 勝義

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀の日本では激しい生存競争が国家により組織される中で「勝者と敗者」の2極化が見られるに至っています。この状況は、新自由主義(ネオ・リベラリズム)に基づく政策のひずみが表れたものといえます。新自由主義の思想的核心は「自己決定・自己責任」論に求められるでしょう。その思想に影響されて、一方では個人の自律が重視され、保護されますが、他方で、非寛容や厳罰意識、排外主義的心情が高まり、それによる新たな人権侵害が生じています。主として新自由主義と関連させて今後の人権のあり方を考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

人間は他者とかかわりながら生活し発達していきます。その中で各人が楽しく幸せになるためには、各人が各人を尊厳のある存在として認め合うことが必要です。各人が人間として尊重しあうこと、これが人権です。もっとも、人権には生命権や自由、幸福追求権など様々なものがあります。また、人権は一度に確立されたのではなく、血のにじむような人類の不断の努力によって徐々に発展してきたものであり、現に今も発展中です。人間らしく生きる羅針盤にできるよう、今日における人権の意味とその発展の歴史を学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日頃から社会問題や政治経済問題に関心を持って、新聞などを読んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序論…本年度授業の目標と概要	人権 イマジネーション力としての人権意識 新自由主義 「自己決定・自己責任」論
第2回	生命権と死刑	生命権とは 死刑の存廃論 死刑の威嚇力 誤判と死刑 被害感情 応報感情 死刑廃止条約
第3回	人間の尊厳と脳死・臓器移植	人間の尊厳と自律性 脳死と心臓死 脳死の判定基準 臓器移植法 ドナーの意思
第4回	生命権、人間の尊厳と安楽死、尊厳死	生命権と死ぬ権利 安楽死 尊厳死 自然死 治療拒絶権 人工生命維持装置の取り外し
第5回	自由・安全と厳罰化	自由という人権の意味 安全という人権の意味 刑事規制拡大・強化の現状
第6回	厳罰意識と「自己決定・自己責任」論	厳罰意識 「自己決定・自己責任」論 両者の論理的関係
第7回	刑法に犯罪抑止力はあるか	一般予防 特別予防 厳罰化した道路交通法の効果 監視カメラの犯罪抑止力
第8回	自由と安全の両立は可能か	近代人権宣言の構造 それによる刑法のあり方 核心刑法 広範だが穏やかな介入法 2つの介入方法(義務賦課・抑止型介入と人権・民主主義型介入)
第9回	事例研究…ビデなどを利用して	広島での暴走族対策 鹿児島市での校区公民館活動など コミュニティ・ベースド・プリベンション
第10回	表現の自由と知る権利	表現の自由 知る権利 集合住宅へのビラ配布 住居侵入罪
第11回	公務員の政治活動の自由と法治国家	公務員の政治活動の一律禁止 公務員の政治的中立性 公務の公正・公平 法治行政 行政手続法
第12回	人権における近代と現代	自由 平等 自由権 社会権 生存権 労働権 プライバシー 自己情報コントロール権 環境権
第13回	平和的生存権と人間の安全保障	平和的生存権 人間の安全保障 人身取引 現代奴隷制
第14回	自由と友愛、連帯	友愛 連帯 それらと自由との関係
第15回	現代を人間らしく生きるために	あるがままの具体的な人間の尊厳 すべての人間に共通するという一般性、普遍性 暴力 対話協調

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の指定箇所および授業中に配布するレジュメ・資料には必ず目を通すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	教科書および配布したレジュメ・資料を含め授業内容を理解できたかどうかを試します。
平常点評価	10 %	教科書および配布したレジュメ・資料を含め授業内容を理解できたかどうかを試します。定期試験の成績に加味します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業にまじめに出席し、ノートをとることができれば、授業内容を十分理解できるはずです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全と刑法	生田勝義 / 法律文化社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺ほか編 / 岩波書店 / /
新版法律用語を学ぶ人のために	中川淳・大野真義編 / 世界思想社 / /
やさしく学ぶ法学[第3版]	中川淳編 / 法律文化社 / /

参考文献は、上記のほか必要に応じ授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

e-mailによる連絡は、kit00039@law.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

日本の近現代と立命館 (GA) § 特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA)

13796

担当者名 / Instructor 岡本 直輝、小関 素明、川口 清史、倉田 玲、坂本 和一、松野 周治、柳ヶ瀬 孝三、吉田 美喜夫 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『立命館百年史』の編纂、立命館学園の運営に深くかかわってきた複数の担当者によるリレー式の講義である。学園の創設からほぼ今日までの立命館学園の歩みと直面する課題が歴史的・問題視的に語られる。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学の歩みを通して、日本近代史、日本の高等教育が抱える問題点についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序論 講義の全体的概観と前史	自校史教育 西園寺公望 京都法政学校 中川小十郎
第2回	立命館の黎明と発展—明治後期～大正期	産業革命 実学教育 立身出世 大学令
第3回	立命館の黎明と発展—大学の拡充と自立化の模索—	大学自治 禁衛隊 沢柳事件 滝川事件 学問の自由
第4回	京大事件と立命館	学問の自由 大学の自治 澤柳事件 滝川事件
第5回	ファシズムの時代の立命館	立命館禁衛隊 国防学 国家総動員法 戦時体制
第6回	敗戦後の混乱と学園の再建	戦後改革 末川博
第7回	「立命館民主主義」の創成	学園復興 逆コース 平和運動 安保闘争
第8回	高度経済成長と大学の大衆化(1960年代)—マス・プロ教育に抗する「小集団教育」—	高度経済成長 大学改革
第9回	「大学紛争」と立命館教学(60年代末～70年代)—「大学解体」を否定してさらなる「大学改革」へ	学園紛争 学生運動 全共闘
第10回	転換期の高等教育政策—「学園創造」時代の始まり—	公費助成運動 学園規模問題 総合大学化
第11回	学びのシステムの新展開—洞察力と創造力—	個性と創造性 大学審議会
第12回	立命館大学における課外スポーツ活動の歩み—	体育会 立命館スポーツ
第13回	BKCはいかにしてつくられたか	第3～第5次長期計画 文理融合・産官学連携キャンパス
第14回	立命館創立100周年と立命館アジア太平洋大学(APU)	多文化・多国籍キャンパス
第15回	総長講演	高等教育 私立大学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	定期試験が評価の中心となるが、必ず全講義に出席していないと解答できない論述式の問題を出す。
平常点評価	20 %	アンケート感想文の提出を求め、出席を確認することがあり得る。

歴史に対して興味がないと授業内容について行くことは困難である。
さらに、授業内容の要点をはずさずに理解し、それを的確に文章表現する文章能力が求められる。安易な気持ちで選択しないように。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館百年史 通史1・2	立命館百年史編纂委員会 / / /
西園寺公望	岩井忠熊 / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の概要 / Course Outline

この科目は受講生に対する知識の注入をおよそ目的としていない。教育とは知識の注入ではない。教育とは自らの生き方・世界観を絶えず吟味し変革していくプロセスであり、教師はその産婆である。この講義は学生諸君が自ら化学反応を起こすための触媒である。この講義が学生諸君の世界認識・自己変革の手助けとなることを切に願っている。また、学問とは常識批判である。学生諸君の「先入観を裏切る」講義をめざしている。

この科目は立命館大学産業社会学部・文学部・映像学部の1回生以上を対象とする平和学講義である。平和に関する思想は古くからあり、また哲学、政治学、法学などの諸学問が平和について考察することも古くからあるが、他の学問から区別される固有の学問として平和学が始まったのは1950年代の冷戦期である。平和学とは「戦争の原因と平和の条件を探究する学問」であるといわれる。平和学は米ソ核戦争による世界の破滅を防ぐための知的営為として始まった。1950年代に他の学問から区別される固有の学問として始まったとはいえ、平和学はさまざまな学問的方法を使う学際性を特徴としている。

平和学の対象は膨大であり、2単位15回の授業でカバーできる範囲には限度がある。この科目はどうしても選択的にならざるをえない。今年度のこの科目は、下記の授業スケジュールに示されたテーマに焦点を当てる。最後の授業で「さらなる学びのために」方向性を示唆することで受講生のさらなる学びを期待したいと思う。

平和学は知識を獲得して終わる学問ではない。平和学とは、自分自身の生き方を変革し、世界を平和的に変革するプロジェクトである。この科目の履修を終えた学生諸君が、このプロジェクトに参加することを切望している。平和学が発展するばかりで、世界が平和にならないのでは意味がない。世界の暴力を少しずつ克服するために、この科目が何らかの役に立つならば、担当者としてうれしく思う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 第2次世界大戦、アジア太平洋戦争(15年戦争)が提起する諸問題——総力戦体制、学徒出陣、ヒロシマ・ナガサキ、シベリア抑留等々——について理解している。
- ・ 戦争と芸術と平和の関係について理解している。
- ・ 平和学の特徴について理解している。
- ・ 平和で公正な世界秩序をめざす理論と実践について理解している。
- ・ 平和構築と安全保障におけるミリタリーとシビリアンについて理解している。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに、科目の紹介。 戦没学生記念像<わだつみのこえ>から考える。戦争と大学	戦没学生記念像<わだつみのこえ>、本郷新、『きけわだつみのこえ』、立命館日清高等工学校、国防学講座・国防学研究所、石原莞爾、西園寺公望、マンハッタン・プロジェクト、軍産学複合体
第2回	学生の戦争動員——総力戦体制	国家総動員法、出陣学徒壮行会(1943年10月21日)、文部省映画「学徒出陣」、映画「きけわだつみの声」(1950年、1995年)、総力戦体制
第3回	ヒロシマ・ナガサキをもたらしたものの、ヒロシマ・ナガサキがもたらしたもの(1)	マンハッタン・プロジェクト、エンリコ・フェルミ、オッペンハイマー、戦略爆撃、無差別爆撃、ゲルニカ、重慶、東京大空襲、大阪大空襲、B29エノラ・ゲイ号、スミソニアン航空宇宙博物館、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館
第4回	ヒロシマ・ナガサキをもたらしたものの、ヒロシマ・ナガサキがもたらしたもの(2)	核物理学者(アインシュタイン、オッペンハイマー、湯川秀樹)の思想、世界政府論、世界連邦運動、核兵器開発競争、核不拡散条約(NPT)、日本政府による核武装の模索と断念、核抑止論、映画「Fail-Safe」、「原子力の平和利用」、芸術家にとってヒロシマ・ナガサキとは何であったか、こうの史代の漫画および映画「夕風の街桜の国」、ヒロシマ・ナガサキをどう思想化するか、核兵器廃絶をめざす動き
第5回	シベリア抑留とは何だったのか	シベリア抑留という悲劇が起きる前提・前段階、舞鶴引揚記念館、高杉一郎の本、石原吉郎の詩、香月泰男の絵画(山口県立美術館および香月泰男美術館)、冷戦文脈におけるシベリア抑留(「民主運動」と「シベリア帰り」差別)、戦後強制抑留者に係る問題に関する特別措置法(シベリア特措法、2010年6月成立)、ソルジェニーツィン『収容所群島』、20世紀を特徴づけるものとしての強制収容所、ジョルジョ・アガンベン『ホモ・サケル——主権権力と剥き出しの生』
第6回	平和博物館について	博物館学、博物館としての平和博物館、モノの収集・保存、否認との戦い、記憶・追悼・鎮魂、平和博物館と軍事博物館、「良心の博物館」

第7回	戦争と芸術と平和	第2次世界大戦と芸術家、文学報国会、音楽挺身隊、戦争画、クルト・ヨース「グリーン・テーブル」、パブロ・カザルス、フィリップ・グラス「サチャグラハ」、芸術のパトロン(芸術のパトロンとしての軍需産業)
第8回	戦争と平和の考古学・心理学	佐原真、国立歴史民俗博物館『人類にとって戦いとは』、フロイト・アインシュタイン往復書簡、暴力についてのセビリア声明、killology、デーヴ・グロスマン
第9回	平和学の誕生と紛争研究	International Peace Research Association (IPRA, 1964年設立)、スガタ・ダスグプタ(インド)、ヨハン・ガルトウング(1930年、ノルウェー生まれ)、日本平和学会(1973年設立)、Asia-Pacific Peace Research Association (APPPA, 1980年設立)、暴力と平和、直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力、紛争解決・紛争転換
第10回	平和で公正な世界秩序(1)	カント『永遠平和のために』(1795年)、Post-Hiroshima-Nagasaki Moment、世界憲法シカゴ草案(1948年)、クラーク&ソーン『世界法による世界平和』(1958, 1960, 1966)、世界秩序モデル・プロジェクト、グローバルな立憲主義
第11回	平和で公正な世界秩序(2)	パックス・アメリカーナとしての戦後世界秩序、パックス・アメリカーナをどうするか、グローバルな米軍基地網をどうするか、基地政治学(base politics)の隆盛、市民社会・NGOの役割
第12回	平和構築と安全保障におけるミリタリーとシビリアン(1)	戦後日本の非暴力の文化(軍隊の脱正統化)、シビリアンがミリタリーに取って代わる努力、NGOによる非暴力的介入、Peace Brigades International(国際平和旅団)、Nonviolent Peaceforce(非暴力平和隊)、ジーン・シャープ、非暴力防衛(市民的防衛)
第13回	平和構築と安全保障におけるミリタリーとシビリアン(2)	良心的兵役拒否、軍隊の変容・変革、「軍を非軍事化する」、軍を市民社会がコントロールする(シビリアン・コントロール)、軍と市民社会との対話
第14回	ノーベル平和賞について	アルフレッド・ノーベルの遺言、ノーベル平和賞100年のパフォーマンスをどう評価するか、ノーベル平和賞とノルウェー政府、ノーベル平和賞のノミネート、君島によるノーベル平和賞のノミネート(2011年は秋葉広島市長と田上長崎市長)
第15回	さらなる学びのために——世界の平和学の現状	日本と世界の大学・大学院の平和学プログラム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験期間中に、15回の授業全体の理解の到達度をはかる試験を行なう。数問の問題の中から1問を選択して解答する論述式の試験である。
平常点評価	50 %	少なくとも数回に1回、授業中にグループ・ディスカッションを行なう。このグループ・ディスカッションにおける貢献度を評価して、平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学を学ぶ人のために	君島東彦編 / 世界思想社 / /

参考書 / Reference Books

4月11日の第1回目の授業のときに、文献リストを含んだ詳細なシラバスを配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

立命館で平和を学ぶ (GB)

15984

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、いわゆる平和学入門である。平和学は、学際的な学問であるため、この講義では、その時々々のトピックを中心に取りあげることになる。そのため、平和学の全貌をお伝えすることは可能ではないが、平和学の一端を紹介することを通じて、自らの考える「平和」とは何かを考える手がかりを提供したい。

「平和と民主主義」を教学理念とする立命館において、「平和」とは何かを考え、自らが主体的に「平和」の担い手(つくり手)になることは、立命館大学で学ぶことの意義を考えることでもある。このことの意味を考えながら、他者や他文化理解を深めると同時に、自分の考え方を一方的に押しつけるのではなく、お互いの考え方を聞き、ともに支え合って生きることの重要性を、一緒に考えてみよう。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 立命館大学において、「平和」という概念を軸に大学で学ぶとはどういうことか、各自のイメージを豊かなものにすることができる。
- 2) 平和学の学問的発展プロセスをフォローすることによって、今日のグローバル社会の構造を理解し、社会的な矛盾を解決するための手がかりをつかむことができる。
- 3) マスコミの伝える情報にのみこまれるのではなく、主体的に情報を取捨選択し、自らが「平和」をつくり出す担い手になることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会・文学部の学生:「戦争の歴史と現在」(3回生以上)、「国際援助論」(産業社会学部の専門科目、2回生以上)、「国際協力論特論」(国際インスティテュート科目)などを履修すると、平和学の系統的理解が深まる。

映像学部:国際社会を見通す科目や政治系の科目を履修しておくこと。また、他学部受講を視野に入れて、系統的に平和学を学ぶことが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	平和学とは何か	平和学の学際的性、立命館国際平和ミュージアム
2	直接的暴力(1):太平洋戦争に至る道	権力と暴力、歴史問題
3	直接的暴力(2):核のない世界へ	NPTレジーム、第2トラック外交、平和市長会議
4	直接的暴力(3):小型武器	小型武器、子ども兵、クラスター爆弾、対人地雷禁止条約
5	直接的暴力(4):戦争・紛争の伝え方	世界報道写真展、(フォト)ジャーナリズム、
6	構造的暴力(1):南北問題	南北問題
7	構造的暴力(2):累積債務問題と構造調整政策	構造調整政策、累積債務問題、IMF、GATT、WTO
8	構造的暴力(3):グローバル化のひずみ	グローバル化、新自由主義
9	構造的暴力(4):地球環境問題	気候変動枠組み条約、京都議定書
10	構造的暴力(5):戦時における性暴力	性暴力、国際人権法
11	文化的暴力(1):エスニック紛争	エスニシティと民族、エスニック紛争
12	文化的暴力(2):日本軍慰安婦問題	日本軍慰安婦、歴史問題、教科書問題、
13	平和をつくる(1):国際協力	国際レジーム、ODA、国連、
14	平和をつくる(2):第2トラック外交	第2トラック外交、世界社会フォーラム、NGO
15	平和をつくる(3):自分たちにできることは?	立命館大学で学ぶということ
16	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で指示されたテキストの該当箇所を事前・事後に読んでくること

平常点レポートとして課すレポートに取り組むこと

新聞・ニュース・インターネットで流されてくる情報を注意深く見る習慣を身につけること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	<p>論述2問</p> <p>1問は、講義で説明する平和学に関する基本的な考え方を理解しているか、もう1問は、講義を踏まえて、「平和創造」にむけて自分には何ができるのかを述べる問題。</p> <p>多様な考え方がある中で、論理的に説明することができるかどうかを評価する。自分の言葉で表現すること。</p> <p>今年から持ち込みは不可とする。</p>

平常点評価	20 %	コースツールでレポートを3回課す。そのうち、2回以上を提出すること。(1問10点で採点する。) 3回提出した場合は、定期試験とあわせて110点満点として採点し、100点を超した場合は100点として評価する。 レポートはいずれも2000字以上とし、コースツールで提出すること。参考文献を明記すること。
-------	------	---

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容は、概ね以上のような内容を考えているが、その時々政治・社会状況に応じて、講義内容を入れ替えることがあるので注意すること。テキストを必ず持参すること。また、板書を中心とした講義とするので、できるだけ前の方に着席し、この講義用のノート(ルーズリーフでかまわない)を用意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域から平和をきく	池尾靖志・伊波洋一・井原勝介 / 晃洋書房 / /
「アメとムチ」の構図: 普天間移設の内幕	渡辺豪 / 沖縄タイムス社 / 978-4-87127-189-9 /
砂上の同盟: 米軍再編が明かすウソ	屋良朝博 / 沖縄タイムス社 / 978-4-87127-193-6 /

講義のなかで、講義内容に関係する本を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページを時折のぞくこと。(http://www.yikeo.com)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

コースツールの掲示板を活用すること。

担当者のホームページに記載してあるメールアドレスで直接メールをしてくれてもかまわない。

講義前後に担当者をつかまえること。

その他 / Others

スポーツ方法実習I(A) (A1)

10652

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A2)

11356

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A3)

12098

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A4)

12249

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A5)

12576

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A6)

12625

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B1)

10140

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B2)

10296

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B3)

12626

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B4)

16749

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C1)

10821

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C2)

10825

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C3)

11954

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C4)

12280

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C5)

12730

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C6)

16748

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習Ⅰ(D) (D1)

10141

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅰ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅰ」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D2)

10142

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習Ⅰ(D) (D3)

10295

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅰ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅰ」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D4)

10815

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D5)

11341

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習 I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A1)

10730

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A2)

10909

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(A) (A3)

11434

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A4)

12317

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A5)

12593

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A6)

12666

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(A) (A7)

12667

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅲ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅲ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(B) (B1)

10219

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(B) (B2)

12668

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(B) (B3)

12776

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C1)

10724

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (G2)

10923

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C3)

11050

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C4)

12021

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C5)

12316

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C6)

12778

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅲ(C) (C7)

16751

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(D) (D1)

10220

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(D) (D2)

10390

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習Ⅱ(D) (D3)

10917

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習Ⅱ」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習Ⅱ」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習II(D) (D4)

16750

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習II」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

その他 / Others

スポーツ方法論I(1)

10651

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (2)

10653

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (3)

10822

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (4)

11519

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (5)

12099

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (6)

12111

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (7)

12624

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (8)

12729

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (9)

16747

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論 I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を「スポーツ方法論 II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ 用いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (1)

10223

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (2)

10388

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (3)

10731

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (4)

10925

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (5)

11425

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (6)

11610

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (7)

12176

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (8)

12185

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (9)

16752

担当者名 / Instructor 細野 裕希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論 II」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論 II」は「スポーツ方法論 I」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画一実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11~15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

数学入門 (S)

13278

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

数学は理性の音楽であり、知者の武器であり、人類の文化そのものと言える。本授業は、数学を必ずしも得意としない受講者を対象に、そのリメディアル教育の一環として、数学的な内容・方法を講ずるものである。時間数の制約上、内容知すなわち知識・技能よりも、方法知すなわち数学を探究し構成する手法に焦点を当てた上で、数学上の幾つかの重要なトピックを楽しみながら振り返る。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 数学を人類の社会文化的な所産と捉え、その学習に深い関心・意欲をもつことができる。
- 2 数学的なリテラシーの基礎を身につけ、必要に応じて高等学校以前に学んだ数学的内容を再構成できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から、物事を数学的に考える習慣をつけていきましょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	人はなぜ数学を学ぶか？	数学の文化史, 民主主義, 黄金比, 懸賞金問題
第02回	数学的な方略	ストラテジーとタクティクス, 発見法, 単純化, 特殊化, カブレカル操作
第03回	数学的な推論①蓋然・必然と命題操作	帰納・演繹・類比, 仮説推論(abduction), 合接・離接, 含意, 逆・裏・対偶
第04回	数学的な推論②誤った推論と論駁	反例・反証, 過般化, ラカトシュモデル
第05回	“必勝法”の数理	ゲーム理論, スプラウト, Win-Win, 勝率と期待値
第06回	統計的リテラシー①説得する	分散, 分布, 偏差, 統計的仮説, 検定・推定
第07回	統計的リテラシー②虚偽を見抜く	比較の論理, 平均の嘘, グラフ選定と錯視
第08回	数学の実験とは？①数学に触れる	模型・実験, 正多面体, δ 多面体, オイラー標数
第09回	数学の実験とは？②別次元をみる	拡張・一般化, 平面の分割, 立体の分割, フラクタル
第10回	折り紙の数理①平面	オリガミクス, 平行・対称・回転移動, 正多角形の構成, 二次曲線
第11回	折り紙の数理②空間	オリガミクス, 正多面体の構成, 非ユークリッド操作
第12回	数学と文化①芸術に潜む数理	ピタゴラス音階, 黄金比, フィボナッチ数列
第13回	数学と文化②和算の世界	九章算術, 塵劫記, 算木, 算額, 油分け算, 薬師算
第14回	数学と文化③異文化の計算法	計算法の文脈依存, 比と関数の思想
第15回	市民の数学: Numeracy とは？	数理思想, バーコードの数学, 多様な税計算

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本授業では、小学校から高等学校までに習ってきた数学的知識を学び直す事例が多くあります。授業でも基礎から分かりやすく解説しますが、教科書等を用いて必要に応じて自主的に復習することを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終講義の際に数学の簡潔な作問レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席を重視する。また平常点(学習・発表態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、日常感覚と切り離された数学的教養を身につけるのではなく、各トピックを通じて適切な数学的着想と手法を学び直していきます。数学に王道無し。楽な近道はありませんが、知る喜びを軸に主体的に学ぶことで必ず数学的なリテラシーが身につきます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いかにして問題をとくか	G. ポリア / 丸善 / 4-621-04593-8 / 未知の問題にアプローチする上での古典的名著
世界は数理でできている	L. A. スティーン / 丸善 / 4-621-04742-6 / 次元, 量, 不確実性, 形, 変化という着想から数学を省みる

その他、参考となる資料は随時紹介し、必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

数学のリメディアル学習につながるsiteを授業時に随時紹介していきます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

授業において不明な点、疑問に感じた点を大切に、まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

理科入門I (S)

13279

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の科学という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。将来小学校の教員を目指す学生の受講を望む。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校、中学校理科の内容、方法が理解できる。
- ② 日ごろ感じている疑問を、身近な素材で確かめられる。
- ③ 科学リテラシーの観点から、理科の内容が再構成できる。
- ④ 科学の方法を駆使して、テーマに即した討論に参加、発表ができる。
- ⑤「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、今後展開される教職科目「初等理科教育法」、「初等理科」の基礎科目という位置づけも担っています。「教職に関する科目」、また「教科に関する科目」については計画的に履修するよう心がけてください。また、子ども社会専攻以外の学生でも、学校理科に興味関心のある者の受講を認めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	理科とは何かー身近な素材を使って自然に親しむー	小学校理科(第1回)、中学校理科(第2回)、高等学校理科(第3回)で学んできたものは何かを知ろう
第4回～6回	理科の内容と方法(その1)ー小学校の理科の素材からー	小学校理科をテーマにして(振り子(第4回)や電気・磁石(第5、6回)等を題材にして)科学の方法について学ぶ
第7回～9回	理科の内容と方法(その2)ー中学校の理科の素材からー	中学校理科をテーマにして(地球の自転・公転(第7、8回)や溶ける不思議(第9回)を題材にして)学ぶ
第10回～12回	理科の内容と方法(その3)ー地球の環境(科学のリテラシー)を題材にして【ゲストスピーカーの授業】ー	地球環境をテーマに、科学的なものの見方・考え方と「理科の教材」の役割について学ぶ
第13回	科学リテラシーとしての理科(その1)ー生きる力と理科ー【レポート課題の提示】	テーマごとの演習、討論(ゲストスピーカーの話から小学校・中学校の理科の実態を知る)
第14回	科学リテラシーとしての理科(その2)ー理科の知識と方法ー【レポート課題についての質疑】	テーマごとの演習、討論(与えられた課題から理科の実験をデザインする)
第15回	課題レポートの発表(各班10分)とその講評(30分)	理科としてのまとめ方、レポート作成の仕方、発表の仕方について学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

「各家庭の電気の配線は並列ですか、直列ですか」など、毎授業後、理科の内容に関連した面白クイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行いますが、それを導入として授業を進めて行きます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(40%)授業内レポート 授業で扱ったいくつかのテーマを元にして各自が興味関心を引いたテーマについて、理科(科学)の方法の運用、また知識の定着を見ます。実験で得られた結果からどのようなことが引き出せるか、そのまとめ方についても評価します。 (60%) ①講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。討論会での発表、調べ学習、また態度等を評価します。特に、第13～15回での発表会での積極性を評価します。 ②各自のテーマに従って作問し、作問の狙いとともに模範解答を作成する。問題作成、またその作問の意図の作成を通して、問題意識の高さと知識の定着を図る。

特に、第14、15回で行う模擬実験での取り組み(発表、またそれまでの活動)については、平常点として高く評価します。あわせて、試験を実施し、問題作成、またその作問の意図の作成を通して、問題意識の高さと知識の定着を評価します。また、出席を重視します(3分の1以上の欠席は評価の対象から除外します)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。(毎回プリント等で資料は提供します。)

- 理科が嫌いな学生ほど受講する価値があります。なぜ嫌いなのかを明確にしておくことが受講の際の大切な条件です。
- 日ごろ感じている疑問を身近な素材で追求していきます。

教科書 / Textbooks

資料はその都度配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q&Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	／丸善／4-621-07237-4 / 知識の宝庫(クイズ形式で楽しく学べます)
理数オンチも科学にめざめる 高校物理検定外 教科書	山下芳樹／宝島社／4-7966-6026-6 / 理数オンチの人には最適
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹／森北出版／4-627-16121-2 / 教科書、資料集として活用

種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- インタラクティブシート / Interactive Sheet
 - 学生との直接対話 / Talk with Students
 - その他 / Other
- 講義時にメールアドレスを伝えます。

その他 / Others

理科入門 I では私だけの理科の参考書をつくってもらいます。そのための資料(作り方など)は授業時に連絡します。また、授業は理科実験室も使います。実験室は人数によっては使えないこともあります。
受講生に関して、特に将来小学校教員を目指す学生の受講を望みます。本科目が、初等理科教育法の前段階的な意味を持っていますので、それに適した形で授業を進めていきます。受講の際には、この点について十分に注意してください。

理科入門Ⅱ (S)

15973

担当者名 / Instructor 武田 富美子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校・中学校の理科で扱う課題を中心に、市民として基礎になる知識と科学概念の修得をめざす。単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、身近な生活や社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。また、身近な生活から理科に関するテーマを選び、そのテーマについて調べ、実験や実習をまじえて、科学概念を分かりやすく説明できるようにする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校・中学校の理科の基礎的な科学概念(エネルギーの保存、粒子概念、物質の階層性、生命)を知り、理解する。
- ② 科学的概念を使って、現象や反応を説明できる。
- ③ 身近な生活や社会の中からテーマを選び、選んだテーマについて調べ、小学校・中学校の理科の基礎的な科学概念を使って分かりやすく説明する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅰを学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会と理科教育	学校理科、環境、生活、調査、分類、分析
2	自然科学の世界 診断テスト	エネルギー、粒子、生命、地球
3	水の科学1 水	水の種類、酸性、塩基性
4	水の科学2 水分子	分子構造、水素結合、固体・液体・気体
5	水の科学3 水とエネルギー	エネルギーの種類、水の力
6	水の科学4 到達テスト1	発電
7	水の科学5 水と生物	生命、細胞、光合成、化学反応
8	水の科学6 水と地球	雲、雨、水の循環
9	水の科学7 水と環境	水の汚染
10	水の科学8 まとめ 到達テスト2	
11	課題研究1	
12	課題研究2	
13	課題研究のプレゼンテーション予行	
14	課題研究3	
15	課題研究のプレゼンテーション レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常から身近な自然・生活の中の不思議を発見しようと心がけてください。講義を聴くだけの授業ではありません。もの、体、ことば、あらゆる形で授業への参加を求めます。課題研究については、自主的に時間外に取り組むことが多いでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題研究の発表(20%)、課題のレポート(30%)、到達テスト(50%)で評価します。
授業予定についての変更は、コースツールでお知らせします。授業を休んだときはコースツールを必ず見ること。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日ごろから生活の中で、自然科学に関する現象を意識してみつけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大人もハマる週末面白実験	左巻健男・滝川洋二・こうのにしき / 講談社 / 4062574888 / ブルー・ボックス
ロウソクの科学	ファラデー / 岩波書店 / 4003390917 / 岩波文庫
青いクラゲを追いかけて	盛口満 / 講談社 / 4062123976 /
自然科学に関する面白そうな本を探して読んでみましょう	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

E-mail: takeda-f@fc.ritsumeai.ac.jp

メールで問い合わせる場合は、件名に「理科入門+氏名」を必ず入れて下さい。

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GB) § 特殊講義(映像学)(GB)

16655

担当者名 / Instructor 中村 彰憲

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『情報産業論(Informaion and Communications & Industry)』です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

急激に進化する情報機器や伝送技術により、情報産業の市場が大きく拡大するとともに、情報産業相互間の融合や他の産業分野における情報技術の活用が進んでいる。このような現状を定量的に把握するとともに、技術のトレンドやニーズの変化を分析することによって、情報産業の将来を見通すための議論を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報産業の全体像を理解する。
更に、それぞれの分野別の産業構造や今後の融合の可能性についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報社会論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	コンピュータ産業1	コンピュータ発展の歴史
第3回	コンピュータ産業2	ユビキタスコンピューティングへの発展
第4回	通信産業1	電話サービスの発展と限界
第5回	通信産業2	携帯電話サービスの歴史と将来
第6回	通信産業3	ブロードバンドサービスの歴史と将来
第7回	放送産業1	民間放送の歴史と課題
第8回	放送産業2	公共放送の歴史と課題
第9回	コンテンツ産業1	アナログ分野
第10回	コンテンツ産業2	デジタル分野
第11回	インターネットビジネス1	インターネットビジネスの特徴
第12回	インターネットビジネス2	製造業の変化
第13回	インターネットビジネス3	サービス業の変化
第14回	インターネットビジネス4	コミュニティの変化
第15回	講義全体の整理とアップデート。	まとめ、質疑、レポート提出等。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ、新聞、雑誌等で情報産業の動向を常に把握すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	課題の理解、分析力、論理性により評価する。
平常点評価	40 %	各講義でのミニレポート(30%) 出席票(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めない。
参考書籍、論文、記事等を授業時に提示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア産業論	宿南 達志郎 他 / 有斐閣 / 9784641173117 /
クラウド・コンピューティング ウェブ2.0の先に行くもの	西田 宗千佳 / 朝日新聞社出版 / 9784022732545 /
iPhoneの本質 Androidの真価	日経コミュニケーション編集 / 日経BP社 / 9784822210816 /
誰も教えてくれない地デジTVの裏側	保岡 裕之 / 実業之日本社 / /
情報通信白書 平成22年版 (2010)	総務省 (編さん) / ぎょうせい / /
情報通信データブック2011	情報通信総合研究所 (編集) / NTT出版 / /
コンテンツ学	長谷川 文雄 (編集), 福富 忠和 (編集) / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

shuku@im.ritsumeai.ac.jp メールを下さい。

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)II(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)2(映像学)(GC) § 特殊講義(映像学)(GC)

14332

担当者名 / Instructor 斎藤 進也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『情報社会論(Information Technolgy & Society)』です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

現代は情報化社会と呼ばれているが、そのような社会の中で生活、経済、経営、政治、法律、犯罪などが大きく変化してきている。そのような変化について認識を深めるとともに、変化が起きる原因やマイナス面を最小化しプラス面を最大化する可能性を探る。情報化社会の進展に大きな影響を与えている政府の政策についても詳細に分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化社会の光と陰について理解し、リスクを回避しながら利便性を最大限享受するための課題等について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報産業論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と講義の進め方	講義内容のポイント、および到達目標の提示など
第2回	情報化社会の現在	ICT、Web2.0、光の道
第3回	情報化社会と生活	情報技術の利用動向、震災復興とICT
第4回	情報化社会とコンテンツ	電子出版/書籍、電子コミック、音楽配信、動画共有
第5回	情報化社会と経済・経営	ムーアの法則、ロングテールの法則、電子マネー、ICタグ
第6回	情報化といじめ	学校裏サイト、メール攻撃、ホットライン
第7回	情報化と犯罪	闇サイト、違法取引、ネットギャンブル、出会い系
第8回	情報化とインターネットサービス	ソーシャルメディア、クラウド・コンピューティング
第9回	情報化と政治・選挙	動画投稿、ウィキリークス
第10回	情報化と教育	電子図書館、eラーニング、ゲーム機利用、遠隔授業
第11回	情報セキュリティと個人情報保護	P2P、情報漏洩、ウィルス、迷惑メール、個人情報保護法
第12回	情報化とモバイル・コンピューティング	ケータイ、スマートフォン、SIMロック、V-Highマルチメディア
第13回	ネットトラブルとその対処法	インターネット関連法律、不正アクセス、SPAMメール、ネットストーカー
第14回	情報化社会のこれから	3D、メタバース、AR、位置情報
第15回	講義全体の整理とアップデート	講義のまとめとレポート提出等

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ、雑誌、新聞等で話題となっている 이슈 をフォローすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	知識、分析力、論理性などにより評価する。
平常点評価	40 %	各講義ごとのミニ・レポート(30%) 出席率(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に定めない。
授業中に、最新の書籍、論文、資料、記事等を紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ウィキノミクス マスコラボレーションによる開発・生産の世紀へ』	ドン・タプスコット/アンソニー・D・ウィリアムズ (著), 井口耕二 (翻訳) / 日経BP社 / 978-4822245870 /
『つながり 社会的ネットワークの驚くべき力』	ニコラス・A・クリスタキス (著), ジェイムズ・H・ファウラー (著), 鬼澤忍 (翻訳) / 講談社 / 978-4062147705 /
『ネットいじめ』	荻上チキ (著) / PHP研究所 / 978-4569701141 /
『図解電子マネー業界ハンドブック Ver.1』	岩田昭男 (著) / 東洋経済新報社 / 978-4492092712 /
『体系的に学ぶインターネットセキュリティ』	西井美鷹 (著), 神崎洋治 (著) / 日経BPソフトプレス / 978-4891005641 /
『3Dの時代』	深野暁雄 (著), 渡辺昌宏 (著) / 岩波書店 / 978-4000010788 /
『ARのすべて-ケータイとネットを変える拡張現実』	日経コミュニケーション編集部 (著, 編集) / 日経BP社 / 978-4822210830 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GD) § 特殊講義(映像学)(GD) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GD)

20300

担当者名 / Instructor 新 清士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

インターネットの発達と開発ツールの一般化によって「イノベーションの民主化」ともいべき状況が発生している。これまで企業だけがイノベーションの主体となり、製品とすることができ、ユーザーはその商品を選択し消費するという行為を通じる以外の方法で、開発に関わることができなかった。しかし、企業のイノベーション活動に、ユーザーも実際に様々な形で関わることができるようになりつつある。アルビン・トフラーのいう「生産消費活動」の領域がますます拡大しているのだ。ユーザーは、消費者であると同時に生産者にもなりうる。

ゲームの分野は、このイノベーションの民主化が、顕著に進んでいる分野の一つである。PCゲームを中心に、発売された製品のための開発環境と同等の環境をユーザーに積極的に公開し、自由にデータを改変する「Mod(モッド)」と呼ばれる活動を通じて、実際にイノベーションが発生している。

この講座では、そのユーザーが引き起こしたイノベーションの代表例ともいえるシューティングゲームの「カウンターストライクソース」のMod環境を利用して、実際にゲーム内のマップを開発する活動(レベルデザイン)を通じて、現代のゲーム開発環境の仕組みの理解と、ユーザーが関わることができる生産消費活動を実際に体験する。そして、どのようなレベルデザインが優れたインタラクティブ体験を生み出すのかを開発プロセスを通じて、実践的に理解する。

なお、講義で使用する「カウンターストライクソース」の環境は、学校側で用意する。

到達目標 / Attainment Objectives

「カウンターストライクソース」のMod活動を通じて、実際にユーザーでも十分にプロに通用するようなゲームが開発できることを実感できるようにすること。また、Modツールの利用を通じて、使用方法を習得し、特に現在のゲームデザイン分野の実践的ノウハウを体感的に習得する。

集中講義期間中に、マップを一つ以上完成させることを目標とする。可能であれば、インターネット上のユーザーの評価サイトにまで投稿するまでを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、前提条件として、ゲームそのもののプレイ経験を持っていることが望ましい。また、「カウンターストライクソース」を事前に購入してプレイしておくことが望ましいが必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション～全体の講義概要の理解	
第2回	「カウンターストライクソース」の基礎	
第3回	「カウンターストライクソース」のModツールの環境構築	
第4回	ハンマーエディターの使い方1 最初の部屋	
第5回	ハンマーエディターの使い方2 武器の設置、ライティングなど	
第6回	ハンマーエディターの使い方2 AIパス計算・実際のプレイ	
第7回	レベルデザインの概念の解説	
第8回	紙面マップ作成	
第9回	作成実習	
第10回	現在のゲーム機での開発手法の理解	
第11回	ライティングの理解	
第12回	作成実習(2)	
第13回	評価(1)	
第14回	評価(2)	
第15回	評価(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

講義は、毎日講義時間外に行われるレポート作成、もしくは、実際のマップ制作の作業データやスクリーンショットの提出を義務づける。講義時間外に、講義で求められる製作の時間を取ることを前提とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	日常点30%、ゲームデータ40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『富の未来』	アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー / 講談社 / /
『ウィキノミクス』	ドン・タブスコット、アンソニー・ウィリアムズ / 日経BP / /
『民主化するイノベーションの時代』	エリック・フォン・ヒッペル / ファーストプレス / /
『ダンジョンズ & ドリーマーズ』	ブラッド・キング、ジョン・ポーランド / ソフトバンク / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経済新聞Web IT Plus「新清士のゲームスクランブル」
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx>

ユーザーが勝手に作ってしまった「ガンダム」新作ゲームタイトル
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000013042007&Page=1>

ゲーム業界のユーザー参加型コンテンツ「Mod」が流行る理由
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000019042007&Page=1>

CSEC Mod Communities
<http://www.c-sec.net/phpBB/>

Source SDK Docs 日本語版
<http://developer.valvesoftware.com/wiki/Category:Japanese>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GE) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GE) § 特殊講義(映像学)(GE)

12510

担当者名 / Instructor 富田 美香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「映像文化のアーカイブ」

映像文化とは一体なにか。そして映像文化はどのように保存され、次世代へと適正に継承されるべきか。

本講義は、映像文化のアーカイブをテーマに、記録媒体としてのフィルムおよび他媒体の特性、映画・映像文化の特質、その保存から普及までの諸問題、映像・映像の復元等、映像アーカイブの活動に関する知見を通して、上記の問いかけに対する回答を各人が見出すことを目的とする。

講義は、映像アーカイブの第一線で活躍する方々をゲスト講師にお迎えし、さまざまな映像文化のアーカイブ活動とその諸問題について、実践知を学ぶ講義形式をとる。

ゲスト講義のため、事前に説明の上でやむを得ず授業スケジュールを変更する場合がある。

初回ガイダンス時にゲスト回のスケジュール・詳細を配布する。

到達目標 / Attainment Objectives

映画文化の保存・復元・活用のあり方を通して、文化遺産・歴史資料としての映像の価値についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画史
映像と表現

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 映像文化のアーカイブについて	映像文化、アーカイブ、記録媒体
2	映像文化のアーカイブとは1	フィルム・アーカイブの活動について
3	映像文化のアーカイブとは2	フィルム・アーカイブ、フィルム、映像・映像文化の真正性について
4	映像文化のアーカイブ1 国立フィルム・アーカイブ 東京国立近代美術館フィルムセンター 入江良郎氏	
5	映像文化のアーカイブ2 地域とアーカイブ 神戸映画資料館 田中範子氏	
6	映像文化のアーカイブ3 国立フィルムアーカイブ 韓国映像資料院 チョン・ジョンファ氏	
7	映像文化のアーカイブ4 映画会社でのアーカイブ 『地獄門』の復元について 株式会社角川書店 天野ゆに子氏	
8	映像文化のアーカイブ5 大学での映像アーカイブ 立命館大学アート・リサーチセンター 富田美香	
9	映像文化のアーカイブ6 個人の活動 映画前史・幻燈 松本夏樹氏	
10	映像文化のアーカイブ7 記録映像のアーカイブ 一般社団法人記録映画保存センター 村山英世氏	
11	映像文化のアーカイブ8 TV映像のアーカイブ NHKライツ・アーカイブセンター	
12	映像文化のアーカイブ9 フィルム 富士フィルム株式会社 大関勝久氏	
13	映像文化のアーカイブ10 ラボ1:フィルム復元について 『地獄門』の復元 イマジカウエスト 山本毅氏	

- 14 映像文化のアーカイブ11 ラボ2:テレビ映像のアーカイブについて

東京光音

- 15 映像文化のアーカイブ まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

常日頃から、映画・映像を媒体の特質も含めて考えながら鑑賞してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎回提出を課すコミュニケーションペーパーの内容を、問題意識、理解度、参加度、の点において評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

web版の2009年度および2010年度講義記録「特殊講義 映像学 映像文化の創造と倫理」テキストを案内する。

参考書 / Reference Books

授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内で適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

コースツールを用いる。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 池上 久美子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明確かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明確かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、奨学金の出願方法、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation: 効果的なプレゼンテーションの仕方
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

奨学金に関して: http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

非常勤のため、質問などに答える時間は大学内では講義の後だけであるが、講義中にEmailアドレスを公開するので、メールでの質問を随時

受け付ける。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

担当者名 / Instructor 木村 一紀

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明確かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明確かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、奨学金の出願方法、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation: 効果的なプレゼンテーションの仕方
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference奨学金に関して: http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

非常勤のため、質問などに答える時間は大学内では講義の後だけであるが、講義中にEmailアドレスを公開するので、メールでの質問を随時

受け付ける。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

ヴィジョン形成特殊講義(海外留学英語演習)(PC) § 特殊講義(海外留学英語演習)(PC)

12550

担当者名 / Instructor 池上 久美子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明確かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明確かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、奨学金の出願方法、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation: 効果的なプレゼンテーションの仕方
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

奨学金に関して: http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

非常勤のため、質問などに答える時間は大学内では講義の後だけであるが、講義中にEmailアドレスを公開するので、メールでの質問を随時

受け付ける。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

担当者名 / Instructor 木村 一紀

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明確かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明確かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、奨学金の出願方法、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation: 効果的なプレゼンテーションの仕方
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference奨学金に関して: http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

非常勤のため、質問などに答える時間は大学内では講義の後だけであるが、講義中にEmailアドレスを公開するので、メールでの質問を随時

受け付ける。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

ヴィジョン形成特殊講義(国の行政組織)(P) § 特殊講義(国の行政組織)(GA) § 特殊講義
(基礎)I(国の行政組織)(GA) § 特殊講義(基礎)1(国の行政組織)(GA) § 特殊講義(基礎)
(国の行政組織)(GA)

12406

担当者名 / Instructor 今仲 康之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、日本の行政について、一般的に常識として備えておくことが望ましい「国の仕組み」、それぞれそれぞれの組織の最近の政策課題につき、基礎的な知識・知見を養うものとして開講する。

各回のテーマに沿って中央省庁から、中堅幹部行政官の方々をゲストスピーカーとして招き、各省庁がどのような役割を果たし、また、現在はどのような行政課題があり、どのような政策を考えているのかを、実際に仕事に就いている人たちから語ってもらう。また、その中で、仕事に携わる人が備えていることが望ましい力とその力が要請される所以を、日常の業務体験を通じて語ってもらう。各回の具体的な語り手は各省庁の中堅幹部行政官であり、日本の行政組織の在り方と政策課題を常に念頭に置きながら各自の職務を考えている人たちである。従って、この講義全体を通じて、受講生が総合的に日本の行政組織全般を見渡して正確な国の行政についての認識と問題意識を構築することを目指している。

これらを通して、大学生として身につけることが相応しい教養を養う科目として開講する。

この講義は、必ずしも公務員・公務従事者といった具体的な進路選択との直接的な関わりを念頭においたものではないが、今の時点で考える将来進路において国家ないし地方の公務員関係を念頭に置いている者は奮って受講してくれることが望ましい。

※なお、この授業は1・2回生のみを対象としています(ただし、経済学部のみは、3回生以上も受講できます)。

※この授業は、京都衣笠の教室と、BKCの教室の2地点を結んだリアルタイムの遠隔授業です(衣笠で実施しBKCへ配信)。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国の行政組織全体に関する高い見識が養える。
- ・各省庁の政策課題と今後の展望について理解できる。
- ・大学で「何をどのような問題意識から学ぶことが重要であるか」を考えるための見識を養える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の予備知識は特に必要はないが、受講の過程において、高校卒業までに既に身に付けている社会や理科の領域についての総合的知識の意味をもう一度よく確認することが望ましい。そして受講後は、広く公共政策を論じるために必要な知見がどんなものであるのかを主体的に関連づけて他の教養科目や学部専門科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義を受けるにあたって、この授業の目的と到達目標について、説明する。	国の行政組織について
2	外務省	外交政策に関する最近の課題について
3	総務省	地方自治に関する最近の課題について
4	財務省	国家財政に関する最近の課題について
5	経済産業省	経済政策に関する最近の課題について
6	農林水産省	農林水産政策に関する最近の課題について
7	公正取引委員会	公正取引政策に関する最近の課題について
8	厚生労働省	社会保障に関する最近の課題について
9	環境省	環境政策に関する最近の課題について
10	文部科学省	文部科学政策に関する最近の課題について
11	国土交通省	国土交通政策に関する最近の課題について
12	防衛省	防衛政策に関する最近の課題について
13	警察庁	警察行政に関する最近の課題について
14	法務省	入国管理に関する最近の課題について
15	人事院	公務員制度に関する最近の課題について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・日々、新聞に目を通す習慣をつけておくこと。
- ・毎回、インターネットのホームページなどで、事前に関係する各省庁について調べておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	定期試験により、講義全体の理解度を、評価する。
平常点評価	40 %	それぞれの講義について、小レポートの提出により、その理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・受講生自身の問題関心・意欲が重要であり、授業においては質疑応答の時間を設けるので、受講生の積極的な参加を求めたい。
- ・いうまでもなく授業に際して、私語・飲食等は、禁止です。

教科書 / Textbooks

- ・特にありませんが、各府省庁から出ている白書などが、参考になります。

参考書 / Reference Books

- ・適宜、授業において紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・<http://www.e-gov.go.jp/link/link.html>
各府省庁・独立行政法人等(府省別)等のホームページに案内してくれるリンクサイトです。
授業の前に関連する各機関のサイトをチェックすること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- ・担当教員のメールへ連絡があれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

- ・授業スケジュールについて、都合により、招聘省庁やテーマを変更する場合があります。
- ・この授業は、京都衣笠の教室と、BKCの教室の2地点を結んだリアルタイムの遠隔授業です(衣笠で実施しBKCへ配信)。

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー)(GA) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セ
 ミナー)(GA) § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー)(GA)

60106

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の
 教学プログラムです。夏期休暇を利用し担当教員のガイドのもとで地域を旅し、現場に身をさらす国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、
 国際理解と協力の道を探ります。

戦後50周年を記念して、1995年にスミソニアン航空宇宙博物館の企画していた原爆展が中止されるという事件が起こりました。広島・長崎への
 原爆投下、これにともなう「核の時代」の幕開けが何を意味するかについて、米国民とアジアの人々、日本人、そして被爆者の間に、深刻な認識
 ギャップがあることが明白となったのです。これをうけてアメリカン大学が被爆遺品をひきとり、独自に原爆展を開き、広島市長はじめ、多数の被
 爆者を招いたことが、このプログラムを始めるきっかけとなりました。本プログラム「被爆地で世界の若者とともに、『核の時代』の意味と平和創造
 の方策を考える」は、このギャップを埋めようと、ワシントンにあるアメリカン大学と本学とが共同で企画・実施してきたもので、今年で17回目の連
 続開催となります。最初の2年間は自主ゼミとして行いましたから、正式科目となってからだと15回目となります。

米国からは15名、カナダから数名、立命館アジア太平洋大学から数名の国際学生が参加します。立命関係の受講生数は20名とします。旅行
 期間は8月1日から10日です。8月6日と9日の被爆式典に参列するとともに、広島市長を表敬訪問したり、国際シンポジウムなどに参加します。
 多数の被爆者をお招きして、旅行団として広島と長崎の地で、原爆投下をめぐる市民公開講座を開催する可能性もあります。

20世紀において米国人にもっとも深刻な影響を与えたルポルタージュのトップとして米国のジャーナリストたちが選んだのが、ジョン・ハーシー
 が1946年に書いた『ヒロシマ』。この本を日米全員の共通テキストにします。このテキストに登場する最年少の赤ん坊が近藤紘子さん。25名の原
 爆乙女の渡米治療運動リーダー谷本清牧師の長女で、アメリカン大学の卒業生でもあります。彼女に全行程同行してもらう予定です。アメリカ側
 コーディネイタとして、アメリカン大学核問題研究所長のピーター・カズニック教授(歴史学)、カナダ側コーディネイタ兼通訳として乗松聡子さん
 (ブリティッシュ・コロンビア大学講師)にも全行程同行してもらいます。

到達目標 / Attainment Objectives

「原爆学習の旅」とは、被爆した死者を慰霊し、自らの生き方を問う旅でもありますから、「平和巡礼の旅」だということもできます。この旅のなか
 で、議論し、解明したいのは、つぎの3つの問題です。広島平和公園には、「安らかに眠って下さい、過ちは繰り返しませんから」という碑文があ
 りますが、①「過ち」とは何ですか。②「繰り返しませんから」という一文の主語は誰ですか。③「繰り返しませんから」という誓いは実現可能で
 すか、どうしたら実現できるのでしょうか、という3つです。

より具体的な調査と討論の柱としては、①原爆雲の下で何が起こったのか、②米国はなぜ2発の原爆を庶民居住地域に投下したのか。投下は
 「必要悪」だったのか、それとも「悪質な戦争犯罪」だったのか、③「核の時代」とは何か、④北東アジアを舞台にする憎悪と戦争の悪循環を克服
 し、「核兵器」を廃絶し、国際理解と協力を促進するには何をすればよいのか、などが考えられます。戦争遺跡や被爆者の方々を訪ね、外国の若
 者との交流を通じて、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「立命館で平和を学ぶ」、「戦争の歴史と現在」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
6月中旬	京都での事前研修1	
7月上旬	京都での事前研修2	
7月下旬	京都での事前研修3	
8月1日	京都での研修セミナー1 開会式 歓迎パーティ フィールドワーク	
8月2日	京都での研修セミナー2	立命館大学国際平和ミュージアム見学
8月3日	京都での研修セミナー3	
8月4日	広島でのセミナー1	
8月5日	広島でのセミナー2	
8月6日	広島でのセミナー3	
8月7日	長崎でのセミナー1	
8月8日	長崎でのセミナー2	
8月9日	長崎でのセミナー3	
8月10日	長崎での最終セミナー、現地解散	
10月上旬	京都での事後セミナー1	
10月上旬	京都での事後セミナー2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

2回のレポート作成、あるいは旅行準備のために、国際平和ミュージアムの1階にあるメディア資料室を活用してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	事前の予習レポートと事後の最終レポートを作成してもらいます。
平常点評価	50 %	①国際的な交流と討論にどの程度積極的に参加し、貢献できたか、②ホスト側として、各プログラムを実りあるものにし、参加者を幸せにするために、どのような役割を果たしたかを自己評価してもらいます

定期試験は行いませんから、着実にレポートを作成し、蓄積しておく必要があります。
成績評価は、受講生の自己評価結果を有力な参考資料として、教員の責任で行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

熟達の通訳が付きませんが、英語を軸とする交流となりますので、ある程度は英会話のできる学生、平和の問題や体験型の学習に関心のある皆さんの応募を期待します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒロシマ	ジョン・ハーシー / 法政大学出版局 / 翻訳 谷本 清

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒロシマ 60年の記憶	近藤紘子 / リオン社 /
広島・長崎への原爆投下再考	木村 朗 / ピーター・カズニック / 法律文化社 / 翻訳・コラム: 乗松聡子、コラム: 藤岡 惇

最初の本は、この旅行に15回連続で参加してもらっている近藤紘子さんの自叙伝です。2008年度と09年度にこの旅行団が主催して長崎の原爆被災者協議会の会議室で開いた公開市民講座の成果が本になりました。それが2つ目の本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

昨年度のこの旅行の様子は、NHK国際放送で特集されました。その模様は、
<http://www.facebook.com/video/video.php?v=1509296906682&subj=639919387>
を見てください。

一昨年この旅行の様子は
http://www.youtube.com/watch?v=XzIFMFVONIo&feature=player_embedded

近藤紘子さんを描く映像作品が米国のテレビで放映されました。
http://channel.nationalgeographic.com/series/explorer/4826/Overview#tab-Videos/08496_00

このプログラムを共催しているアメリカン大学核問題研究所(ピーター・カズニック所長)のHPは
http://www.american.edu/academic.depts/cas/hist/nsi/nsi_prog_abroad.cfm

カズニック教授は、「プラトーン」、「JFK」などアメリカ史を描いた映画づくりで著名なオリバー・ストーン監督の制作アドバイザーも務め、この旅行には16回目の参加となります。

過去5年間、通訳とカナダ側コーディネイタを務めていただいた乗松聡子さん(ブリティッシュ・コロンビア大学講師)のHP
<http://peacephilosophy.blogspot.com/search/label/Hiroshima%2FNagasaki%2FNuclear%20Disarmament> に参加者の感想が掲載されています。
2010年度の乗松さんの感想は、<http://www.japanfocus.org/~Norimatsu-Satoko/3463>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

通常の受講登録とは別に申し込みが必要です。
受講申込みはこちらから <http://www.ritsumeijp/liberal/worldwide-peace/>

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー)(GB) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セ
 ミナー)(GB) § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー)(GB)

60107

担当者名 / Instructor 庵邊 由香、鄭 雅英

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとで現地におけるフィールドワーク・講演・討論などを通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で15回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用して担当教員のガイドのもとで様々な地域を訪れ、現場に身をさらし、五感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は、1週間ほどの韓国フィールドワーク(9月中旬予定)への参加を中心に組み立てられています。日本が朝鮮を植民地として「併合」してから、昨年で100年。この1世紀を越える日本と朝鮮半島の関係史を題材としながら、ソウル・釜山でのフィールドワークや講演、韓国人学生との交流・討論、韓国文化体験などを通して、平和と人権について考えることを目的とします。

またフィールドワークのための事前学習を行い、日本と歴史的にも地理的にも深い関わりを持つ韓国・朝鮮についてや日韓関係の歴史を学び、今後の日韓関係の平和的なあり方について考えます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本と北東アジア地域の近現代史に関する諸科目、朝鮮半島の歴史・文化・政治経済等に関する諸科目、平和学関連諸科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか、日韓関係の歴史についての講義	
2	第2回事前研修: 現代韓国社会についての講義、セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
3	第3回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
4	現地学習(第一日目): 出発、目的地到着、オリエンテーション	
5	現地学習(第二日目午前中): ソウルのフィールドワーク	
6	現地学習(第二日目午後): ソウルのフィールドワーク	
7	現地学習(第三日目午前): 釜山のフィールドワーク	
8	現地学習(第三日目午後): 釜山のフィールドワーク	
9	現地学習(第四日目午前): 釜山のフィールドワーク	
10	現地学習(第四日目午後): 釜山のフィールドワーク	
11	現地学習(第五日目午前): ソウルのフィールドワーク	
12	現地学習(第五日目午後): ソウルのフィールドワーク	
13	まとめのワークショップ	
14	事後研修第1回: レポート中間発表とメモ・写真等の記録物の提出	
15	事後研修第2回: レポートの完成に向けた指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	・テーマ設定の意義付け ・資料調査、現地調査内容の深度と反映 ・論理展開の適切さ ・レポートとしての体裁
平常点評価	50 %	・事前、事後講義への出席度 ・現地学習(交流、討論、ワークショップ、見学ほか)における積極性 ・グループ学習への参加度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

ahyoung@ba.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

通常を受講登録とは別に申し込みが必要です。

受講申込みはこちらから <http://www.ritsumei.jp/liberal/worldwide-peace/>

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー)(GC) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セ
 ミナー)(GC) § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー)(GC)

60108

担当者名 / Instructor 曹 瑞林

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「日中国交正常化40周年 日中の大学生が未来に向かって相互理解と友好を深める」

場所:中国(大連市、北京市)

現地研修期間:8月8日～8月17日(予定)10日間

事前講義:6月末7月初 計2回(事前講義を行う(土曜日の午後))

事後講義:11月末、プレゼンテーション(土曜日の午後)

募集人数:25名

参加費用:15万円

担当教員:曹 瑞林 経済学部教授

到達目標 / Attainment Objectives

1.目標

来年は日中国交正常化40周年を迎えます。この年月を経て日本と中国は切っても切れない緊密な関係となりました。しかし、日中両国と両国民の間に多くの認識の違いがあり、相互理解が十分であるとは言えません。このプログラムは、中国の文化、社会、経済発展や対外開放、日中交流について学習に取り組み、日中の大学生が未来に向かって相互理解、友好交流を深めることを目的とします。期間は8月8日～8月17日に交流・訪問先は中国の大連と北京です。

2.訪問地域:大連、北京

国際的大都市の大連市は東三省の中で最も経済的に発展し、開放的な地域であるとともに、牽引車の役割を果たしています。歴史的には、日本と深い関係があり、90年代以降、多くの日本企業が進出しています。さらに大連は日本の多くの地域と連携し、経済だけでなく、文化教育交流を盛んに行い、中国において日中交流のモデル都市となっています。北京は中国の首都であり、政治、文化、経済の中心です。また長い豊かな歴史を持ち、故宮や万里の長城などの世界文化遺産があります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	3.プログラムの内容	
	①本プログラムでは、担当教員が6月末～7月、事前講義を行います。受講生は自分に関心のあるテーマを選び、自主的学習に取り組みます。	
	②大連、北京で分かりやすい講義を受けるとともに、見学や訪問、中国の日本コースの学生との交流を行います。	
	③大連では、旅順口区を含む大連の歴史的遺跡、博物館、建築物を見学します。大連開発区、ソフパークなどを訪問し、この地域の目覚ましい経済発展や対外開放、大連と日本との経済交流への理解を深めます。また大連市の専門家による日中交流についての講義を受ける機会を設けます。日本語コースの学生との意見交換、懇親交流会をおこない、平和などについての相互理解と友好交流を深めます。	
	④北京において代表的な商店街、商業施設、天安門広場、万里の長城、故宮、盧溝橋などの見学を行います。これらを通じて中国人の生活に触れ、観察するとともに、中国の歴史、文化について学習します。また日中教育交流と日中関係の講義を受ける機会を設けます。また日本語学科学生との懇親交流会を行い、相互理解を深めます。	
	⑤研修の成果を確かなものとするために、事後学習ではプレゼンテーションを行います。また参加者全員がレポートを作成し、報告集にまとめます。	
	4.現地日程と訪問先	
	8月8日(月) 出国、大連到着	
	8月9日(火)「大連と日本の交流について」講義、中国の大学生と懇親交流会	
	8月10日(水) 大連の歴史的建築物を見学 (星海広場、老虎灘公園、日本風情街、中山広場、ロシア風情街、大連賓館(旧大和	

ホテル)など)

8月11日(木) 旅順203高地、水師営、旅順博物館、旅順駅
などの歴史を学習
8月12日(金) 大連経済技術開発区、大窯湾保税港区の
日系企業など訪問
8月13日(土) 大連ソフトパークにあるグローバル企業を訪
問
8月14日(日) 大連・北京移動、天安門広場、故宮、王府
井大街、北京屋台
8月15日(月) 日中教育交流関係講義、中国の大学生と交
流
8月16日(火) 万里の長城、盧溝橋、現地研修総括
8月17日(水) 帰国

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①70%は、現地訪問、調査にもとづいて作成されたレポートおよびプレゼンによる評価 ②30%は、事前・事後の講義への参加や現地研修での意欲や協調性を評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

追って連絡する

参考書 / Reference Books

複数の文献、論文を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

ruilin68@fc.ritsumeij.ac.jp

その他 / Others

通常の受講登録とは別に申し込みが必要です。

受講申込みはこちらから <http://www.ritsumeijp/liberal/worldwide-peace/>

特殊講義(茶道文化史)(GA) § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史)(GA)

20318

担当者名 / Instructor 千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

茶道を通じて日本文化を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9/12)	講義	総論～茶の精神
第2回(9/12)	講義	総論～茶の精神
第3回(9/12)	実技	『茶事』解説①
第4回(9/12)	実技	『茶事』解説②
第5回(9/13)	講義	茶の伝来～団茶、抹茶、煎茶～
第6回(9/13)	講義	鎌倉時代の喫茶文化
第7回(9/13)	実技	薄茶Demo 干菓子の頂き方
第8回(9/13)	実技	薄茶の頂き方
第9回(9/14)	講義	書院飾りと喫茶
第10回(9/14)	講義	わび茶の誕生
第11回(9/14)	実技	濃茶Demo 主菓子縁高の扱い
第12回(9/14)	実技	濃茶を頂き方
第13回(9/15)	講義	利休の美意識
第14回(9/15)	講義	茶道の展開
第15回(9/15)	実技	今日庵茶室見学 露地の扱い ぞうり・蹲踞・鬮口
第16回(9/15)	実技	薄茶を点る
第17回(9/16)	講義	喫茶と茶道具①
第18回(9/16)	講義	喫茶と茶道具②
第19回(9/16)	実技	花を入れる
第20回(9/16)	実技	薄茶を点る

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①レポート 最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価します。 ②講義と実技への参加態度をもとに評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学外での授業となりますので、社会人としての一般的なマナーや儀礼を身につけること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
裏千家茶道	/// 第1回目授業で配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

* 授業は裏千家学園で行います。

集合場所等の詳細については、7月上旬に各学部掲示板で改めて案内しますので、必ず確認してください。

特殊講義(白川学の世界)(GA)

14127

担当者名 / Instructor 石井 真美子、今場 正美、阪谷 昭弘、高島 敏夫、谷口 義介、張 莉、萩原 正樹、真下 厚、
芳村 弘道 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

白川静博士(1910-2006)の学問の概要について講義する。白川博士は2004年に本学出身者としては初めての文化勲章を受章され、「白川文字学」の存在が内外にも広く知られるようになった。しかし博士の学問は文字学だけが独立してあるのではなく、文字学を包み込むようにして文学・歴史・思想の研究が深くつながっている総合的な学問である。それでその全体を「白川学」と呼ぶこともある。国際的に現実的なテーマとなりつつある(東アジア共同体)の問題は、そもそも古代における共通の文化圏に根源をもつ問題である。こうした問題を考えていく上で、「白川学」の示した知見が重要な鍵を握ってくるであろう。

本講義では、壮大なスケールの「白川学」を各分野の専門家が、様々な角度から講義する。この授業を通じて白川静の学問する方法や生き方、大きなテーマに立ち向かっては解決の道を見出していく情熱など、必ずや啓発されるところがあるものと思われる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「白川学」の概要について理解する。
- ・「白川学」の独創性や意義について、報告することができる。
- ・「白川学」の理解を通して、発想の転換や批判的精神など、学問研究の基礎を身につける。
- ・白川静の生涯について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コーディネーターによるオリエンテーション(白川静の生涯と立命館大学)(萩原正樹)(4月13日)	
第2回	白川静と古典研究(芳村弘道)(4月20日)	
第3回	詩経と西周時代1(谷口義介)(4月27日)	
第4回	詩経と西周時代2(谷口義介)(5月11日)	
第5回	古代歌謡の世界、詩経と万葉集(真下厚)(5月18日)	
第6回	詩経研究から文字学へ(高島敏夫)(5月25日)	
第7回	殷代社会と日本古代社会(高島敏夫)(6月1日)	
第8回	白川文字学の体系(高島敏夫)(6月8日)	
第9回	中国からみた白川文字学(張莉)(6月15日)	
第10回	中国の神話(阪谷昭弘)(6月22日)	
第11回	屈原と楚辞(今場正美)(6月29日)	
第12回	白川静の古代文学論(今場正美)(7月6日)	
第13回	孔子と古代思想1(石井真美子)(7月13日)	
第14回	孔子と古代思想2(石井真美子)(7月20日)	
第15回	コーディネーターによるまとめの授業(白川静と東洋の理想)(萩原正樹)(7月22日(金)補講日)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

白川静出演のテレビ番組や特集番組、講演会のビデオなどを見ると、さらに理解が深まる。また、難解ではあっても、白川静の著作そのものにもぜひ挑戦して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	出席点・授業中の小レポートなど

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業で取り上げる白川静の著作はもちろん、その他の論著についてもぜひ実際に手にとって自分で読み進めて欲しい。難解な書物との格闘が、理解と成長につながるであろう。

教科書 / Textbooks

特定のものは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
白川静著作集	白川静 / 平凡社 / /
回思九十年	白川静 / 平凡社 / /
桂東雑記 I ~ V	白川静 / 平凡社 / /
入門講座白川静の世界1文字	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 / 平凡社 / /
入門講座白川静の世界2文学	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 / 平凡社 / /
入門講座白川静の世界3思想・歴史	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 / 平凡社 / /
學林第46・47号白川静先生追悼記念論集	中国藝文研究会 / 中国藝文研究会 / /
白川静 漢字の世界観	松岡正剛 / 平凡社 / /
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

中国文学専攻ホームページ
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 学生との直接対話 / Talk with Students
 その他 / Other
 メール

その他 / Others

水曜日の授業日である5月14日(土)は休講とし、最終第15回目の授業を7月22日(金)の補講日に実施します。

人文科学総合講座特殊講義I(LD) § 特殊講義(基礎)I(TA) § 特殊講義(総合)(GA) § 特殊講義(基礎)1(C) § ヴィジョン形成特殊講義(日本文化の奔流)(GA)

14063

担当者名 / Instructor 佐古 愛己、杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

タイトル: 日本文化の奔流—立命館京都学の展開—

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去6年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を承け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)とその後継講座、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、①総合性、②学際性、③国際性、④地域連携、⑤現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の構築にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に關説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)や日本史・日文・地理学等隣接科目の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋隆夫(立命館大学教授)	導入講義
2	松本零士(漫画家)	旅立ちの分岐点
3	田部井淳子(登山家)	世界の山々をめざして
4	上横手雅敬(京都大学名誉教授)	日本の東国・西国と文化
5	田崎真也(ソムリエ)	日本の食 日本の酒
6	大槻文蔵(大槻能楽堂理事長)	作品と作意、そして表現方法は
7	篠山紀信(写真家)	写真で時代を激写する
8	中島誠之助(古美術鑑定家)	桃山時代の茶陶
9	湯山賢一(奈良国立博物館館長)	和紙の歴史
10	M.コルカット(プリンストン大学教授)	アメリカでの岩倉使節団 — 特にサンフランシスコ到着と歓迎
11	中川芳三(松竹株式会社演劇部顧問)	上方歌舞伎の特質。そして今日、明日。
12	池内恵(東京大学先端科学技術研究センター准教授)	アラブ・イスラーム思想史と中東政治
13	田中恒清(石清水八幡宮宮司、神社本庁総長、京都府神社庁庁長)	神も仏も
14	安藤忠雄(建築家)	夢かけて生きる
15	佐古愛己(立命館大学准教授)	まとめと検証テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。また、授業の翌週にも、TAによるコミュニケーション・ペーパーや質疑・応答の集約が配られるので、これを踏まえて次の授業に臨むことができる。講義の後には、時間中に回収した質問用紙の内容を踏まえた(読売新聞編集委員による)「代表質問」も行われる。自分の興味・疑問を講演者に問う機会として、活用してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、〈宗教〉を問う！、現代社会と宗教Ⅰ』『宗教者に聞く！、〈日本編上・下〉現代社会と宗教』（いずれも法蔵館）は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。「源流」以降に関しても、昨年『日本文化の源流を求めて1・2』（文理閣）を出版。以後、続刊予定。是非、閲読を勧める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

必要に応じて、前回授業のまとめにコメントを載せることもある。

その他 / Others

人文科学総合講座特殊講義I (LE) § 特殊講義(基礎)II (TA) § 特殊講義(総合) (GB) § 特殊講義(基礎)2 (C) § ヴィジョン形成特殊講義(日本文化の奔流) (GB)

11797

担当者名 / Instructor 佐古 愛己、杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

タイトル: 日本文化の奔流—立命館京都学の展開—

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去6年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を承け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)とその後継講座、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、①総合性、②学際性、③国際性、④地域連携、⑤現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

叙上を念頭に置きながら、各界一流の講師陣による講義を聞き、その精華を学び取ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の構築にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に関連した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)や日本史・日文・地理学等隣接科目の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋隆夫(立命館大学教授)	導入講義
2	柏木哲夫(金城学院大学学長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長)	日本人の死生観—ホスピスでの経験から—
3	善竹忠一郎(大蔵流狂言善竹家当主)	狂言よもやま話
4	土井克彦(臨濟宗妙心寺派法務部長)	禅のこころ
5	千宗員(表千家若宗匠)	茶の湯のこころ
6	田口洋美(狩猟文化研究所代表、東北芸術工科大学教授)	列島開拓と狩猟のあゆみ—マタギたちの生きた日々—
7	佐々木史郎(国立民族学博物館副館長)	北方史の中の日本 — 北の世界との交流から日本文化を語る
8	平田オリザ(劇作家、内閣官房参与)	対話の時代に向けて
9	黒川博行(作家)	小説家の日常
10	秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)	これからの美術館と市民
11	笑福亭仁鶴(落語家)	一日一笑
12	平雅行(大阪大学大学院教授)	歴史のなかの親鸞
13	滝田栄(俳優)	人生の目的 — ヨギラージャとマハラージャ
14	太田達(老松主人)	祈りと菓子一個における信仰の視点—
15	佐古愛己(立命館大学准教授)	まとめと検証テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。また、授業の翌週にも、TAによるコミュニケーション・ペーパーや質疑・応答の集約が配られるので、これを踏まえて次の授業に臨むことができる。講義の後には、時間中に回収した質問用紙の内容を踏まえた(読売新聞編集委員による)「代表質問」も行われる。自分の興味・疑問を講演者に問う機会として、活用してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、〈宗教〉を問う！、現代社会と宗教Ⅰ』『宗教者に聞く！、〈日本編上・下〉現代社会と宗教』（いずれも法蔵館）は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。「源流」以降に関しても、昨年『日本文化の源流を求めて1・2』（文理閣）を出版。以後、続刊予定。是非、閲読を勧める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

必要に応じて、前回授業のまとめにコメントを載せることもある。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZA) § 特殊講義(基礎)II(ZA) § 特殊講義(基礎)1(ZA) § 特殊講義(自由選択)II(ZA)

20322

担当者名 / Instructor 伊坂 忠夫、後藤 一成、塩澤 成弘、橋本 健志、藤田 聡

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

スポーツパフォーマンスの向上に必要なトレーニング、食事、睡眠、用具・装具の開発において、スポーツ科学の研究成果が活かされていることはよく知られている。また、健康な身体を維持するためには、運動・栄養・休養を意識した生活が重要であることは言うまでもない。この科目では、一般人の健康からトップアスリートの競技力向上に役立つ運動・トレーニング・栄養について科学的なデータに基づいて講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツ科学の分野で明らかにされた、スポーツと筋力、持久力、ならびにトレーニングとスポーツパフォーマンスの向上、健康科学の分野で明らかにされた運動と健康の関係、加齢と健康・体力についての最新の知見を理解することが授業の目標である。さらには、これらの科学的根拠を実践へ応用できる力量をみにつけることが最終目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(第1日め)	はじめに 全体の進め方, 担当者の紹介	
第2回(第1日め)	スポーツにおける力を生み出す仕組み	
第3回(第1日め)	持久力と呼吸・循環機能	
第4回(第2日め)	スポーツと加齢—エイジング	
第5回(第2日め)	運動・肥満・生活習慣病—将来の健康対策	
第6回(第2日め)	スポーツと形態	
第7回(第3日め)	持久力と高地トレーニング	
第8回(第3日め)	宇宙環境と体力—無重力とからだの適応	
第9回(第3日め)	スポーツと栄養	
第10回(第4日め)	筋力とは何	
第11回(第4日め)	火事場の馬鹿力の生理	
第12回(第4日め)	筋力トレーニングの実際	
第13回(第5日め)	スポーツパフォーマンスを計測する	
第14回(第5日め)	スキルの科学	
第15回(第5日め)	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テキストをよく読んでおくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

立命館大学スポーツ健康科学部の複数の教員(オムニバス形式)による最先端の知識によって、スポーツ科学、健康科学の研究に触れて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「スポーツサイエンス入門」	田口 貞善・矢部 京之助・伊坂 忠夫 / 丸善出版 / 978-4-621-08216-4 /

テキストは、必ず購入の上、事前に読んでおいて下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若い時に知っておきたい運動・健康とからだの	田口 貞善(著), 山地 啓司(著) / 近代科学社 / 978-4764940017 /

秘密

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Other

授業内容については、授業期間中の質問の時間を設けます。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZB) § 特殊講義(基礎)II(ZB) § 特殊講義(基礎)1(ZB) § 特殊講義(自由選択)II(ZB)

20323

担当者名 / Instructor 飯田 洋治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

【いきいき物理わくわく実験－市民の科学－】

アマチュアはもちろん、専門を目指す人にとっても必要な科学とは何なのか、数式・計算とは一味違った科学の魅力を追求したい。討論や身近な実験などを通して、自然の不思議さ・奥深さを追求し、科学の真の面白さ、誰でもが心から楽しめる科学に迫りたい。

(1) だまされない市民になるために－いくら科学・技術が発展しても、現代のような情報化社会においては情報操作に惑わされる傾向を生みやすい。超能力実験、科学マジックなど、だましあいを楽しむことによって、だましに対する免疫をつけながら、「科学的に考えるとはどういうことか」を考える。

(2) 科学はどこにでもあり、誰でもができる。－ちょっと見方を変えただけで新しい世界が広がる。新発見・発明につながる。身近な材料、テーマから、興味ある問題をとりに科学・技術の発想を学ぶ。

(3) 21世紀の科学・技術のあり方を問う。－R・カーソン、S・コルボンの警告。20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄の文明は人類のみならず生物そのものの生存を脅かし始めた。21世紀はこのような問題を解決するために必要な科学とは何か、人類の知恵と能力が問われる時代である。環境問題と化学物質の関わりを中心に問題を明らかにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

身近なものを通して、科学・技術やそのあり方に興味と関心を持ち、ものごとに対する批判的、多角的見方・分析力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	だましあいを楽しむ	－「超能力実験」、「ひのえうま」、「虫の知らせ」など
2	科学マジックを通して考える	－「空中浮揚」、「さらし首」など
3	「ごまかし勉強」から本物の学びを	－PISA、TIMSS 国際理科教育調査から
4	強い形、弱い形の秘密に迫る	－「卵の上に人は乗れるか」、「一枚の紙から、ストローの形から」
5	科学はどこにでもあり、誰でもができる	－「遊びの中の科学」、「おもちゃの科学」、「スポーツの科学」、「キッチンの中の科学」
6	音と楽器の秘密を探る	－「音階ができれば何でも楽器」、「磁気カード、CDの秘密～情報記録」
7	光とものの色の不思議を探る	－「3原色の影の色」、「加法混色・減法混色」
8	生活の中の電気・磁気	－「感電する？しない？」、「何でもマイクスピーカー」、「ハイテクも原理は簡単」
9	自然の階層性、押しつぶしの科学	－「大きさを比べるだけでここまでわかる」、「原子から宇宙へ」
10	高校生・大学生の力学的概念調査から	－「経験をたよりにすれば間違えるのは当たり前」、前概念、誤概念、経験的自然観
11	地動説	－「動いていてもそれを感じない世界の発見」、相対性原理
12	エアコンの秘密、フェーン現象	－「押すだけで燃える？」、「振るだけで水の温度は？」、「断熱圧縮、断熱膨張」
13	「水飲み鳥」で考える地球環境とエントロピー	－地球上の水や空気や資源の有限性、エネルギー開放系と物質閉鎖系、エントロピー
14	化学物質と生態系 カーソンやコルボンの警告	－化学物質の毒性、生体濃縮、発ガン、奇形、環境ホルモン、原子エネルギー
15	－市民として、これからどうすればいいのか	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ほぼ毎回、討論や身近な実験を通して授業を展開する。
授業中に意見を出し合い、毎回授業内容に対するコメントを求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況は成績に加味する。 毎回提出するコメント及び小レポートの内容 及び最終レポートなどで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業に出席し、興味ある分野を調べたり、関連する書籍を読み、授業以外でも友人と議論するように心がけてほしい。

教科書 / Textbooks

授業では適宜、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いきいき物理わくわく実験1	愛知・岐阜物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78337-3 /
いきいき物理わくわく実験2	愛知・岐阜・三重物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78338-1 /
その他、必要に応じて授業中に紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

コミュニケーションペーパー / Communication Paper
 インタラクティブシート / Interactive Sheet
 学生との直接対話 / Talk with Students
 その他 / Other
 メール、コメント用紙などで意見を求める。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZC) § 特殊講義(基礎)II(ZC) § 特殊講義(基礎)1(ZC) § 特殊講義(自由選択)II(ZC)

16781

担当者名 / Instructor 飯田 洋治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

物理で考える自然科学入門。いかなる生物も物理法則を免れることはできない。生物はサイズの変化によってどう変わるかをはじめ、自然界には小は素粒子、原子・分子から大は天体に至るまで様々な質的に異なった階層が存在しそれぞれの階層には固有の法則が支配していることを具体的に取り上げる。一方、原子崩壊の発見以来、生物進化と同様、物質も進化し、星も進化するという歴史的自然観を生み出した。このような20世紀に到達した現代科学の統一的自然観－階層的・歴史的自然観とは何かを取り上げ、これからの科学のあり方を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

現代科学の統一的自然観－階層的・歴史的自然観がわかる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	『人間・アリ・象－動物と大きさ－』から見えてくること	
2	中公新書『ゾウの時間ネズミの時間』から(1)	
3	中公新書『ゾウの時間ネズミの時間』から(2)	
4	中公新書『ゾウの時間ネズミの時間』から(3)	
5	中公新書『ゾウの時間ネズミの時間』から(4)	
6	原子から宇宙へ	
7	押しつぶしの科学	
8	階層的・歴史的自然観	
9	自然の歴史性(1)星の進化	
10	自然の歴史性(2)変動する地球と進化	
11	自然の歴史性(3)生物の進化	
12	自然の歴史性(4)ヒトの進化	
13	階層的・歴史的自然観と自然の多様性と相互連関	
14	環境と化学物質, 原子エネルギー	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回、授業中に意見を出し合い、授業内容に対するコメントを求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況は成績に加味する。 毎回提出するコメント及び小レポートの内容 及び最終レポートなどで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業に出席し、興味があったところを調べたり、関連書籍を読み、授業以外でも議論するようすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ゾウの時間ネズミの時間－サイズの生物学	本川達雄 / 中公新書 / ISBN4-12-101087-6 /
必ず読了すること。(できれば講義が始まる前に読了するのが望ましい)	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間・アリ・象	ピーター・K・ウェイル / 福音館 / ISBN-10: 4834013154 / 絶版。

物質の進化	中川直哉／三省堂／ISBN4-385-33018-2／
宇宙進化の構図	池内了／大月書店／ISBN4-272-40129-7／
科学は「自然」をどう語ってきたか	菅野礼司／ミネルヴァ書房／ISBN4-623-03046-6／
ものの大きさ－自然の階層・宇宙の階層	須藤靖／東京大学出版会／ISBN4-13-064100-X／

必要に応じて授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

コメント用紙にて意見を集める

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZD) § 特殊講義(基礎)II(ZD) § 特殊講義(基礎)1(ZD) § 特殊講義(自由選択)II(ZD)

16782

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

★

【比較教育入門】

今日のさまざまな教育問題について、日本の実態を諸外国と比較しながら考察する。主にとりあげるテーマは国際比較の意義、世界の教育、教育の国際化、宗教と学校、ニューカマーと学校教育、多文化教育と公教育などである。これらの考察を通して、国際的な視点から日本の教育の特徴や課題を理解するとともに、国際化時代における教育のあり方を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際的な視点から教育の諸問題を考えるための基本的な方法や用語を理解し、活用することができる(知識)。
- ・自分自身の個人的な教育経験を相対化し、日本の教育のあり方を幅広い視点から論じることができる(価値観・思考)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション:国際比較の意義	ガイダンス、授業の到達目標・進め方・成績評価方法など、各回の授業概要
第2回目	世界の子ども教育	親の期待、バイリンガル教育、学習到達度調査(PISA)、公立校と私立校、教育機会の格差
第3回目	大学生の基礎学力	大学生の学力低下、高学歴化と少子化、大学教育の改革、高大連携
第4回目	世界の教育改革の動向	社会のグローバル化、「小さな政府」、情報技術革新、アカウンタビリティ(説明責任)、学校評価
第5回目	日本の教育のゆくえ	教育改革、中央教育審議会、教育、子育て、学力観、生涯学習社会
第6回目	アメリカ—地方分権制・多様性・学校選択	地方分権制、多様性、学校選択、チャータースクール、学校の自律性
第7回目	イギリス—多元的社会・参加・アカウンタビリティ	多元的社会、公費維持学校、全国共通教育課程、参加、アカウンタビリティ(説明責任)
第8回目	中 国—高学歴化・科教興国・素質教育	高学歴化、科教興国、資源の重点配分、受益者負担、素質教育
第9回目	中間的考察:まとめと討論	教育の国際比較、教育改革、国民国家、学校教育、多文化主義
第10回目	国際化と教育	教育の国際化、国際人、国際理解教育、日本語教育、在日外国人教育
第11回目	宗教と学校	公教育、多文化社会、価値教育、宗教教育、宗教学習
第12回目	ニューカマーと学校教育	ニューカマー、日本社会、学校文化、「違い」への対処、「見る」アプローチ
第13~14回目	多文化教育と公教育	多文化教育、エスニシティ(民族性)、公教育、多文化主義、公民権運動
第15回目	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

- ・各回の授業は特定の論文等の紹介を中心に行うので、事前に読んでおくことが望ましい。第1回目の授業時に論文名等を記載したシラバスを配布する。
- ・第9回目の授業時に、日本の教育の改革課題に関する小レポート(約40分)の作成を課するので、自分の目からみて最も重要と思われる日本の教育の改革課題について執筆できるように、事前に準備しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	次の2つの平常点評価により成績評価を行う。 ・日常的な授業に対する取組状況等の評価 20% 第9回目の授業時に、自分の目からみて最も重要と思われる日本の教育の改革課題に関する小レポートの作成を「小テスト」(約40分)として課すことにより、日常的な授業に対する取組状況の一端を評価する。 ・学習到達度の最終的な「確認テスト」 80% ①国際的な視点から教育の諸問題を考えるための基本的な考え方や用語を理解できるかどうか、および②出題する特定のテーマについて幅広い視点から論じることができるかどうかを、第15回目の授業時に実施する「確認テスト」(60分)の結果により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に質問や意見などを積極的に発信することを希望する。

教科書 / Textbooks

とくに指定しないが、各回の授業で紹介する論文等は主に下記の参考書から採用する。第15回目の確認テスト(60分)では授業で講義した内容にもとづいて出題する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎教育学	江原武一・山崎高哉編著 / 放送大学教育振興会 / 4-595-30704-1 / 2007年刊
新訂 学校臨床社会学	酒井朗編著 / 放送大学教育振興会 / 4-595-13512-5 / 2007年刊
教育の比較社会学	原清治・山内乾史・杉本均編 / 学文社 / 4-7620-1287-4 / 2004年刊

各回の授業で紹介する論文等は主に上記の参考書から採用する。参考書所収の他の章や引用文献、参考文献を参考にして、自分が関心のあるテーマについて必要な情報を入手することができる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・日本比較教育学会HP <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jces/index.html> (『比較・国際教育情報データベース(略称:RICE)』にアクセスすると、日本における比較教育学および国際機関・世界各国の教育に関する文献・資料の概要を含む教育情報を入手することができる。)
- ・立命館大学図書館 <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/index.html> (情報検索「データベース」→アルファベット順「C」→論文・記事検索「データベース」→CiNiiにアクセスすると、国内で刊行された人文社会系の雑誌記事、学術雑誌などの記事検索を行うことができる。)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インタラクティブシート / Interactive Sheet

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

E-mail: ehara@fc.ritsumeai.ac.jp または電話:075-466-3479、内線:(511-)3826

個人研究室:立命館大学衣笠キャンパス・尚学館2階826室

個人研究室での面談を希望する場合は、上記のE-メールまたは電話や内線電話により面談の日時を調整する。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZE) § 特殊講義(基礎)II(ZE) § 特殊講義(基礎)I(ZE) § 特殊講義(自由
選択)II(ZE)

16783

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

★

【世界の教育改革・日本の教育改革】

日本をはじめ、世界の多くの国々には現在、さまざまな教育改革が同時進行の形で進められている。この授業では、幼児教育から生涯学習までの教育システム、それから才能教育、いじめ問題、教師教育、国際教育協力、国際的な教育流動などをめぐる国際的な改革動向を整理し、欧米諸国やアジア諸国における対応について学ぶとともに、今後の日本の教育改革の方向とあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際比較の視点から教育改革について考えるための基本的な方法や手法、用語などを理解し、活用することができる(知識)。
- ・比較教育的な知見と自分自身の個人的な教育経験をふまえて、日本の教育改革の方向とあり方を幅広い視点から論じることができる(価値観・思考)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション:教育改革の国際比較	ガイダンス、授業の到達目標・進め方・成績評価方法など、各回の授業概要
第2回目	幼児教育・保育のユニバーサル化	幼保一元化、アクセス性、質保証、就学準備、発達保障
第3回目	教育システムの変容	公教育改革、システムの弾力化、義務教育の多様化、国民教育
第4回目	才能教育の展望	才能児、早修、拡充、飛び級、飛び入学、高大接続、エリート教育
第5回目	いじめ問題の国際比較	教育病理、bullying、ゼロ・トレランス方式、ワン・タ、サイバーいじめ
第6回目	公教育と価値教育	公教育、価値教育、多文化社会、市民性教育、宗教教育
第7回目	教師教育の高度化	教員養成、高度化、専門職化、教職大学院、教員研修
第8回目	高等教育改革の方向	知識基盤社会、高等教育、量的拡大、多様化、大学の自律性、質保証
第9回目	中間的考察:まとめと討論	教育改革、共通性、個別性、社会のグローバル化、将来構想
第10回目	生涯学習の展開	生涯学習、リカレント教育、学習社会、生涯教育、学校教育
第11回目	国際学力調査の課題	学力調査、PISA、TIMSS、リテラシー、到達度、ゆとり教育
第12回目	進展する国際教育協力	教育格差、万人のための教育、教育の地方分権化、発展途上国への教育支援
第13回目	国際的な教育流動	トランスナショナル教育、外国人留学生、海外留学、外国大学分校
第14回目	日本の教育改革のゆくえ	国際比較、教育改革、教育システム、国際教育協力、教育流動
第15回目	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・各回の授業は特定の論文等の紹介を中心に行うので、事前に読んでおくことが望ましい。第1回目の授業時に論文名等を記載したシラバスを配布する。
- ・第9回目の授業時に、受講生が関心のある特定の国の教育改革に関する小レポート(約40分)の作成を課するので、自分が関心のある国の調べてみたい教育改革の課題や状況について執筆できるように、事前に準備しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	次の2つの平常点評価により成績評価を行う。 ・日常的な授業に対する取組状況等の評価 20% 第9回目の授業時に、受講生が関心のある特定の国の教育改革に関する小レポートの作成を「小テスト」(約40分)として課すことにより、日常的な授業に対する取組状況の一端を評価する。 ・学習到達度を最終的に確認する「確認テスト」80% ①国際比較の視点から教育改革について考えるための基本的な方法や手法、用語などを理解できるかどうか、および②出題する特定のテーマについて幅広い視点から論じることができるかどうかを、第15回目の授業時に実施する「確認テスト」(60分)の結果により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に質問や意見などを積極的に発信することを希望する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代教育改革論	江原武一・南部広孝編著 / 放送大学教育振興会 / 2011年刊
そのほか、必要に応じて、各回の授業に関連する論文等を紹介する。なお第15回目の確認テスト(60分)では授業で講義した内容にもとづいて出題する。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いじめとは何か	森田洋司 / 中央公論新社 / 9784121020666 / 2010年刊
新しい能力は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー	松下佳代編著 / ミネルヴァ書房 / 9784623058594 / 2010年刊
各回の授業で紹介する論文等は主に上記の教科書から採用する。教科書や参考書所収の引用文献、参考文献を参考にして、自分が関心のあるテーマについて必要な情報を入手することができる。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・日本比較教育学会HP <http://www.soc.nii.ac.jp/jces/index.html> (『比較・国際教育情報データベース(略称:RICE)』にアクセスすると、日本における比較教育学および国際機関・世界各国の教育に関する文献・資料の概要を含む教育情報を入手することができる。)
- ・立命館大学図書館 <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/index.html> (情報検索「データベース」→アルファベット順「C」→論文・記事検索「データベース」→CiNiiにアクセスすると、国内で刊行された人文社会系の雑誌記事、学術雑誌などの記事検索を行うことができる。)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インタラクティブシート / Interactive Sheet

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

E-mail: ehara@fc.ritsumeai.ac.jp または 075-466-3479、内線: (511-)3826

個人研究室: 立命館大学衣笠キャンパスの尚学館2階826室

個人研究室での面談を希望する場合は、上記のE-メールまたは内線電話により面談の日時を調整する。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZF) § 特殊講義(基礎)II(ZF) § 特殊講義(基礎)1(ZF) § 特殊講義(自由
選択)II(ZF)

20473

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

本授業では、変容しつつある現代の大学と、そこで成長し発達する学生の学びに関する基本的な理論や具体的な実践の検討を通じて、受講生自身が大学生活を設計するための視点を育むことを目的としています。

具体的には、大学の諸機能および今日的な課題、青年期に相当する大学生の発達課題、映画等に見る現代の青年・大学生像等についての解説を通して、受講生が自らの存在を発達の「可能態」として捉え、主体的に学習に取り組むための視点を培っていきます。また、ミニ演習や小レポートの作成によって、大学で求められる能動的な学びのスタイルや思考様式の獲得を促します。

個人およびグループでの作業に取り組むなかで、大学という高等教育機関の固有性についての理解を深め、大学における学習・研究活動に必要な基本的な方法と態度を身につけ、知的探求プロセスの面白さを追求します。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.現代の大学および学生を取り巻く状況や人間の発達に関する基本的な理論を理解し、青年期の大学生に固有な発達課題について説明できる。
- 2.大学生の学習・研究の基本的な方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を提示できる。
- 3.大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用する等の基礎的学習スキルを身につける。
- 4.大学での学びのルールを尊重し、多様(他大学・他分野・異年齢)な学生で構成される集団のなかで他者を理解し、共に学びあう雰囲気の醸成に貢献する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。ただし、初日の授業開始までに、指定する資料を必ず読み自分の意見をまとめておいて下さい。資料については、教務課を通じて後日配布します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション ※重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、受講生の紹介、授業の到達目標、毎回の授業概要、授業内外の学習課題、成績評価の基準と方法
2	現代の大学 / 外部環境の変化と今日的課題	ユニバーサル化、質保証、競争的環境、学習成果
3	青年期大学生の発達課題(1) / 人間の発達段階と課題	発達の可能態、発達課題、適時性、結晶性・流動性知能
4	青年期大学生の発達課題(2) / アイデンティティの形成	意欲、感情、無気力、自尊感情
5	青年期大学生の発達課題(3) / ミニ演習の発表と議論	発達過程の振り返り、影響要因の分析、自己理解、他者理解
6	現代の青年・大学生像(1) / 映画に描かれる青年像	人間理解、トラウマ、恋愛、メンター、自己表現
7	現代の青年・大学生像(2) / グループ演習と議論	自分と他者、進路決定、友人関係、自己有用感
8	大学生を取り巻く環境(1) / オンキャンパス	カリキュラムと単位、学習支援機能、コーチング、正課外活動
9	大学生を取り巻く環境(2) / オフキャンパス	地域社会での経験、アルバイト、ボランティア、インターンシップ
10	学生の変容を促す大学(1) / 学習の理論と方法	教授・学習過程、Surface Learning / Deep Learning、「一人思考」、リフレクション(内省)
11	学生の変容を促す大学(2) / 学習デザインの発想	強み / 弱み、ニーズ把握、キャリア展望、学習ポートフォリオ
12	学生の変容を促す大学(3) / おとなの学びへの移行	成人教育学(アンドラゴジー)、自己決定型学習、応用の即時性、経験の学習資源化
13	学生の変容を促す大学(4) / 研究への参画	アカデミックコミュニティ、学問的誠実性・倫理、研究者という専門職、地域社会への貢献
14	学生の変容を促す大学(5) / ミニ演習の発表と議論	大学の諸機能と学生、多様性の尊重、自己の相対化
15	まとめ / 大学生の発達と学びの探究をめぐる今日的課題	コミュニケーション、他者理解、共感、想像力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業を自分の問題関心に照らしながら聴くとともに、積極的な質問や文献検討、新聞記事や各種メディアからの情報収集等に努めてくだ

さい。とくに、関心あるテーマについて自主的に調べ、十分な授業外学習によって学習成果を高めてください。なお、授業後の学習課題(ミニ演習やミニレポート作成等)を課し、それに基づき翌日の授業を進める方式をとる日があります。積極的に取り組んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現代の大学および学生の学びの探究について、その日に取り上げたテーマに関して毎日1つ小レポート(A4判1~2枚程度)を課します(1日目:30点、2日目:30点、3日目最終レポート:40点)。 ①現代の大学および学生を取り巻く状況や人間の発達に関する基本的な理論を理解し、青年期の大学生に固有な発達課題について自分の言葉で説明されている、②大学生の学習・研究の方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を設定できている、③大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用等の基礎的学習スキルを身につけている、④大学および大学生の学びに関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していること、を基準とし評価を行います。

ミニ演習や発表などを行うため、最大20名とします。必ず全授業に出席できることを条件とします。自己責任において出席管理をしてください。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、大学横断・学部横断・異年齢で構成されるクラスにおいて受講生自身が協力して形づくっていく内容になっています。受動的な学びではなく、少人数クラスの利点を活かした応答の機会が多い双方向的な授業を行います。講義を聴いて内容を理解するだけでなく、グループでの議論や発表、ミニ演習に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、自分自身で掘り下げて考えてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大学生論:戦後大学生論の系譜をふまえて	溝上慎一編 / ナカニシヤ出版 / 4-88848-735-9 /
よくわかる青年心理学	白井利明編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04473-3 /
よくわかる学びの技法	田中共子編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-03775-9 /
現代青年期の心理学	溝上慎一 / 有斐閣 / 978-4-641-28120-2 C1311 /
教育から職業へのトランジション	山内乾史編著 / 東信堂 / 78-4-88713-838-4 /

この他、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
審議会報告・白書・最新情報などが提供されています。

(財)日本青少年研究所 <http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>
児童・生徒に関する各種調査結果や研究の成果などが提供されています。

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>
教育施策の判断・立案のもととなる研究を行っている機関です。研究活動の発表のほか、教育情報データ、刊行物、シンポジウムの案内などが掲載されています。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

基本的に、教員から受講生への連絡はコースツールで行います。随時チェックしてください。

また、休み時間にも簡単な質問を受け付けます。

緊急の連絡については、torii@fc.ritsumeai.ac.jpまでメールをすること。その際、所属大学・学部、学年、氏名を忘れずに明記してください。

その他 / Others

・障がいをもった学生の学習支援:障がいをもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。

・不正行為:大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正に伝えたり、他人の論文などを剽竊したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、大学の規則にそって対応します。

・受講のルール:他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては、履修を取り消すように求めることがあります。授業への遅刻、途中退出、私語や携帯電話・メールの使用など、他者の迷惑になるような行動をとらず、マナーを守ってください。皆が気持ちよく学べる環境づくりをしましょう。

特殊講義(地域参加活動入門)(G) § ヴィジョン形成特殊講義(地域参加活動入門)(P)

56723

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。

ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。

本講義では、地域参加活動へ誘う動機づけをおこなう。そして、活動に参加するための心構えを身につけることも目的としている。本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せず質問等を行ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

地域参加活動の意義・現状・課題を整理し、方法を学び、活動するための準備となることを目指している。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ゆたかな時代に(1):地域参加学習へのいざない～磨けば光る「私」	「石」
2	ゆたかな時代に(2):若者と地域参加～つながるチカラ・寄り添うチカラ	「風」
3	課題を探る(1):地域活性化の仕掛け	「場」
4	課題を探る(2):地域活性化の仕組み	「財」
5	課題を探る(3):地域活性化の見せ方	「伝」
6	課題を探る(4):地域活性化の仕込み	「知」
7	中間まとめ～個人から集団へ	「束」
8	地域参加型学習へのまなざし(1):地域を学ぶ「ツール」	「具」
9	地域参加型学習へのまなざし(2):地域で学ぶ「スキル」	「力」
10	地域参加型学習へのまなざし(3):地域と学ぶ「ソウル」	「魂」
11	地域人として生きる(1):多文化共生とソーシャル・インクルージョン	「弱」
12	地域人として生きる(2):大学ボランティアセンターとサービスマスラーニング	「接」
13	地域人として生きる(3):ソーシャル・イノベーションと社会的責任(SR)	「革」
14	地域人として生きる(4):コミュニケーションデザインとコミュニティ	「関」
15	まとめ～「人は、あなたに会って、わたしになる」	「共」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義内では地域の各種イベント等を紹介する。ぜひ、積極的に足を運び、感じる事、出会う事、考える事に対して誠実にあって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小レポート(4回・各10点)・最終レポート(60点)

上記のとおり4つに分けられたテーマ毎に小レポートを課し、最終レポートとあわせて総合的に評価する。逐次与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネットからの剽窃はないか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では基本的にレクチャーを中心とした授業スタイルとなるが、できるだけ学生の授業参加があるよう、工夫していきたい(質問用紙の配布、演習形式の取り入れ、Twitterの活用など)。それらに対する積極的な姿勢を望みたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コミュニティを問いなおす—つながり・都市・日本の未来	広井良典 / 筑摩書房(ちくま新書) / 4480065016 / 社会の動向に広い視点を向ける
地域を活かすつながりのデザイン—大阪・上町台地の現場から	上町台地コミュニティデザイン研究会 / 創元社 / 4422250558 / 地域に根ざした活動の知恵を実践から見出す

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.google.co.jp>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インタラクティブシート / Interactive Sheet

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

「web-コースツール」をはじめ「インタラクティブシート」等を活用しつつ、「学生との直接対話」を重視し、受講生間のコミュニケーションを豊かに重ねていきたい。

その他 / Others

講義担当者の若者とボランティアに対する基本的な捉え方は、国際ボランティア学会の学会誌「ボランティア学研究」の第9号に「自分探しの時代に承認欲求を満たす若者のボランティア活動：先駆的活動における社会参加と社会変革の相即を図る「半返し縫い」モデルの提案」としてまとめている。必要に応じて講義内で紹介する。

特殊講義(ドキュメンタリー・環境と生命)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(ドキュメンタリー・環境と生命)(GA)

15615

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いま、環境と生命に関わる問題は人々から大きな関心をもたれているテーマである。

この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から選んだ9本を教材にして、全員で感想・意見を交換する。これにより、自分の考えをまとめる力と自分の意見を人に伝える力をつける。

さらに、ドキュメンタリーに関連する課題研究を設定してグループ研究を行い、その成果を教室で発表し、クラスメイトとQ&Aを行うことにより、グループ研究の仕方を身につけ、プレゼンテーションとディスカッションの力をつける。

また、学部・回生の異なるクラスメイトと一緒に受講することにより、異なる視点からのものの見方・考え方を理解できるようになる。

この授業では、受講生の自主的・能動的な学習と授業への参加を歓迎し、自ら学んだという実感を得てもらいたい。

●授業内容・授業計画の概要

第1回～第9回の授業では毎回1本(30分～50分程度)の環境と生命に関連するテレビ・ドキュメンタリーを教材として鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、多岐に渡っている。毎年一部を入れ替えるが、昨年取り上げた作品は、猟師が教える命の食べ方、耐震偽装事件、松枯れ対策、ホームレス支援、誕生の風景、黒人差別と授業、ハンセン病患者、世界各国の家族、中村哲さんなどである。今回の確定版は第1回の授業で発表する。

なお、途中で1回だけ、ドキュメンタリーに登場する金正美さんをゲストに迎え、本人の話をあわせて聞く機会を設ける。

第1回から第9回のドキュメンタリーについては、各自感想や意見を400字程度にまとめ、授業後、コースツールに書き込む。翌週の出席時に、最も良かったと思う書き込みを投票し、最多得票者を称える。

また、第9回までの授業と並行して、ドキュメンタリーに関連した課題研究をグループで行う。グループは各自の関心を尊重しながら5～6人程度になるように調整する。第2回から第9回の授業の後半では、グループワークも行う。教員は各グループを順次回り、グループ研究の指導と相談を行う。

第10回からは、グループ研究の発表を中心に授業を進める。発表はグループの全員で行い、司会・進行も学生が行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題かを理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリーに対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・グループ研究ができるようになる。
- ・所定の時間で発表ができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリー1、授業の進め方、グループ分け	
第2回	ドキュメンタリー2、グループ・ミーティング	
第3回	ドキュメンタリー3、グループ・ミーティング	
第4回	ドキュメンタリー4、グループ・ミーティング	
第5回	ドキュメンタリー5、グループ・ミーティング	
第6回	ドキュメンタリー6、ゲスト:ドキュメンタリーに出た金正美さんのお話を聞く	
第7回	ドキュメンタリー7、グループ・ミーティング	
第8回	ドキュメンタリー8、グループ・ミーティング	
第9回	ドキュメンタリー9、グループ・ミーティング	
第10回	第1班と第2班のグループ研究発表とQ&A	
第11回	第3班と第4班のグループ研究発表とQ&A	
第12回	第5班と第6班のグループ研究発表とQ&A	
第13回	第7班と第8班のグループ研究発表とQ&A	
第14回	第9班と第10班のグループ研究発表とQ&A	
第15回	授業の振り返りとまとめ(グループ・ミーティングと全員スピーチ)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・授業後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。

- ・グループ研究に関する情報や資料をグループのメンバーで分担協力して調べる。
- ・授業終了までに下記の課題レポートをコースツールに提出する。
授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から環境と生命に関する1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400~600字)をまとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコースツールへの読み書きとその評価を50%、ドキュメンタリーの要約(各自1回)の評価を5%、グループ研究に関する評価を25%(グループ研究への貢献度、グループ発表に対する受講生の相互評価、Q&Aへの参加度等)、課題レポートを20%とする。

* 原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたっては、コースツールの読み書きができること、インターネットで情報検索ができることが必要である。これらは受講の条件なので、開講までにできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

ドキュメンタリーの参考資料は当日プリントにして配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

「生命環境系の週間テレビ予報 on the Web」 <http://homepage2.nifty.com/yukidon/>
その他、必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インタラクティブシート / Interactive Sheet
Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)
学生との直接対話 / Talk with Students
skino@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

受講生の定員は80人とする。

特殊講義(ピア・サポート論)(GA)

14062

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっています。また、ピア・サポートを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせません。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込みます。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とします。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポート志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものになります。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション ※重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣、教育的コミュニケーションとは
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められるカーオーディエンス教育ー
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	相手を意欲的にするカーほめ言葉ー
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分も相手も大切にしたい対応を行うカーアサーションー
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	自分を魅力的に見せるカー無言面接ー
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	相手の立場になって情報を伝えるカートラストワークー
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理するカー強制連結法ー
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化するカーフォトランゲージー
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	解決策を提案するカー目的分析ー
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	発展演習ーマイクロプレゼンテーションー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢を求めます。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められます。さらに、本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望まれます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	本授業において学習したピア・サポートに関する理論やワークを通じて、自分自身が何を学んだか、自分がどう変わったかについて、A4二枚程度のレポートを課します。

平常点評価 60 % 毎回の授業の終わりにその日のテーマに関してミニペーパー(400~500字程度、4点×15回)を課します。授業で検討したテーマに関して興味関心を持ち、学んだことがらを客観的に見つめる態度を示していることが評価の基準となります。なお、ミニペーパーへのQRコードの貼り忘れは1点減点としますので注意してください。

いわゆる「出席点」の加点は行いません。

毎回のミニペーパーの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とします。この点については第1回目の授業で詳しく説明します。なお、ミニペーパーにはQRコードを必ず添付してください。授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにしますので、授業時間外に確認して自習してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行います。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行います。恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでください。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングです。グループ演習では他の受講生に迷惑がかからないよう、遅刻をしないようにしてください。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志願者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してください。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしません。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入してください。購入が遅れると、店頭での入手が難しくなるので注意すること。その他必要な資料は適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
格差社会 何が問題なのか	橋本俊昭 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
論文の教室	戸田山和久 / NHK Books / 4-14-001954-9 C1395 /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

torii@fc.ritsumei.ac.jp、研究室は、尚学館2F 825号室

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

担当者名 / Instructor 川那部 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっています。また、ピア・サポートを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせません。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込みます。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とします。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポート志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものになります。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション ※重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣、教育的コミュニケーションとは
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められるカーオーディエンス教育ー
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	相手を意欲的にするカーほめ言葉ー
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分も相手も大切にしたい対応を行うカーアサーションー
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	自分を魅力的に見せるカー無言面接ー
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	相手の立場になって情報を伝えるカートラストワークー
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理するカー強制連結法ー
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化するカーフォトランゲージー
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	解決策を提案するカー目的分析ー
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	発展演習ーマイクロプレゼンテーションー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢を求めます。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められます。さらに、本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望まれます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4二枚程度のレポートを課します。
平常点評価	60 %	各回の授業に関するミニペーパーを中心に、授業への参加度などで評価します。

毎回のミニペーパーの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とします。この

点については第1回目の授業で詳しく説明します。なお、ミニペーパーにはQRコードを必ず添付してください。授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにしますので、授業時間外に確認して自習してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行います。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行います。恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでください。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングです。グループ演習では他の受講生に迷惑がかからないよう、遅刻をしないようにしてください。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してください。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしません。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入してください。購入が遅れると、店頭での入手が難しくなるので注意すること。その他必要な資料は適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
格差社会 何が問題なのか	橋本俊昭 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
論文の教室	戸田山和久 / NHK Books / 4-14-001954-9 C1395 /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

Web - コースツール / Web Course Tool (Blackboard system)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義 (ピア・サポート論) (GC)

11122

担当者名 / Instructor 林 泰子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポートを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポート志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められるカーオーディエンス教育ー
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	受容的に聴くカーイヌバラ法ー
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	自分も相手も大切にしたい対応を行うカーアサーションー
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	道徳的に判断するカーコールバグー
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けないカーディベートー
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	話を盛り上げ効果的に伝えるカーハンドジェスチャーー
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	自分の情報を整理するカー強制連結法ー
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	解決策を提案するカー目的分析ー
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	発展演習ーマイクロプレゼンテーションー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。 (4点×15回=60点)

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにする場合もあるので、常時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポートのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学』	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術』	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
『階層化日本と教育危機』	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
『不平等社会日本』	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
『「学び」から逃走する子どもたち』	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
『下流社会』	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
『就職がこわい』	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
『他人を見下す若者たち』	速水敏彦 / 講談社 / 4-06-149827-4 C0211 /
『「学力低下」の実態』	荻谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
『二十歳の原点』	高野悦子 / 新潮社 / /

『格差時代を生き抜く教育』 寺脇研 KTC中央出版 4-87758-506-0 C0037

『格差社会 何が問題なのか』 橋本俊詔 岩波新書 4-00-431033-4 C0233

『学力を育てる』 志水宏吉 岩波新書 4-00-430978-6 C0237

●上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

研究室は衣笠キャンパス至徳館4階、教育開発支援課横

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

担当者名 / Instructor 岡田 有司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、大学で学ぶために必要な「受信・思考・発信の力」、すなわち「文章や資料等を読み解く力」や「思考力」「論証能力」「発想力」、そして「文章表現力」「文章作成力」の基礎を身につけることを目標とする。そのために、さまざまな文章等を教材にして、読解の方法や思考の型、文章作成の技法等を段階的・体系的に学習する。また、書き込みプリント等を使った基礎的な演習もおこなう。

さらに、「問いの立て方」と、「問いの解決の仕方」についても学ぶ。すなわち、「課題を設定し、解決していく」基礎を身につけ、主体的に学ぶ作法を知る。「自ら学ぶ」という主体的な営みは「問う」ことから始まり、未知なる世界は「問う」ことなしに扉が開かれることはないからである。

なお、毎回、受講生は授業の最後に授業の理解度・疑問点・授業評価とともに授業内容に関して100～200字程度の文章を書いて提出する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「読むこと」「考えること」「書くこと」について理解し、そのアプローチの方法を身につける。(知識・理解)
- ②身につけた読解のスキルや思考の型、表現の技法や「問い」の方法を駆使して、自らの主張を効果的に表現できる。(技能・表現)
- ③自らテーマを見つけ、意欲的に読み・考え、書くことができる。(意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学びの基礎	講座の目標や内容を概説 / 大学での学びについて / 講義の聴き方 / 視写・聴写・メモ作成・ノートテイキング
2	読みの基本 / パラグラフ・リーディング(「論理」を読む)①	論理的文章の読み方(6つのポイント) / 主題文と支援文 / 論理展開の基本4パターン
3	読みの基本 / パラグラフ・リーディング(「論理」を読む)②	論理的文章の構成 / トピックセンテンス / 指示語と具体例 / 二項対立 / 要約の仕方
4	「問い」の立て方・発見の方法①	問うこと・疑問を持つこと / 疑問形をテーマに(基本形3種) / 「発見」「発明」の方法
5	「問い」の立て方・発見の方法②	クリティカル・シンキング / 反論・ツッコミ / 反論の意義
6	「問い」から「答え」へ・構造化の方法①	「問い」と「答え」 / アウトラインの立て方 / 仮説・提案
7	「問い」から「答え」へ・構造化の方法②	トゥルーマン・モデル / 根拠 / 発想法 / 論証の構造化
8	「調べる」ことと「判断する」こと	剽窃と引用 / 1次データ / 資料や文献の探し方 / データ収集 / 情報の選択
9	データや図・表・グラフの読み方	文字・数値データ ⇔ 図・表・グラフ / モードチェンジ
10	中間まとめの作成	アウトラインの作成 / ポスターセッションの意義
11	チェック・点検	方法と意義 / 反論・つっこみ / 批評
12	発表の方法	レポート / 論文 / 小論文 / プレゼンテーション / コミュニケーション
13	わかりやすい文章とは・文章の作法①	わかりやすい文章の作法 / うまい文章の条件
14	わかりやすい文章とは・文章の作法②	説明の方法 / パラグラフの構造・作り方
15	レポートの実際と推敲	実際の文章作成 / 推敲のポイント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2/3以上の出席で評価の対象とする。 欠席は減点対象。 毎回の授業の提出課題を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大学での主体的学びを身につけ、普段の学習の中から課題を見つけて、学びを深めていくきっかけとする講義です。よって、特別な知識やスキルは必要としませんが、大学での学びを充実したものにしたいという意欲を求めます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フレッシュマンセミナーテキスト	初年次教育テキスト編集委員会 / 東京電機大学出版局 / 978-4-501-62460-6 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック	二通信子他 / 東京大学出版会 / 978-4-13-082016-5 / レポート・論文作成のための辞書と参考書の役割を果たす本。事例も豊富で、レポート・論文を書くときの「座右の書」。
論文の教室	戸田山和久 / 日本放送出版協会 / 978-4-14-001954-2 / 論文のアウトラインの作り方が丁寧に紹介させている。
新版大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康 / 講談社 / 978-4-06-288021-3 / レポート・論文の基本ルールや文献・資料の集め方が分かりやすく書かれている。
・レポートの組み立て方	木下是雄 / 筑摩書房 / 4-480-08121-6 / 目標規定文・構成・パラグラフ等、論理的な文章を書くための重要な要素が満載されている。
自己表現力の教室	荒木晶子他 / 情報センター出版局 / 4-7958-3132-7 / 話し方・書き方の具体的なコツが読み物で分かる好著。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

担当者名 / Instructor 秋田 典昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、アカデミックライティングの導入篇と位置づけられるものである。アカデミックライティングとは、文章作成の方法である。だが、単なる論文の書き方のテクニックを学んだとしても、アカデミックライティングが直ちに可能となるわけではない。それは、テーマに深く切り込むための様々な思考法や分析方法、データ・資料の収集方法などの能動の核となるものがあることによつて、初めて可能となるからである。

本演習では、このような立場から、高校までの作文や感想文の類とは明らかな違いがある大学でのレポートや小論文の書き方における基本構造を学ぶことをねらいとするものである。

また、本演習ではTAの活用を図り、グループによるワークショップも取り入れながらアカデミックライティングの一層の効果的な学びを図る。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①アカデミックライティングの基本構造について理解できる。(知識・理解)
- ②様々な思考のスキルを用いながらデータや資料を読み取ることができる。(技能)
- ③集めた資料やデータを基に小論文を書く喜びを味わうことができる。(表現)
- ④自身の関心に即して文献や資料の収集を行うことができる。(関心・意欲)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	データや資料読み取りのスキルとその演習(その1)	図や表、グラフ、文章から何を読み取るか、何が読み取れるか
第2回目	データや資料読み取りのスキルとその演習(その2)	文章を図解し、分かりやすく説明
第3回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その1)	多面的思考と二面的思考 因果関係と結果分析 演繹法と帰納法
第4回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その2)	フィンランドメソッドのカルタ思考法 カード型ブレインストーミング法 KJ法 フィッシュボーン思考法
第5回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その3)	NM法 MECE法 創造的思考法 論理的思考とは何か
第6回目	文献を読むスキルとその演習(その1)	読みの第1ステップ-文献の選択 読みの第2ステップ-スキミング&スキニング
第7回目	文献を読むスキルとその演習(その2)	読みの第3ステップ-内容の要点をつかむ 読みの第4ステップ-精読 クリティカル・リーディング
第8回目	文献を読むスキルとその演習(その3) 資料や情報収集・作成のスキルとその演習	読みの第5ステップ-結論を読み取る・理由を読み取る 百科事典・辞書類の活用 図書館の活用 インターネットによる文献検索 情報の吟味 データの捏造
第9回目	小論文執筆のスキルとその方法(その1)	小論文とは何か 文体 構成 注のつけ方 引用の仕方 参考文献リストの書き方 著作権とモラル コピペ
第10回目	小論文執筆のスキルとその方法(その2)	テーマの選択 先行論文を読む テーマに沿った資料・データの収集
第11回目	小論文執筆のスキルとその方法(その3)	テーマをどう絞るか 「型」で書く方法とその演習
第12回目	小論文執筆のスキルとその方法(その4)	第1次小論文の提示と相互修正
第13回目	第2次小論文の提示 発表・プレゼンテーションのスキル	第2次小論文の相互修正 プレゼンテーションとは パワーポイントの作成
第14回目	第3次小論文の提示とプレゼンテーションの準備	第3次小論文の相互修正 推敲と加筆 資料の追加 パワーポイントの補足・修正
第15回目	最終版小論文の提示とプレゼンテーション	講評 各自の到達点と課題のフィードバック

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点評価(15回の授業中に課す課題提出物の内容、作成した小論文やパワーポイント、プレゼンテーションなどの内容を総合的に評価する) ・三分の二以上の出席を有効評価の基礎条件とする。 ・課題の提出はメール添付、紙媒体などの方法で行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ロジカル・シンキングー論理的な思考と構成のスキル	照屋華子・岡田恵子 / 東洋経済新報社 / 978-4-492-53112-9 /
実践ロジカル・シンキング入門ー日本語論理トレーニング	野内良三 / 大修館書店 / 4-469-21276-8 /
図説・現代哲学で考える〈表現・テキスト・解釈〉 (京大人気講義シリーズ)	宮原勇 / 丸善株式会社 / 4-621-07403-2 /
情報のみかた	山田奨治 / 弘文堂 / 4-335-55102-9 /
問題解決手法の知識(日経文庫)	高橋誠 / 日本経済新聞出版社 / 978-4-532-01341-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

研究室:衣笠修学館4F423

メール:nat21151@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others